はげまし

題　　号　はげまし　第61号
発 行 人　髙橋　繁
発 行 所　社団法人機動隊員等を励ます会
東京都中央区八重洲2-4-14
〒104　ミツヤビル3階
発行定日　毎月一回　25日発行
発行年月日　昭和54年6月25日発行
認可年月日　昭和51年7月9日　第三種郵便物認可
購 読 料　一月　100円（年間1,200円）送料共

わが隊のワンポイントPR

広島県警機動隊
板岡千城隊長

当隊は「隊員が抱擁いで、"若さの機動隊"」を自認している。それには体力的にも精神的にも若さを保持することが肝要で、夏には全六キロの比婆山を毎年実施している。

「なごやかに、穏やかに、さわやかに」を目標に全隊員が一つになって重下の治安維持等に努力している。

間近に迫った重要警備に緊張みなぎる

機動隊創設記念観閲式実施さる

警視庁機動隊が創設されて今年で三十一年を迎えた。この間、かずかずの重要警備での実績を背景に市民の信頼を深め、治安維持に機動隊は欠くことのできないものとして位置づけられてきた。しかし、このような高い評価を得るに至った三十一年の歴史は、それぞれの時代に生きてきたひとりひとりの隊員達の自覚と正義への情熱があったからにほかならない。

東京サミットを間近に控えた去る五月二十五日早朝、東京・明治神宮絵画館前において警視庁機動隊創設記念観閲式が挙行されたが、ここでも隊員達の意気と情熱がひしひしと肌で感じられた。当会からは大内理事長をはじめ世話人が来賓として出席し設立記念を祝った。

式典当日は、折り悪く雨霧が低く垂れ込め、いまにも泣き出しそうな雲行きであった。

式のはじまる約三〇分前の六時三〇分には、武場周辺には機子を聞きつけ、朝野球に興じていた人々、ランニング途中の人々そして出勤途中の人々などが多数つめかけ、式のはじまるのを待った。

観閲式は、一般部隊、新しく加わった「サミット警護部隊」を含む特科部隊、車両部隊など、警視庁の総力を結集して行なわれ、緊張にあふれ、意気高いものであった。そして厳しい情勢に対処しうる機動隊の訓練成果と充実した警備力を顕示し、部隊査閲、分裂行進の二点を中心に行なわれた。

いよいよ式が開始される。阿部賢一都公安委員長の臨場につづき、七時ちょうど観閲官・国島文彦警視総監が臨場、儀じょう隊栄誉礼、国旗掲揚等などが行なわれ、部隊査閲へと移っていった。

先導車に続き、観閲官が十数台のオープンカーを従えて第一機動隊から特科車両隊までの一般部隊を皮切りに、今年新たに編成されたサミット警護部隊、そして特殊警備部隊、婦警特別機動隊、レンジャー部隊、爆発物処理部隊等の特科部隊、さらにクセノン投光車、警備放水車、バス型輸送車等を擁する車両部隊を順次査閲した。

さて、査閲が終ると分裂行進が開始される。一瞬、緊張とも、熱気ともとれる空気が流れる。

静寂を破って儀じょう隊が奏でるマーチが流れると、一般徒歩部隊から行進がはじまった。

先頭を切って進むのは第一機動隊。一糸乱れぬ歩調で観閲台にさしかかる、台上の警視総監に対し一斉に敬礼、胸を張り、堂々と行進するその姿は、まさに首都をまかせるに足る威容である。そして第二機動隊から特科車両隊までの全一〇個隊の行進が終る。

さて、次は特科部隊。今年編成したばかりの「サミット警護部隊」が衆目を集めて入場する。基幹隊員約一五〇名、婦人警察官二〇名、計一七〇名が私服をまとい、目前に迫った警備に臨むかのようにその眼は緊張に満ちていた。

続いて婦人警官特別機動隊隊の列がすすむ、どの顔もやさしさの中に、りりしさと凛さをみせ、頼もしささえうかがえる。

この後には、治安警備部隊、災害救助部隊、水難救助部隊、レンジャー部隊、爆発物処理部隊等が、それぞれの隊の特務に合った出動服で行進する。いずれの部隊も力強く、整然とした行進であった。

特科部隊の殿後を飾ったのは車両部隊。警備車両、特殊車両など数十台が堂々の入場である。まさに警視庁警備力の威容をまざまざと見せつける分裂行進であった。

この後、式は観閲官訓示に移った。「東京サミットを間近に控え、今、警視庁の警備力は今やその本当の能力を問われるところである。一致団結して警備を無事成功させるべく万全を尽くそう」と訓示、これを聞く隊員達の眼には強い決意がありありとうかがえた。

そして最後に、全参加部隊による「出動の歌」を合唱し、国旗降納が行なわれ、式は静かに幕を降ろした。

警備事象が複雑化する中にあって、どのような事態にも対処でき、力と技、そして英知を備えた機動隊であることが要求される。この日の式を見る限り、これらの期待に十分応えられるものであることは沿道に集った数多くの市民が感じ取ったことだろう。

分裂行進の際、これを見守る警察学校の生徒達――明日の機動隊を背負うであろう彼らの目の輝きが印象的なこの日の式典であった。

今月のことば

新しい不変の倫理の確立

本紙が読者のお手もとにとどくころには、サミット会談も終りを告げ、機動隊をはじめ、警備関係の皆さんは、さぞかしほっと一息というところに違いない。

本当にご苦労さまでございました。

VIP一人の警護でも大ごとなのに、七人ものVIP中のVIPの警備のご苦労は察するに余りある。

ハイジャック、要人誘拐、テロ行為などは、最近世界のどこでも、さして珍しいできごとではなくなってしまった。これらはまさに犯罪以外の何ものでもないが、犯人等には犯罪者の自覚はまったくない。正義の戦いか何かであるように思い込んでいるのである。

このような型の犯罪の頻発は、ここ十年ほどの間にとくに顕著である。近代になってからも、個人的動機によらないテロ事件は決して少なくないが、それをなす人間は、文字通り必死の覚悟で決行し、その後の身の安全のことなどは度外視するというていのものであった。ところが現代のこの種の事件の犯人たちはもっぱら計算づくである。ひどいのは国を脅迫して、思い通りにしたりする。自分たちが大変なことをしているという悲壮感がさらになく、何かゲロリとした感じ、まさしく天をおそれぬ、という感じなのである。

何故、こういう人間が出てくるようになったのであろうか。教育の欠陥にこれの原因を求めるのはたやすい。しかし、問題はそれほど単純ではないのである。人の生命さえ試験管から生み出されようという時代である。何か絶対の尺度、ゆるぎのない価値観といったものを人間社会全体が見失ないつつあるのではないかという気がする。

技術の飛躍的な進歩に見合った、新しいしかも不変の人間の倫理といったものの確立こそ、現代人にとっての課題ではあるまいか。

明鋼材㈱
大内俊司
奥村武正
㈱小沢製線所
高周波熱錬㈱
杉尾栄俊
鈴木実
田島鋼材㈱
知多金属工業㈱
丸定産業㈱
南保夫

機動隊員の皆様のご健康とご活躍を祈願します。

日本リーグ二部入りが最終目標

警視庁サッカー部（第五機動隊）を訪ねて

警視庁にサッカー部が結成されて今年で11年目。部員の数こそ二三名とそれほど多くはありませんが、そこは名だたる精鋭部員でカバーしているようです。同チームは、現在関東サッカーリーグに加盟しており、そのリーグ戦の真只中で、練習に励む部員の熱気がひしひしと伝わる中でレポートします。

このレポートのため訪れた警視庁第五機動隊のサッカー部は新宿区市ヶ谷本村町にあります。東京サミットの開催日が近づくに連れ、お仕事も一段と多忙をきわめ、加えて目下第十三回関東サッカーリーグの別催中とあり、息つく間もないほどといいます。

私が訪れたときも前夜からの警備実施明けで、そのまま練習と聞かされ、本当に驚嘆させられました。

あいにくの小雨模様で、屋外での練習はできませんが、道場での練習に汗を流していました。その中から脇坂監督に指命されてインタビューに応じていただいた方を紹介しますと、木村キャプテンと遠藤さん、牧野さん、海北さんの四部員です。

木村キャプテンによりますと、現在、二三名の部員を擁し、その平均年齢は約二十三才、関東社会人リーグに加盟して今年で六年目、個人プレーとチームプレーの和が同チームの特徴とのことです。団体競技において、個人プレーの介入の余地があると、そのほうへ走りがちなチームメイトができてきそうな感じもしますが、監督、コーチ、キャプテンの一貫した方針、方法、指導によりチームプレーをゆるぎないものにしているようです。

"蹴球"というように、ボールを足で蹴りながら進めるスポーツは特異な感が否めませんが、そのサッカーの面白味を各部員にお聞きすると、足の動きも、練習によっては手と同様にコントロールできる点にあるといいます。

それにしてもあの広いグラウンドで行なわれるサッカーは、一試合で多い人は15km、平均7～8kmは走るそうです。それだけに、日頃の練習により技術、スタミナの両面を身につけなければならないと思いますが、その練習場にこと欠くのが最大の悩み、とは木村キャプテン。それでも自力でAリーグから関東社会人リーグに加盟を勝ち得た同チームの今後の活躍が期待されます。

機動隊員の士気高揚に一役

中国支部総会で気勢をあげる会員

さる六月六日、広島市比治山本町にある広島市社会福祉会館において㈱機動隊員等を励ます会中国支部総会ならびに懇親会が行なわれた。迎えて三回目である。会場には機動隊員・会員を合わせて約二五〇名が集まり、和やかな雰囲気で終始したものの、一方では、機動隊員等に対して今後はさらに幅広い支援・激励を推進するという会員のコンセンサスを得、同支部のますますの活躍が期待される。

会場に設けられた前壇の後手に、"機動隊員等を励ます会中国支部総会"のたれ幕と国旗が、これから行なわれる同総会に一層の重味を加えるかのように映えている。すでに場内には会員の機動隊員等を励ます熱気で溢れ、その機動隊員等が入場して来るのを待つばかりである。

ややたって、板岡広島県警機動隊長を先頭に、並居る会員らの拍手に迎えられながら機動隊員の面々が日頃の出動服を清楚なスーツに替えて会場入りとなった。

頃合をみはからって柳本同支部世話人が開会の挨拶を述べ、総会がはじまった。

総会は、まず中国支部の世話人を代表して増西春三氏が登壇し、この日の総会開催の意義を述べるとともに、要旨次のように挨拶した。

「めでたく三回目の総会を迎えられたその陰には、大内理事長の卓越したご指導により着実に支部発展を遂げた賜ものであり、現在約五四〇名の所属会員を擁するまでになっている。

三菱銀行強盗事件、派出所襲撃事件等の頻発する今日、首尾よく処理されているのは機動隊員のご努力の賜ものと厚く感謝している。来たる東京サミットの応援警備は、是非頑張ってください。」

続いて来賓挨拶として生野英吉中国管区警察局長、橘逸夫広島県警察本部長の順に登壇、こもごも同支部総会への祝辞を述べた。

総会のしめくくりに大内俊司理事長が乾杯の音頭をとり歓事に終了、懇親会へと移った。

社会を護る両輪のきずな

隊員、会員の両者が打ちとけあうのに長くはかからなかった。各テーブルには両者がアトランダムに着き、抽触れ合うちにごく自然に談笑の輪が作られていく。

やがて、隊員・会員が入り混じってのアトラクションがはじまり、懇親会もたけなわとなった。

謡るものと謡られるもの、励ますものと励まされるものが一つのテーブルに付き二献を交わし、語り合うちに新らたな決意が生まれる。そこに懇親会の大きな意義を見出すとしても決して誤りではあるまい。事実、結果として両者の新たな決意を生んだ同懇親会であったことを両者の表情に読みとることができた。

機動隊員の活躍は、社会がある限り、人が存続する限り一つ治安に限らず、救助活動に警海警護にと、大いに期待されている。その機動隊員の諸兄が、活動しやすい土壌を作り、正しく理解することが国民の良心であろう。その意味でも今回の総会および懇親会は格好の舞台となったに違いない。

告知板

●第三回通常総会ならびに懇親会のお知らせ

前号の本紙紙上にてそのあらましお知らせしました第三回通常総会ならびに懇親会の詳細が左記の通り決まりましたので、ご案内かたがお知らせします。会員各位は奮ってご出席されますようお願い申し上げます。

記

一、日時　昭和五十四年七月六日（金）
　　午後三時　より通常総会
　　午後三時四〇分より懇親会

二、場所　聖蔵門会館
　　東京都千代田区隼町一―一
　　電話　〇三（二六五）七六〇一

読者のひろば

社会にあるのではなくて自分の中にある

日本列島が梅雨に入る時期です。うっとうしい気候で、気持がめいる時でもあります。加えて前月のレジャーの名残りもあります。

人生の苦悩の大部分は、その原因が社会にあるのではなくて自分の中にあるという言葉があります。

それぞれの職場において受け持つ分担業務以外に臨時または飛込みの仕事があるものです。

ちょうど最近の絶滅状況のように実に流動的な面が多いものです。仕事に圧迫を感じたり、不明な点があれば、上司に教えを受け一つ一つ真剣に取り組んで片付けるしかありません。

この積み重ねの結果、知らず知らずのうちに能力を伸ばし、人格を作り上げていくものです。

どんな仕事にも艶と粘り（素直）が必要であります。

働く者にとってまず第一の条件は健康であることです。いかにも才能あり秀れた技能を持っていても病気がちで仕事を休んでばかりしていたのでは社会に寄与することはできません。

健康は自分のものなのですから日常の生活を規則正しく不節制を慎んで健康を守らなければなりません。

病に倒れたら本人はもちろんその家族は悲惨なものです。このように健康は私達の生活の基本です。

お互いに自分の体は自分で責任を持って守り、健康で明るく、毎日の生活に励もうではありませんか。

機動隊員の方々の毎日のご苦労は非常しがたいものがあります。

法と秩序の第一線に立たれ職務遂行のため、現代社会の変化の中で国民の平和と生命の安全を願い治安維持のため尽されています。

隊員の方々が居られこそ、国民が日頃安心して生活ができるものであり心から感謝の意を表する次第です。

機動隊員の皆様のご健康とご活躍を祈願します。

阿部商事㈱	川渕長一	木村政次	黒田一	三和鉄構建設㈱
中条鋼材㈱	中村是一	柏陽鋼機㈱	不動鋼板工業㈱	北越メタル㈱
村上益一				

わが隊のワンポイントPR

山口県警機動隊
藤井一吉隊長

「信・強・和」の規律のもとに、人命尊重を第一に諸警例に対処している。

省国から下ノ関まで、主要都市が新幹線に沿って延びがっており、守備範囲は広いが、自隊の精強部隊で首尾よく治めている。

十三年に亘る伝統を守りつつ強化させるため、全隊が一体となって努力している。

はげまし

題　　号　はげまし　第82号
発 行 人　高橋　繁
発 行 所　社団法人機動隊員等を励ます会
東京都中央区八重洲2-4-14
〒104　ミツヤビル3階
発行定日　毎月一回　25日発行
発行年月日　昭和54年7月25日発行
認可年月日　昭和51年7月9日　第三種郵便物認可
購 読 料　一月　100円（年間1,200円）送料共

足固めを終え 充実した活動を期待

三議案 そろって通過

——第三回　通常総会および懇親会——

さる七月六日、㈳機動隊員等を励ます会の第三回通常総会および懇親会が東京・千代田区にある半蔵門会館において、隊員・会員合わせて約三〇〇名を集めて盛大に行なわれた。

〝七夕総会〟となった第三回通常総会は、大内俊司理事長が定款により議長を努め、議長提案の五十四年度予算を含む三議案を満場一致でそろって通過させるなど、卓越した手腕を見せ、滞りなく閉会した。

また、ひき続き行なわれた懇親会の席上、同会に対し功績のあった方および功労者に対し、それぞれ表彰状、感謝状が贈られた。

七夕総会は、司会をつとめた鈴木　実氏の出席者が定数の定めた人員数に達し、総会が成立したことを告げ、続いて同総会の議長に大内俊司理事長を指名し、ほぼ定刻通りにはじまった。

この日の総会では、あらかじめ用意された議長提案の三議案の審議を中心に行なわれた。第一号議案として昭和五十三年度事業報告ならびに収支決算報告承認の件が上げられ、松田太刀雄担当理事から詳細な説明が加えられた後、議長が承認を求めたところ満場一致で承認され一件落着、続いて第二号議案の昭和五十四年度事業計画案ならびに収支予算案承認の件が審議された。松田理事の説明によると、五十四年度の主な事業計画案は、①組織の強化　②普及啓蒙事業　③弔慰事業　④慰問激励事業　⑤援助事業　の五本柱を骨子とした積極的な事業計画の展開が見られる。

とくに第一項の組織の強化において、会費の未納や脱会が散見されることを重視し、現在行なわれているグループ造りによる連帯の強化を一層強力に推進していく構えである。また、第四項の慰問激励事業では、東京サミットや成田空港の第二期拡張工事着工など事案が山積みになっている折、これらの警備活動に当る機動隊員が無事にその任務を遂行できるよう積極的に激励するのがその趣旨である。

予算は前年度並み

予算全体としてはほぼ前年度並みであるが、最大の財源である会費収入は約二割の減収が見込まれる。そのため、事業縮少あるいは繰越金の食いつぶしなどの懸念があったが、事業収入などの増収もあり事業計画の策定に支障をきたすまではいたらない。

予算案説明が終った後、議長が承認を求めたのに対し、場内から〝異議なし〟のコールが起き、拍手をもって承認された。

最後に第三号議案の任期満了にともなう役員の改選に関する件が提議されたが、議長一任で全会一致、議長の裁定により現職の役員が全員再選された。したがって、この総会の決議を受けて理事会を開会し、近々理事長以下の各役員が決定される。

サミット警備後のさわやかな隊員の笑顔

懇親会には、若い隊員に混じって警察庁からは山本鎮彦長官、三井　脩警備局長が、また警視庁からは国島文彦警視総監、中島二郎副総監らも来賓として姿を見せ、鉾上に花を添えた。

冒頭に大内理事長が挨拶し会場を埋め尽くした約三〇〇名の隊員・会員を前に、改めて第三回目の通常総会が無事に終了したことを報告、合わせて東京サミット警備の慰労の言葉を述べた。

その後、功績者表彰ならびに感謝状の授与式が行なわれた。今回、功績者として表彰されたのは石原幸男氏、沼井寅氏、芝本龍平氏、津田宗三郎氏、畑山和正氏、杉尾栄俊氏の八氏で、また感謝状を贈られたのは小宮山英蔵氏、入江一雄氏、広瀬静江氏の三氏で、当会に深いご理解、ご協力を寄せられたのでこの日の受彰となった。

各員はひとりひとり大内理事長が待ちうける壇上に上り、大内理事長より直接手渡された。

約一〇分間の休憩をはさみ隊員と会員の懇親会に移った。

懇親会には、若い隊員に混じって警察庁からは山本鎮彦長官、三井　脩警備局長が、警視庁からは国島文彦警視総監、中島二郎副総監らも来賓として姿を見せ、鉾上に花を添えた。

冒頭に大内理事長が挨拶し会場を埋め尽くした約三〇〇名の隊員・会員を前に、改めて第三回目の通常総会が無事に終了したことを報告、合わせて東京サミット警備の慰労の言葉を述べた。

その後、功績者表彰ならびに感謝状の授与式が行なわれた。今回、功績者として表彰されたのは石原幸男氏、沼井寅氏、芝本龍平氏、津田宗三郎氏、畑山和正氏、杉尾栄俊氏の八氏で、また感謝状を贈られたのは小宮山英蔵氏、入江一雄氏、広瀬静江氏の三氏で、当会に深いご理解、ご協力を寄せられたのでこの日の受彰となった。

各員はひとりひとり大内理事長が待ちうける壇上に上り、大内理事長より直接手渡された。

ややたって、来賓祝辞が山本警察庁長官代理三井警備局長、国島警視総監の順で述べられた後、小川甫三氏の音頭で一同が乾杯し、これを皮切りに数々のアトラクションを楽しみながら隊員・会員双方が打ちとけ合い、明るいさわやかな笑顔で交わす談笑が会場を覆った。

東京サミットの警備の中枢をにない、見事にその重責を果たした直後の懇親会だったが、隊員の表情には疲労感はまったく見られず、むしろさわやかさえ感じられた。励ます会の大内理事長をはじめ全会員が、この日の懇親会が隊員諸兄の慰労の場となり、なおさらに隊員・会員間の心の交流の場となることを願ったが、その成果は十分なものがあったといえよう。

今月のことば

裏方！その力は存分に発揮された

第五回主要先進国首脳会議（東京サミット）の成否につき、さまざまな論評が侃々諤々と行われている。スポットライトを浴び、大向こうをうならせる主役の陰に在って、演出の方針に則り舞台構成の裏方として、大きな力となった警備当局に対しても、賛否両論が対立している。延べ四〇万人を動員し、いわば瞬間的な役割を果すために、周到な準備と念入りな訓練を重ね献身的な警備を余うしたことに対し、過剰警備だとか戒厳令的な物々しさだとかの無責任な発言をする酷薄な風潮はいかがなものであろうか。

画期的な事件で場合によっては国際問題にも発展しかねない危険をはらむサミット警備の重責を、無事に遂行し終えた裏方に対し、快哉を叫びたいと思う。

過激戦術をとる集団が後を断たない限り、もしも異常な事件を防止し得なかったならば、批判的言辞を弄している人々は、怖らく口をきわめて非難の立場にまわるに相違ない。

どういう意見、立場をとるかは、多分その人の人生観や思想の根源的な部分に結びついているのだろうが職務に対するひたむきな使命感に燃焼させる情熱と、自信に満ちた行動に敬意を表したいと思う。

よくよく社会とは人間の集団的生活、特に市民としての種々な関係に結ばれた多数の個人の共同生活のことである。われわれは、社会を構成する一員である以上、社会の秩序維持に協力義務があり、同時に社会からの制約を受ける。自由社会の一員である限り、無制限な自由は許されない。エゴと奔放な自由を放置すれば、社会そのものの存続が危くなるのは自明の理である。自由が自由に滅ぼされるという奇妙なパラドックスになる訳である。

予見されるあらゆる不測の可能性に対し、十分な抑止力を発揮するために、道路制限、交通渋滞、検問等からくる個人の不平不満よりむしろ、空前の国際行事に、銘々が参加をし、ホストの役割の一翼をになっているというふうに、理解会の一員である限り、無理安全も自由も、決して無償でなく、コストがかかり代償が要るものだとの認識を新しくしようではないか。

暑中お見舞い申し上げます

岡部㈱
㈶嘉悦学園
加納鉄鋼㈱
高周波熱錬㈱
光洋商事㈱
㈱周東商会
副島　遙
豊国興産㈱
松田鉄鋼㈱
三菱商事㈱名古屋支社
豊鋼材工業㈱

東京サミット警備無事終る

水ももらさぬ周到な体制が奏功

去る六月二十八日、二十九日の二日間にわたり開催された「東京サミット（先進国首脳会議）」は、警視庁を中心とした万全の警備体制のもとに、無事スケジュールをこなし、終了した。この会議は、わが国では初の大がかりな国際会議であっただけに、そのなりゆきと成果が各方面から期待されていたが、警備陣の数か月も前からの周到な準備と昼夜を徹した働きにより多大な成果をもって終了した。そこで、今号では実際の警備に当った機動隊員等の声を通して、もう一度このサミット警備をふり返ってみよう。

●続々と各首脳が到着

東京サミットに先立ち、日米首脳会議に出席のため、六月二十四日午後五時五十五分カーター米大統領が羽田着の大統領専用機「エア・フォース・ワン」で副賓として来日した。

サミット警備は実際にはこの日の数日前から開始されたわけだが、警視庁を中心とした警備陣は、すでにこの日を逆のぼること数か月前から警備体制、人員配置、交通規制等の検討を開始、また、同警備に向けての合同訓練等を重ね、万全を期していたのである。

さて、カーター米大統領の来日にはじまったサミット警備は、ひき続く二十五日の首相官邸での第一回日米首脳会談、二十六日神奈川県大磯の旧吉田茂元首相邸の第二回会談、そしてフランス、西ドイツ、イギリス、イタリア、カナダ等の首脳が続々と来日した。

六月二十八日、いよいよサミット開幕の朝を迎えた。

●多大の成果をもって終了

会場となる元赤坂の迎賓館周辺には要所要所に検問が設けられ、これに通じる周辺道路は完全に封鎖された。まさにアリのはい出るすき間もないほどに。また、迎賓館周辺で昼夜兼行、交替で警備に当る機動隊員達の顔には緊張がみなぎり、疲れなどみじんも感じられなかった。

同日午前九時四〇分、二日間の討議の幕は切っておろされた。

そして、翌二十九日午後四時一五分、多大の成果をもって終了するまで、右翼等による遠隔でのシュプレヒコール等はあったものの、すでに各マスコミ等で報じられたように無事完了したわけだが、ここで実際に警備当った機動隊員達の声をもとに、成功の裏にあってどこにも披れきされなかった多くの努力の跡を紹介したい。

●家族までをもまき込んだ警備

会場の迎賓館および直近外周警備に当った警視庁第五機動隊・森谷政明隊員

――会場警備のため、いっそうの緊張感がありました。それこそ不眠不休の警備にもかかわらず、若い隊員達はよく耐えて頑張ってくれました。それも迎賓館死守の強い覚悟に支えられていたからこそできたと思います――。

同隊・山田喜久司隊員

――サミット警備は、私にとって在隊の大仕事が終ったという感じですね。それはもう全隊あげての大がかりな警備という印象です。それというのも隊長の奥さんが食事をつくってごちそうしてくれ、また、何度もねぎらいの言葉をかけてくれたことなど日頃の思いやりとはまた違った雰囲気が感じられました。隊全体が、また隊員達の家族までもが一緒になって遂行した警備といっても過言ではないでしょう――。

山田隊員

次に遊撃隊として羽田空港および外周警備に当った警視庁第六機動隊・千葉広衛隊員

――サミット警備を通じて仕事の取組み方を会得したような気がします。また、これは私自身の考えですが、サミットを終ってのマスコミの「過剰警備論」には反感を感じますね――。

●無事終了――充実感はひとしお

同隊・木村旁一隊員

――出動したのは一回だけであとは裏方をつとめました。帰隊する隊員の様子でその厳しさを実感として感じました――。

同隊・川井永一隊員

――長かった、疲しかった、厳しかった、というのが率直な感想です。会議は三日間だけでしたが、実際に警備体制に入ったのは二〇日も前、長く感じました。警備を終え――勤務の充実感、これを強く感じました。厳しければそれだけ終ったあとの充実感はひとしおです――。

同隊・露久保孝美隊員

――私は隊員の食事の手当てをしてきましたが、栄養面、衛生面にとくに留意しました。警備に当っている隊員達は緊張と誠実さゆえにき然としていますが、帰隊したときのその姿は外からはわからないでしょう。わが子のようにいとおしくなります――。

森谷隊員

千葉隊員

木村隊員

川井隊員

くたくたになって帰隊、ひとフロあびて仲間同志で飲む一杯の酒を通して、ふだんにない縁のつき合いができました。これは貴重な体験でした――。

同隊・横山敏男隊員

横山隊員

露久保隊員

以上紹介したように幾多の隊員達の表には現われない努力の積み重ねによって東京サミットは無事終了した。「過剰警備」などといわれることはあっても、彼等のこのような「功績」をだれも忘じようとはしない。

なお、当会では、警視庁および警察庁に同警備に対する慰労金を贈呈した。

女性レポーター登場

レポーター　掘井ひろこ　24才　OL

女性SPを訪ねて

女性SPをレポートするにあたって、取材にご協力いただいたのが、枝沢警部補と中村巡査の両婦人警察官。もちろんお二人とも、女性SPとして各国女性VIPの警備警護にたずさわられました。

――東京サミットが無事終った現在の心境はいかがですか？とお聞きすると、

「とにかくホッとしました。この一言だけです。」

このコトバからも、カーター大統領（米）が来日した六月二十四日からクラーク首相（加）が離日した六月三十日までの一週間、いかに彼女たちが警護に全力を注いでいたかがわかりました。

さて、女性SPは警視庁管内一、四〇〇名の婦人警察官から二〇名が選ばれたわけですが、その選考基準はつぎの通りです。

一、身長が一六〇センチ以上の者

一、合気道有段者で、拳銃の級を有する者

一、英会話の素養のある者

とてもじゃないけど、私にとってはスーパーマンみたいな人。ちなみに枝沢さん、中村さんは合気道初段だそうですが、それを聞いた取材班の男性が、「私が飛びかかったら、どうなりますか？」と聞いたところ「もちろん、取り押さえることができます」。

これには男性もガックリきていましたが、そりゃあそうですよね。女性SPなんだもの。

東京サミットでの女性SPの警護は、身辺警護、会場警護、宿舎警護、先着警護に大別できます。先着警護とは、女性VIPが立ち寄る場所（空港、デパート、ホテル等）へ先に出向いて危険物の有無を確認したりするもので、枝沢さんがこの任務についていたそうです。中村さんは宿舎警護で、朝の七時前から夜の十一時過ぎまで警護をなさっていたとか。

女性SPってスーパーマンみたいな婦警さん……

「そりゃあ、勤務は厳しかったけれど、でも普通の女性では体験できないことをやり抜きましたからね。いまは満足感でいっぱいです」とお二人。聞けば、中村さんは独身ですが、枝沢さんはすでにママさん婦警（「あなた早く結婚しちゃいなさいよ」と、枝沢さんは中村さんをつつくことしきり）。お仕事と家庭の両立で大変だったんでしょうね。

でも女性SPの皆さん。あなたたちは、女性VIPの方に、異国での大きなやすらぎを与えたと同時に、私たち女性にも、やればできるんだという希望をプレゼントしてくれました。

笑われるかもしれないけど、いま私、本気で合気道やってみようと思っているんですもの……。

秋田ドラム工業㈱
市原沢次
金廣鋼材㈱
近藤与助工業㈱
大和重工㈱

暑中お見舞い申し上げます

高島浩一
㈱辻作次郎商店
西戸栄一
藤田金属㈱
北海鋼機㈱

はげまし

題　　号　はげまし　第63号
発 行 人　高橋　繁
発 行 所　社団法人機動隊員等を励ます会
東京都中央区八重洲2-4-14
〒104　ミツヤビル3階
発行定日　毎月一回　25日発行
発行年月日　昭和54年8月25日発行
認可年月日　昭和51年7月9日　第三種郵便物認可
購 読 料　一月　100円（年間 1,200円）送料共

わか隊のワンポイントPR

警視庁第六機動隊
伊藤陸二隊長

昭和四四年一月に第四機動隊から派生、爆生し、母体である第四機動隊の「剣」（強さ）を継承しつつ、代々伝わる厚き隊長の知性を加味した文武両道に秀でた隊として活躍している。
特に、空の玄関口羽田空港帯における、ハイジャック防止には一段と優れた成果を発揮している。

暑気払い　警視庁柔剣道大会開催す

機動隊部門では一機（柔道）八機（剣道）が制す

サミット警備を無事に終えたほぼ一月後、盛夏の護りに備え警視庁あげての柔剣道大会が、東京・千代田区にある日本武道館において七月二十五、二十六日の二日間にわたって開催された。大会は、署員対抗と機動隊対抗に分かれて実施されたので、機動隊対抗にスポットをあて、その熱戦の模様をお伝えしよう。

同大会における機動隊対抗試合は、柔剣道ともトーナメント方式が採用され、一戦一戦が大切な戦いである。

ちなみに、参加チームとその構成を見ると、柔剣道とも第一機動隊から特科車両隊までの十個隊がそれぞれチームを編成し、その構成は柔剣道とも正選手一五名に補欠三名、隊長が勤める監督一名の計十九名となっている。

ここで初戦の対戦カードを紹介しよう。

〔柔道〕
第一機動隊×特科車両隊
第六機動隊×第九機動隊
第五機動隊×第七機動隊
第二機動隊×第四機動隊
第八機動隊×〔第六機動隊 / 第九機動隊〕
第三機動隊×〔第二機動隊 / 第四機動隊〕

〔剣道〕
第一機動隊×第八機動隊
第六機動隊×第七機動隊
第二機動隊×第五機動隊
第三機動隊×第九機動隊

●実力紙一重の伯仲戦

館内は柔道、剣道の道場に二分され、試合の開始を待つばかりになっている。

各チームの表情を追うと、監督を中心に星取り計算をするチーム、はやる気を静めるチーム、練習に余念のないチームとまさにさまざまだ。

勝負審判が各道場に散り、いよいよ緒戦がはじまった。試合中の選手に檄をとばすチームメート、声援を送る応援団も一所懸命である。

武合のテンポも早く、見ていて実に小気味よい。初戦、二回戦と試合も進み、いつしか強決勝戦を迎えた。ここまで勝ち進んだチームは、柔道では第一機動隊、第三機動隊、第七機動隊、第九機動隊の四チーム、剣道では第五機動隊、第六機動隊、第八機動隊、第九機動隊の四チームである。

ここまでは第九機動隊の柔剣道における活躍が目立っている。

さて、試合場では準決勝の二試合が開始された。その組み合わせは次の通り。

〔柔道〕
第一機動隊×第九機動隊
第三機動隊×第七機動隊

〔剣道〕
第五機動隊×第九機動隊
第六機動隊×第八機動隊

ここまで勝ち進むと各チームともおのずと優勝したいという意識がでてくるのもうなずけるのだが、その意識が強ければ強いほど、それがプレッシャーとなって重くのしかかってくるのもまた否定できない。柔道での大差は、実力よりそのプレッシャーによるものであろう。

日を改めた七月二十六日、場所は同じく日本武道館。いよいよ決勝戦の火ぶたが切って落とされた。決勝戦に臨んで柔道場では早くも第一機動隊と第七機動隊が、また、剣道場では第五機動隊と第八機動隊が自軍の応援団の拍手、声援を背に受け、試合の開始を待ち受けている。

審判が両チームの間に立ち、試合の開始を告げると、まず両軍の応援席から一斉に拍手と喚声が湧き上った。それに呼応するようにチームメートの激励の声が飛ぶ。選手も幾分緊張している様子が見える。

"勝負あり！"。主審の右手がさっと上がると同時に、それまでかたずを飲んで見守っていた応援席から爆発的な拍手が湧き上がる。すでに選手と応援団は一体となっているようだ。

勝負は柔道が先に決着がつけられた。第一機動隊が制した。これを追うように剣道では第八機動隊が勝ち名のりを上げた。

大会が終って整列する各チームの選手の表情は実に晴れぼれとしていた。全力を尽くした満足感がそうさせたのだろう。試合中こそ手に汗させたものの、暑気払いには恰好の大会であった。

特科車両隊×〔第一機動隊 / 第八機動隊〕

第四機動隊×〔第二機動隊 / 第五機動隊〕

今月のことば

八月十五日に思う

八月十五日。終戦記念日。吹く風にわずかに秋の気配が感じられなくもないが、それにしてもまだまだ暑気は去らない。

あの日も暑い日だった。家庭で職場で学校で、汗をしたたらせながら、玉音放送に耳を傾けたあの遠い日のことを、まるで昨日のことのように思い出し、感慨を久しくしている人も少なくないことだろう。

ところが、今では八月十五日といえば、日本列島は民族の大移動のさ中、東京では都民の何割かがふるさとのバカンスを楽しみ、街は閑散としている。街に残っている人も、省エネルギーで多少冷房はおさえてあるにしろ、大ていエアコンのある快適な環境で仕事をしていられる。まことに豊かで平和な時代である。そういえば、三十年にもわたって世界のどこでも戦争が起こっていないというのは世界史の上でも珍しいことだという。

願わくばこれが人類がそれだけ賢くなったということの証拠であってほしいものである。

筆者の場合、満州でその日を迎えた。小学校の五年だった。引き揚げ、そして戦後の混乱で当時の級友は散り散りになり、三十余年が互いの消息を知るすべもなく過ぎた。

ところが、たまたまつい先頃、当時の小学校の同窓世話人から、どこをどう調べたのか、連絡があり、八月十五日を期して同窓会を盛大に催すという。

実に三百人もの人が集まり、なつかしくも思い出つきない会となった。その折一同の一致した感懐は、ゆたかで平和な時代のありがたさということであった。

もし戦争があのままつづいていたら、三十数年ぶりの幼なじみが大挙して一堂に会するなどは望み得べくもなかったろう。また戦争は終っていても、どこかの国のように国内の治安が維持できないでいたら、これまたどうなっていたかわからない。戦後間もなくの警察予備隊の発足、これにつづく機動隊の充実など、世界に類を見ない治安当局の活躍が、いく度か起り得たかもしれない国内の危機を未然に防ぎ、平和でゆたかな今日の日本をあらじめ、今年の終戦記念日、今日もまた有事に備えて訓練に汗しているであろう機動隊員の皆さんに思いを馳せつつ、改めて感謝の念を禁じ得ないのである。

寄付金報告

先ごろ行なわれた通常総会ならびに懇親会の席上で表彰を受けられた左記の両氏より、さらにお役に立ちたいとして当会にご寄付を寄せられましたので、ご報告します。

橋山和正氏（協材興業㈱）　二〇万
石原幸男氏（国光製鋼㈱）　二〇万

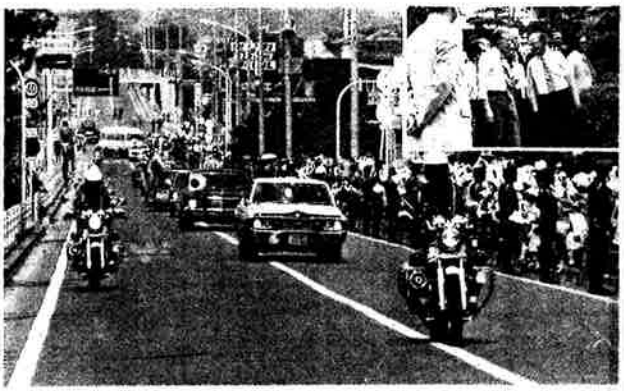
また、特に匿名による、千の万々からそれぞれ二〇万円ずつの温かいご寄付も寄せられました。誠に有難うございました。

機動隊員の皆さま
残暑お見舞い
申し上げます

小川運輸㈱
関東銑鐵株式会社
高周波熱錬㈱
芝本龍平
谷本隆夫
津田鋼材㈱
豊田通商㈱
広畑海運㈱
宮崎精鋼㈱
山大鉄商㈱
和田

サミット警備を回想する

先に行なわれた東京サミット警備、大過なく全日程を消化したその陰で、昼夜を分かたず懸命の努力を続けた機動隊に寄せられた賛辞は枚挙にいとまがない。警備にまつわる詳細は前号で紹介したが、ここでは項を改め、応援警備とサミットの前段といわれた日米首脳会談における警備に当った県警機動隊員の回想をご紹介しよう。



日米首脳会談警護警備に従事して

神奈川県警察第一機動隊　佐藤貫得

連日の新聞、テレビ等は、東京サミットに関する見出しで一色に塗りつぶされ、しだいに国民の関心も高まって行った。また、その前段行事としての日米首脳会談の場所選定が難航のすえ、大磯町の旧吉田邸に決定した。

事前準備は、五月上旬から始まった。現地実査はもちろん、あらゆる妨害行動を考え、ラジコン飛行機等による奇襲に対しての防衛策、炎天下のもと火炎ビンなどの凶器を持った犯人の排除訓練等を繰り返し行った。一方、旧吉田邸の警戒は、一個分隊から一個小隊へ、さらに二個中隊へと逐次強化された。要所要所には、我々機動隊員が有事即応の態勢で警戒し、ねずみ一匹通るすき間もない。これだけ完璧な警戒を実施している以上、絶対に失敗はないとかたく自信を持っていたが、苦労の末による火炎瓶事件が発生した。我々は、さらに緊張して警備に当った。

そして、ついに本番の日はきた。私の任務は、先発警護員として、旧吉田邸の正門前に位置してカーター大統領が自動車列から中門へ通過される際の身辺警護に当ることである。どんなことがあっても守り切って見せるという思いで胸が熱くなっている。大平首相の車列が到着し、あとは十数分後のカーター大統領の到着を待つばかりだ。遠音とともにカーター大統領のヘリが見えて来た。臨時ヘリポートに着陸し、数分後に到着される予定だ。ほんの数分が実に長く感じられる。沿道に警察官が立ち並び、厳重な警戒の中を寸寸の狂いもなく、白バイに先導された自動車列が視覚に入る。ついにカーター大統領が到着されたのだ。私の目は、目前にいる報道陣にまきれて、隙を狙っている過激派がいないか、そして、小旗を振って米大統領を迎える歓迎者達の中に隠れ、凶器等を持って不意に襲い、危害を加えようとする者を見逃さないよう視線を凝らす。自動車は正門についた。胸の鼓動が高なってくる。まさに緊張の一瞬、全身が汗ばんでくるのを感じ取りこぶしにぐっと力が入る。襲いかかってくる者はない。が、さらに周囲をうかがう。車列は、ゆっくりと邸内に入っていく。最後の車が入るのを待って視線を八方に配りながらすぐ後を追う。無事、到着されたのだ。

日米首脳大磯会談警護警備を終えて

神奈川県警察第二機動隊　鈴木清之

日米首脳大磯会談は、六月二十六日火曜日神奈川県大磯町の旧吉田邸において開催された。

舞台となった旧吉田邸の警戒警備は、五月上旬から始まった。

炎天下あるいは、雨の中で昼夜をわかたぬ二四時間体制の警戒勤務が続き、首脳会談が近づくころには、誰もが相当疲労していた。しかし、この警備の重要性を考えて、誰一人として泣きごとなどを口にする者はなかった。

「東京サミット粉砕」「カーター米日阻止」を呼号する極左暴力集団は、全国各地でゲリラ行動を行うなかで、八月一九日夕方、ついに、旧吉田邸に近接する西湘バイパス上で火炎瓶を炎上させるというゲリラ行動に出た。

現場近くにいた同僚隊員の早期発見と適切な処置により、幸い旧吉田邸そのものには、何らの被害はなかったが、万一、襲撃されれば、国際的な問題となり神奈川県警察のみではなく、日本の警察全体の威信と名誉を傷つけることを改めて我々一人一人が肝に銘じ、さらに、身を引き締めて厳重な警戒に当った。

そんな厳戒体制の毎日を経て、ついに日米首脳大磯会談の日はきた。

我々は、前日の午前一〇時から旧吉田邸の警戒勤務

はげまし

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
東京都中央区八重洲2－4－14
〒104　ミツヤビル 3階
発行人　高橋　繁
TEL　03(272)2050
購読料　年間1200円(送料共)

機動隊員の島部派遣

宴の裏方

ロマン乗せて船の旅立ち、眼がさめればそこは南国の香り。時あたかも民族大移動の夏期バカンス、伊豆七島にも若者が押しかける。素朴な秘境ムードは一変してミニ東京。

御神火が燃える大島、白い砂に敷きつめられた新島、火口湖を2つも持つ三宅島、熱帯植物に覆われた八丈島……。

にわか島民は数を増し、通常時の14倍にもふくれあがる。すばらしい仲間との楽しい想い出づくりとともに、事故、暴行、窃盗なども続出する。宴の裏方として、警視庁、機動隊員の島部警察署派遣、これは今年の清算書である。

☆……☆
ふくれあがる
にわか島民
☆……☆

先に次の数字を見てもらいたい。

	通常時人口	八月来島者数
大島	一一二七〇	一三〇〇〇〇
新島	二三五七	九〇〇〇〇
式根島	七五三	四〇〇〇〇
神津島	二九七八	一〇五〇〇〇
三宅島	四六九九	四八〇〇〇
八丈島	一〇五五六	六〇五〇〇
小笠原	一五二〇	七三〇〇
計	三四〇三〇	四八〇八〇〇

通常時の島の人口は僅か三万四〇〇〇人、それがどっと繰り出す独身貴族、家族連れで今年の夏はなんと四八万人、ざっと一四倍。しかもそれは年々増える傾向にあるという。

エメラルドグリーンの海、つきぬけるような青い空、真紅のハイビスカス、そこで若人の夏の祭典が繰り広げられる。人の集まる所事件あり、とはいうが、これを立証するのが次の統計数字である。

五十三年の一年間を通した伊豆七島の犯罪発生は、刑法犯二四六件、諸法令抵触三一件、また交通事故は二〇八件であった。

もっともこのうち七～八月の夏場だけでみると、刑法犯一〇三、諸法令一三と年間に占める比率は四二％、交通事故は六七で三二・二％という高集中率であった。

島の常駐警察官は一二九名、通常事態ではとて足りるが急転直下、都会並みの混雑、飲んで歌っての解放感満喫人口となるとまさにお手上げ。そこで昭和四十二年から続いた機動隊員の島部警察署派遣は、今年もお呼びがかかる。

七月十四日から八月三十一日までの四十九日間、二七二名、延べ二、四四三名の機動隊員が応援派遣となった。

☆……☆
人命救助四件
☆……☆

八月二日、事故発生、大島元町弘法浜沖合い一五メートル、水深一四～五メートルの地点で若い男が溺れているとの通報あり。警戒動務中の大野、長谷川、菊池三隊員が救命浮輪、ロープを持って出動。現場到着、台風九号の影響で一・五～二メートルの高波、テトラポットにしがみついて助けを呼んでいる男。飛び込む、ロープでしばって引き上げる。溺れかけたのは神奈川県厚木市に住むカメラマン助手金田司さん（21才）。

これは一例にしかすぎない。さて今年の島部派遣報告書。指導・取締りの結果は窃盗七、傷害七、暴力行為五、暴行二三、毒劇物四、軽犯六、道交法六三、人命救助四、交通四一二、少年補導一七四などを含めて計八〇四件、九五三人であった。

来年も島は若者をいざない、そして機動隊員は黙々と黒衣として任務遂行に赴く。

（写真上）番外の土砂排除作業 ― 三宅島に台風襲来

（写真下）深夜のミニ検問 ― 三宅島空港前にて

今月の言葉

ナンバーワン・日本の機動隊

通算三年間日本に滞在した米国のハーバード大学教授エズラ・ヴォーゲル氏が『ジャパン・アズ・ナンバーワン― アメリカへの教訓』という興味深い著書を出した。

この本は、日本社会のすばらしさを紹介し、いろいろな面で行き詰まりを感じているアメリカ人に、日本のやり方をモデルとして見習うべく示唆する目的で書かれたものだが、さきごろ日本語訳も出版され、ベストセラーになっている。同氏はこの本の中で、日本の警察組織をたたえ、機動隊について、つぎのように言及している。

「機動隊と呼ばれる一群の警察官がいるが、彼らはさらに特別の訓練を受ける。……大規模なデモやその他の集会を扱うために巧妙な作戦を編み出し、装甲車、楯、ヘルメット、催涙弾、マスク、こん棒、トランシーバーなどを装備している。アメリカの場合、暴動鎮圧のためには、州軍、あるいは地方の警察に頼らねばならない。それに反し、日本の機動隊は特別の訓練を受け、武力行使には慎重である」

日本より治安の悪いアメリカに、機動隊に匹敵する対応力がないことについては、意外の向きもあるだろうが、ともかく、ヴォーゲル氏は羨望のまなざしをもって、わが国の機動隊をみつめているわけである。

さて、国民がさらに注目するのは、日本の国民の警察に対する協力の強さである。

「国民はなぜ、警察に協力的なのだろうか。第一に警察官の質の高さ、職業意識、義務遂行への献身ぶりが高く評価されているからである。……一方、警察官のほうでも、これを当然のこととして受け取らず、世間の協力的態度が失われないように努力している」

われわれ励ます会の育ちつつある土壌は、たしかにヴォーゲル氏が指摘のとおりである。しかし、それだけではない。同氏が励ます会の存在をご存じであれば、さらに純粋なわれわれの心情に、驚異の目をもって理解を示してくれるに違いない。

外国人としての同氏の卓抜した知識は、「機動隊の作戦の基本は、けが人を出さないこと、世論を味方にすること、反抗者の考える脅威をすくなくすることである」といったように、あらためてわれわれに認識させてくれるほどだが、ともかく、われわれとしては、名実ともにナンバーワンとして外国の手本になれるよう、隊員と国民がしっかりと手を握っていこうではないか。

「はげまし」へのはげまし

大内俊司

「はげまし」の編集に当たっているスタッフが、この号から装いも新たに、一層の紙面充実をはかって下さるそうである。

機動隊員等を励ます会も発足以来五年、友は友を呼んで津々浦々に一万人以上の会員を数えるようになったが、その輪が広がれば広がるほど、お互いのコミュニケーションの場として、この「はげまし」に課せられた役割は大きい。

私がかねがね実感として好んでいる言葉だが、ドイツの劇作家コッツエブーは次のように言っている。

《友情は瞬間が咲かせる花であり、そして時間が実らせる果実である》

友情の絆で結ばれている励ます会は、より良い果実を実らせていくために、会員相互が密接な触れ合いを保ちつつ、末長く日々を重ねることが必要である。だが年に何回かの支部会や総会だけでは、いうまでもなく充分なものでない。

それだけに、励ます会での「はげまし」への期待が強まるわけである。

しかし「はげまし」にそういった役割を務めさせるのは、ほかならぬ会員の皆さん、読者の皆さんご自身であることを、このさい改めて考えて頂きたい。お互いのコミュニケーションの場である以上、少なくとも「はげまし」は一方通行の活字ではなく、全員参加の大合唱であって欲しい。

そのためには、編集者がいやというほどの記事や、ご意見を、さらにどしどしぶつけて頂きたいと思う。

私も世話役のひとりとして、皆さんからの「はげまし」へのお便りは、限られた紙面への掲載の有無にかかわらず全部読ませて頂いているし、またそのことをこのうえなく楽しみにしている。

活躍するアクアラング部隊

大分県警察機動隊

一般にはあまり知られていないが、全国には数多くのアクアラング部隊があり、それぞれに有意義な活動を続けている。そのなかでも大分県警察機動隊は、三億円保険殺人事件を始めとして数多くの出動を重ね、その経験と訓練を通じて、今や内容的にも技術的にも全国随一を自負してよいまでに成長してきた。

大分県警察機動隊の潜水部隊（アクアラング部隊）は、水難救助対策の充実が大きく叫ばれるようになった昭和四十七年六月に、隊員一一名でスタートした。年を追って増員され、またその訓練も同機動隊機能別訓練の目玉として、重点的に注力されてきた。

その成果は、強盗殺人事件被害者の死体発見、保険殺人事件の現場検証作業、行方不明者の捜索、刑事交通事件の証拠物発見など、多くの難問題解決に見られている。

しかし、この作業は変化の激しい水中に挑むものだけに、極めて危険度が高く、隊員には高度の技術と強い使命感が要求され、それなくしては「死」が待ちうけるのみという厳しいもの。

そのため同隊では、隊員一人一人を厳密にチェックし、潜水技術の高度化、機械の性能取扱いの熟知、関係法令や規則の研究、堅固な精神力の育成などについて、地道な訓練を積み重ねてきた。

実務的なトレーニングは、月一回程度、水深一〇メートルほどの海中で行い、三人一組として、それぞれの組の責任者が指導する。従来は、いったん海底に潜ると、その所在が把握しがたいという問題があったので、本年度中に水中無線機三機を購入して、問題解決をはかることにしているという。

こういった同隊の具体的な活躍ぶりについて、いくつかの事例をとりあげ、それに携わった隊員の一人一人につき、最後に同機動隊長に隊としての抱負を語って貰った。

アクアラング部隊の出動！

古井戸の死体捜索

平地　弘幸氏（第二分隊員　24才）

昭和五十二年十月、大分県内で老婆の殺人事件があった。血痕などが室内に付着しているのに死体がない。どうも近くの古井戸がおかしいということで捜索下命を受けた。

井戸の入口は一メートル四方の小さいもので深さ二〇メートル、水深六メートル、まさに真暗闇である。私と木林隊員の二名が入ったが、古井戸独特の異臭が鼻をつく。懐中電燈を頼りに意を決して底に潜り、手さぐりでかき回すと、はたして老婆の死体があった。

このような対応は機動隊員でなければ、という強い使命感があってこそ成し遂げ得るものと改めて痛感し、その後一層の自覚を強めている。

殺人転落者の水中検証

渡辺　由美氏（第一分隊員　30才）

昭和四十九年十二月、乗用車を水中転落させて、三億円の生命保険をかけた同乗者を殺すという事件が起こった。故意か過失かで世間を騒がせたいわゆる〝荒木虎美事件〟である。

この現場検証のため、私たちは別府国際観光港の岸壁に出動した。この事案は、水深五メートルで、アクアラングとしてはさほど難しい処理ではなかったが、特筆すべきことは、ここで水中カメラ技術が活用されたことである。これを契機に同技術の開発が大きく進められた。

絶え間ない訓練とともに、諸般の技術の向上が、治安の任に当る機動隊員の使命を全うさせる手段であるが、その意味からも忘れがたい事案である。

夜明ダムで強殺死体発見

石川　豊成氏（第一分隊員　33才）

昭和四十八年二月、雪の降る寒い日だったが、朝出動して凍った手をストーブにかざしていたところへ、強盗殺人事件の被害者捜索出動命令を受けた。事案の場所は、隊から車で三時間もかかる福岡との県境、日田の夜明ダムである。

現地に到着した私たち六名は、早速みぞれの降るなかを、水深二〇メートルというダムに飛び込んだが、視界はほとんどゼロであった。

それでも懐中電燈をたよりに辛抱強く捜索を続けた。ずいぶん長い時間と思われたが、実際には三十分ほど経った時、岸辺から四～五メートルほど、水深一二メートルの地点で、カマスが手に触わった。引き上げて検証すると、まぎれもなく斬殺された強盗事件の被害者であった。

私はこれまで幾度となく潜水しているが、これほど困難な事案に遭遇したことはなく、この時ほど任務の重要性と、果たした時の仕事のやりがいを感じたこともない。苦しい時はいつもこの経験を思い浮かべて、毎日の訓練に励んでいる。

千葉県警察機動隊

鹿野山秘話―トラと無言の対決

夏のある日、トラは死んだ。山に静寂がもどったが、人里は補償問題でますますさわがしい。ところで鹿野山の世紀のトラ狩り、その主役はモノ言わぬトラとこれと対決した機動隊。そこで指揮をとった若梅仁木更津警長に話をうかがった。

機動隊出陣す

顔写真は若梅警長

桃太郎部隊に育成

大分県警察機動隊長　中和田（なかわだ）　谷（きわむ）氏

私は常々、機動隊員は強く優しくなければならないと思う。〝気はやさしくて力持ち〟の桃太郎こそが機動隊員像だと考えている。

私の現在の抱負といえば、わが隊を桃太郎部隊に育成することである。

トラよりハチ

成田空港警備で勇名を馳せた千葉県警第一機動隊に出動命令が下ったのは、八月三日午前五時三十分であった。目的地は君津市の鹿野山。この地の古刹である神野寺からトラが脱走したとの情報からである。鹿野山といえばゴルフ場や牧場のある風光明媚な観光地。隊員達は「たかが生後一年のトラ二匹ぐらい」といった軽い気持ちで出動した。

ところが、隊員達を迎えたのはトラばかりではなかった。酷暑のさなか身の丈を没するヤブの密生した山腹が隊員達を釘づけにしたのである。しかも日ごとに野生化し行動範囲の広がるトラと対決して、ついに一か月近くを過ごすことになる。

◇

持久戦下の報道合戦

加えて神野寺住職の発言に端を発した寺と猟友会あるいは消防団、警察とのあつれきはトラ騒動転じて、人間という群集動物騒動に発展したかにみえはじめた。若梅警長はこの問題について次のように説明する。

「生後一年のトラといっても、頭から尾の先までで二メートル四六センチ、背高八八センチ、体重一〇〇キロの猛獣ですよ。猫の子のように手でつかまえられるしろものではない。人命第一の警察としては射殺するほか道はない。寺もこの点については了承している。また一匹のトラをめぐり様々な人間ドラマが報道されたが、あれは持久戦に持ちこまれたのが原因。大勢詰めかけた報道陣の方々がネタがなくヒマなものだから、小さな出来事を大きく扱ったまで。トラが姿を消した副産物ですよ」

不思議、トラ消える

鹿野山トラ騒動の圧巻は何といっても十一日に実施された大包囲作戦であろう。

「とにかく、成田空港警備があるので県警機動隊を全員投入するわけにはいかない。警察学生や方面機動隊をかき集めてのトラ追跡だが、何分にも猛獣狩りの経験がない。幸いなことに四日に一頭を発見射殺したのでマトを残る一頭に絞ることができたが、それでも姿がみえない」

こう語る若梅仁警長の話によれば、この付近の山一帯はハチとマムシの名所。しかもヤブのなかに入れば方向感覚さえ失うとあってプロの猟師でさえも避けるところ。指揮所で指揮に当っていた警長でさえも二回ハチに刺されて靴がはけなくなったというのだから、ヤブの中に突撃した隊員のハチとの闘いはおして知るべきだろう。

◇

飼育場の風下に当る神野寺北側二五〇ヘクタールの山林を警察官、消防団、猟友会メンバー二、七五〇名で包囲、ジリジリとその網をしぼっていった。しかし姿をみせたのは野ウサギ一匹。

「トラが出なかったのは、いまだにナゾというほかない。とにかくヤブの中に入ると身の丈は没し、どちらの方向に進んでいるのか全くわからなくなる。無線で方向修正を指示するのだがまさに絶叫の繰り返しでした。ヤブの中で機動隊員達は良く頑張りました。二メートルを超すカヤを楯で倒し、その楯の上を歩いて前進する。ちょうど戦車のキャタピラのように、この動作を繰り返して前進しました…」若梅警長はこう語る。

「どういうわけか、トラはゴルフ場のバンカーの上を歩くのが好きでしてね。足跡が多数残っていました」これも脱走トラの習性を伝える警長の話である。

さて、このトラ騒動、夏休みも終ろうとする二十八日、神野寺南方の九十九谷で捜索隊に発見されあっけなく幕切れとなったのはご存知のとおりである。

二十七日間にわたるこの事件に出動した警察官は延べ四、八〇〇名、このうち約二、〇〇〇名が千葉県警の第一、第二機動隊の隊員であった。

われら防人

警備にミスの言葉はない

世の取り沙汰も七十五日、鳴り物入りではやされた東京サミットも、いまでは過ぎたこと。しかし〝警備にミスの言葉はない〟と全力投球してきた縁の下の力持ちにとっては一生忘れられない。あの日あの時の思い出をいま一度……。

京都府警察機動隊　第三小隊長　杣田　茂

クリーアーされ、雨に煙る古都の都大路をパトカーに先導されたカーター米国大統領夫人一行の警備車列が音もなく、滑るかのように目前を走り去っていった。

六月二十九日、梅雨明けを思わせる大雨のなかで、行先地が変更されたため、急拠沿道警備に従事していた私達の任務も、これで無事終了した。

その途端、今までの緊張がほぐれ、無事に任務をやりとげた満足感と同時に「これで終わった」という安心感が手伝い、出動靴に入った雨が気になりだした。これで約十日間にわたる事前の車両検問、重要防護対象の警戒等一連の京都におけるサミット警備は終了したのだ。

今回の警備で特に感じたことは、

(一) 夫人の日程変更が予想されたため、遊撃大隊としてテロ、ゲリラ対策のほか、沿道警護までの幅広い任務が与えられた。そして、六月二十八日、治安二号（制服）で警護中、「新幹線で京都に向かう極左暴力集団多数あり」の情報にもとづき、京都駅に転進中に、車中で治安三号（出動服）に着がえ、大楯を所持して対処したり、六月二十九日、雨のための行先地変更に急拠、沿道警護に配置されるなど、文字通りフル回転したこと。

(二) 今回はじめて、ゲリラ対策として、各分隊単位で車両を帯同し、主要交差点等の沿道遊撃任務に従事したこと。一方車両阻止アングル・トラ柵を沿道に交差する道路に配備したことであり、これらは特に印象深い。

最後に、雨の中、ずぶぬれになりながら沿道警護中、傘をさしゃ、孫の手を引いた老婆が、私の姿を見て言った。

「ご苦労さんやね」

の一言が、何か心にひびき、ほのかな気分になると同時に、一連の警護任務の疲れを癒してくれた。

京都府警察機動隊　第四小隊長　三科　昭夫

我が第四小隊は、夫人入洛の前日深夜にわたる極左暴力集団の東上に対処するための山科駅検問に続き、本番日の二日間は、特殊な任務が付与されていた。その名を我々は〝トラ柵〟部隊と名付けた。トラ柵とは工事現場にある黄色と黒色の斜線の入った一見虎の皮の紋様に似たあの柵のことである。

このトラ柵一九七個と、車両阻止アングル五五個の配分を受け、対象一行が通過される道路と交差するすべての道路に対して、これらの器材を配置することにより、極左暴力集団等の車両突入を阻止するという作業を命じられた。

実査を通じて検討してみると、なかなか大変な作業であることがわかった。地図には載っていない細い街路あり、駐車場ありで、地図と現場は大きな違いがあった。

また、沿道配置員が配置になってから、一行の自動車列通過〝十分前に設置完了〟という迅速処理が要求されるだけに、時間の配分が難しい。さらに、車列の行先に合わせて、トラ柵等を配転するのに、交通渋滞に巻きこまれない経路を探さなければならないなど、人知れぬ苦労をした。

当日はあいにくの大雨で、隊員は出動服に交通チョッキ、そして長靴というおよそ〝花の機動隊〟のイメージとはかけはなれたいでたちでトラックに積んだトラ柵とアングルを時間を気にしながら、一つ一つ路地におろしていく。

ある隊員曰く、「女房子供にこの格好は見せられんなあ」

土砂降りの雨の中をずぶ濡れになりながら、他の小隊員が車列遊撃とか沿道警護などはなばなしく活動しているなかを、何の不平不満も言わず、黙々と任務を遂行してくれた隊員諸君に対して、頭の下がる思いがしたのは、私だけではあるまい。

京都府警察機動隊　第五小隊巡査部長　一木　猛彦

私たち第五小隊の任務は、警護の最後の砦といわれる自動車列警護で、前方遊撃車と後方遊撃車に別れて従事した。

カーター大統領は、東京において、馴染みになった焼き鳥屋に行く等警備陣を驚かせており、京都におけるロザリン米国大統領夫人も同じであることが予想された。そこで我々も決定された行先地のほか、十数個所の行先候補地を実査したが、これは大変な警護になるのではないかと思った。

本番日に、朝から雨である。京都御所と竜安寺の行先地が急拠取り止めとなり、出発時間ぎりぎりに、京都伝統産業会館と三十三間堂に変更決定された。

大変だと思ったのは、沿道警護員と行先地警護員の配置だ。もう自動車列は動き出している。こうした不安に反して雨に煙る古都の都大路は完全にクリーアーされ、自動車列はあたかも最初から予定されたコースを走るかのように悠然と走り、京都駅で任務を終了した。

警護を終えて感じたことは、警護は常に完全優勝でなければならない。小さなミス、失敗は絶対に許されない。そのためには、あらゆる事態が起きても、これに対処しうる警護体制でなければならない。

今度のように行先地が急に変更されても、すぐに対処できた我が京都府警は偉大であるとつくづく感じた。これも東京サミットを目標にそれぞれが十分な準備を重ねてきた成果であろう。

静岡県警察本部　特務小隊　栄　明男

本番一か月前に、カーター大統領の行先地となる下田市内の三つの重要防護対象の警備が始まり、私は大統領が「タウン・ミーティング」を行う予定である下田中学校警備のため派遣された。

本番が近づくにつれ、盗難車両、盗難ナンバープレートの手配等が次々と無線で流されてくる。配置員も疲れきった赤い目を大きく見開いて、通過車両に目を配り、発見しようとする。触角配置を交替し待機場所に戻って間もなく、突然「至急・至急」のかん高い無線が入った。「同じナンバープレートを付けた二台の車両が同時どろポイント①と⑥の二か所の検問所を突破、猛スピードで逃走した」という。

過激派か……！　無線は飛び交う。配置員は一層緊張し、待機員もまた、まんじりともしないで時間は過ぎていく。逃走車両の発見はできなかったが、ゲリラ攻撃もなく、厳肖警備を終了して引き継ぎ、交替するときの安堵感は忘れられない。そんな毎日が続き、いよいよ明日は〝優勝者に警備部長賞〟

警視庁機動隊の弁論大会が九月二十七日、警察総合庁舎・大会議室で開かれる。各隊から選出された代表各一名、合計一〇名によって競われる。テーマは「青年警察諸君が都民との関係においていかにあるべきか」

本番「あと一日だ頑張ろう」と隊員同士で言いかわしたものだ。

緊張のまま、カーター大統領の下田日程は無事終了したが、あの苦しかった警戒警備を私は一生忘れないだろう。その苦しい勤務中の一刻、なによりも元気づけられたことは下田中学生からの朝晩の挨拶だった。「おはようございます。ご苦労様です。さようなら」すっかり顔なじみとなった弟か妹のような生徒から声をかけられたことが懐かしい楽しい思い出として残っている。

六機優勝！警視庁機動隊・野球大会

恒例の警視庁機動隊野球大会が、今年も去る8月21日から3日間にわたり東京・大田区グラウンドで熱戦をくりひろげた。

その結果、第六機動隊が初の優勝をかざり、盛会のうちに閉幕した。

機動隊対抗野球大会に優勝して　第六機動隊通信係　平岡道雄

ヤングディアーズ（若鹿）のユニホームを着て今年で五年目、毎年一回戦で敗退の六機野球部も念願の初優勝を飾った。

隊員誰もが、まさか優勝するとは思っていなかっただろう。今年はキャプテンとしての重責を果たせるか不安であった。思い起こせば今回新しく取り入れた、朝と昼、球場までの往復約四キロのランニングを毎日続けたこと、炎天下のノックも五〇本、一〇〇本と日毎に増えた。そして、苦しかった補強運動も監督以下一八名全員が、無言で汗を流した。

その結晶がこうして優勝という形で現れたのだろう。また、今回新隊員六名加入ーベテランと新しい力の歯車がうまくかみ合い、数少ないチャンスを得点に結びつけ、それを守りぬいた。

最後に忘れてならないことは、なによりも力強い隊長はじめ、隊員の皆さんののどをからした声援でした。

来年は、優勝の栄光を拾って、チャレンジの気持ちで栄光の道へ一歩一歩進みたい。

防災の秋　備えあれば憂いなし

大内俊司
東鋼業㈱
㈱三榮商會
奥村武正
村山文雄
高周波熱錬㈱
石原幸男
木村利秋
橋山和正
浅田弥三郎

会員の広場

石油不足に想う

広島支部　中村是一

思い起せば、この夏は、東で先進国首脳会議、西で石油輸出国機構総会と、相前後して主要会議が開かれました。低成長時代といわれる今日、石油をはじめとするエネルギーの大幅な節源と代替エネルギーの推進開発が主要課題となり、われわれの日常生活においてもエネルギーに対する認識を改め、色々工夫して知恵を出して無駄のない生活が呼びかけられています。

私は長崎の寒村に生れ育ち、贅沢を敵とし、物を大切にする美徳とする教育を受け、又その観念が根強く自分を支配しておりました。思い起すに、私の村では日々の炊飯の燃料には松林へ入り、松葉、松毬をかき集め、それを現在のガス、電気の代用にしておりました。食生活に於いて昔と比べるに贅の限りをつくしている。ある時高野へ登り、聖よりこんな話を伺いました。

〃私は十三の年で仏門へ入りました。一椀の粥に一汁一菜、育ち盛りの体には大変空腹な思いをいたしました。しかし第二次大戦で極寒のシベリヤへ抑留された時、食糧不足の中に於いて私は耐え得ました。しかし日頃、美食大食であった戦友の多くはシベリヤの土になりました〃と、このお話を聞き、この十余年間の急速な経済成長過程の中で本来の自分を失いかけていた事に気付いたのであります。

オイル・ショック前まで消費は美徳とか、物の使い捨て風潮があったことは、それなりの背景があったにせよ、一般的に経済感覚を麻痺させて、物を粗末にすることは、その物の持っている価値思考力を鈍化させ、ひいては人間の生命すら軽ろんぜられる過激行動の一因になったのではないでしょうか。

今や国際化時代となり、文明の急速な伸展に伴って複雑な社会生活が営まれ、すべてが便利になり豊かになったと思う反面、本当の心というものが私を含めて、世の中に見失われようとしているのではなかろうか、と反省する次第です。

われわれ日本人として、やはり先祖より受け継がれた良き風習は国土に合ったものであり、心の故郷として大切にしたいと思います。物質文明に流される事なく、物を本当に生かして用いてこそ真のよろこびが生まれてくるのでありましょう。

わが国古来の質実剛健質素倹約の気構えは、時代こそ違え、われわれ日本人の土壌であり、古きものの中からも新しいものを見出しながら、これからの一日、一日を過ごしたい。

還暦考

木村政次

他人事の様に思っていた還暦が遂に自分自身の事となって、聊か狼狽しながら改めて還暦六十才というものの意義を考え直している此の頃である。干支は六十年で一周して再び出生年の甲子に還るから、還暦とも本卦帰りともいうのだが、六十才とは一体何だろう。

昔、孔子は六十にして耳従い、七十にして従心不矩踰で、修養の極地を誇示し、古来稀なる七十を四才も超えて七十四才の人生を全うした。

四十にして惑う事のなかった聖人孔子の事だから、六十にして耳従う事ができたのかもしれぬが、現代の凡人には遠く及ばぬ事。満貫をつもっては喜び、OBをしては嘆く我々は、思想的にも道徳的にも亦社会的にも所謂「小人」化し、世も亦末世になった為であろうか。

四十にして不惑は、惑う年頃故よく自戒しなさいとの警句だという逆説もあるし、他方「五九の非」という句もある事から六十にして耳従うは、理想の人生を夢みているのかも知れぬと思うと多少心の安らぎを覚える。

「老眠早く覚めて常に夜を残し
「誰れか知らん明鏡の裏、形影自ら相憐れまんとは」

昔の人も老いて人生の儚さを嘆いたこれらの詩句も、数千年後の我々凡人の琴線にも尚ふれるもののある処を見ると、人間の精神文明は大した進歩もせず、「年々歳々人同じからざるも、年々歳々人の世皆同じ」という感じがする。

次に肉体的には六十才とは何だろう。人生僅か五十年とは乳幼児の死亡率が高かった時代の単純平均だろうが、当時でも成人の平均寿命は六十才位だった様に思う。昔小学生の頃、毎秋学校で敬老会があり、お年寄りを招待して学芸会を開いた。当日我々は校内に並んでお迎えしたものだが、殆どの人は腰が曲がり、杖をついていた。有資格者は六十才以上だったと思う。

それに比べ現代の六十才は、糖尿病だ肝臓病だと、仰々しいが、それでもワンハーフを回ったり或は肢がこむと、もう一回と遂には午前様になったりする人が私の周囲にも何と多い事か。だから赤いチャンチャンコが還暦の御祝いといってもピントが合わず、なかには不快の念を表わす人さえいる。平均寿命は十五年は延び、昔の還暦は今の喜寿に相当する様だ。

乍然、本人の気持ちはどうであれ、社会的には六十才は老人に枠組みされている。定年がのびたといっても会社は六十で打ち切り、後は余生をお大事にという。家庭でも亦孫ができて否応なしにお爺ちゃんお爺ちゃんで祭りあげられる。なまじ出しゃばると老害といわれる。

国も亦いくら健康（否、健康なら尚更の事）でも仲々死なない老人としてその対策に腐心している。肉体的健康も之に対応する社会的仕組みとがよく噛み合わぬと時には悲劇になる。「寿考維れ祺、以て景福を介にせん」と心から長寿を祝ったのは夢の又夢か。止んぬる哉。

偶感

高橋重廣

現代の日本は世界で最も自由であり、その自由平等は比類がない。その上治安が優れている。GNPは自由世界で第二位、外貨保有高これも先進国中第二位であり、外貨減らしと円高に苦しんでいる。しかし絶頂を極めた繁栄の陰に、誠に憂うべき深刻な現象が顔を出しているのを見逃すわけにはいかない。

徳川三百年の泰平の夢を終わらんとする幕末時代に、西洋列強の東洋侵出は目覚ましく、次次に植民地化されていく東洋諸国の過酷な現実を直視して、我等の祖先は自主独立の精神に燃えて立ち上がり、内に維新の革命を成功させて統一ある近代国家とし、植産興業富国強兵の道を一直線に進み、疾風怒濤の五十年を経て五大列強の一つとなり、三大海軍国の一つとなって栄光の一刻を迎えたのである。

しかしそれも束の間、第一次大戦後の深刻な不況はアメリカに始まり、世界を覆った。日本に於いても例外ではない。東北の農村の役場では娘を売る時は村役場に相談して下さいという掲示が示されていたという。二・二六事件、五・一五事件と、軍部若手指導者等の決起等もあり騒然たる世相であった。そして全体としては、資源と経済発展を求めて満蒙に進出し、野望は遂に止まるところを知らず、東洋の諸国全域に侵攻し、第二次大戦に突入し、四百万の人命を失い、日本全体を焦土と化した。誠に愚かなる選択であった。

第二次大戦の焦土の中から複雑な国際情勢の中にあって好む、と好まざるとに拘わらず、アメリカを盟主とする自由主義国家群に編入され、アメリカのバックアップの下で日独両国目覚ましい経済的復興をとげた。しかし先に述べた如く憂うべき事態が徐々に発生しつつあると思う。

外国の有識者は、日本は確かに素晴らしい発展をとげ、繁栄しているが、自然と人間と工業化とのバランスを失ってしまう情況になっている。あたかもロープで懸した橋の上に鉄骨の近代建築をしたようなもので、ロープを切断すると一挙に崩壊してしまうもろさを持っていると解説している。

果たしてそうであろうか。或いは我々は今、有史以来の危機に直面しつつあるのではなかろうか。天変地異或いは戦争など起こった場合、失業もなく餓死することなく、一億の民族が無事に生きていけるであろうか。

「天は自ら助ける者を助く」という諺の如く今こそ一億心をあわせて、真剣に事態に対処すべき時ではなかろうか。

モラトリアム　人間の時代

S・T

「モラトリアム」とは、支払猶予期間、つまり戦争、天災などの非常事態下で国家が債務、債権の決済を一定期間猶予し、これによって金融恐慌による信用機関の崩壊を防止する措置のことであるが、心理学者・小此木啓吾教授は「モラトリアム人間」を次のように定義している。

何事に対しても、その時その時における当事者であることを避ける。いつでも立場をかえ、考えをかえ、自分自身を変身させる余地をのこしておく。一貫した主義主張をもたないか、もたないふりをする。特定の党派、集団にすべてを賭けることを避ける。昨今、いつの間にか人々の心にこのような生き方がしみつき、身についてしまっている。いやむしろ、それが好ましい自分のあり方だと秘かに思う人々が増えているように見える。

元来、青年期は修業、研修中の身の上であり、社会の側が社会的な責任や義務の決済を猶予する年代とされているが、この青年心理＝「モラトリアム」心理が、今日においては世代を超えて、現代社会にくらす、すべての人々の深層心理に共有される「社会的性格」となり、もはや病理現象でなく、社会現象になったというのである。

「ところが、低成長、減量時代を迎え、これらの経済環境の変化が「モラトリアム人間」心理にどう影響するかが問われている。昨今、我々の身辺にも、時代の要請も伴い、逃避、猶予に果敢に挑戦する指導者の姿が散見される。

東京都の赤字解消と取り組む鈴木都知事。

多額の国債の解決策として、所得税の増税か消費税の選択を迫った大平首相。

我々もそれぞれ責任を分担することによって、社会を支える一人として、このような変遷に対して、ただ傍観のみでは許されない。

匿名の方より五〇万円。

右記の寄付金を九月十四日にいただきました。さっそく有効に使わせていただきます。

ありがとうございます。

事務局からのお知らせ

左記のとおり支部総会を開催致します。会員多数のご参加をお願いします。

一、名古屋支部総会
日時　十月十一日㈭　十四時三十分～十六時
会場　名古屋市昭和区鶴舞一丁目一ノ三　名古屋公会堂四階ホール

一、東北支部総会
日時　十月二十六日㈮　十七時～十八時三十分
会場　仙台市上杉二丁目十ノ二十　勝山大ホール

防災の秋　備えあれば憂いなし

東海レベラー鋼業㈱
中京製線㈱
東海鋼材工業㈱
西尾邦彦
広島シャーリング工業㈱
丸橋正彦
東海鋼業㈱
金森藤平商事㈱
三星金属工業㈱
早達運送㈱
㈱小山田工業所

はげまし

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
東京都中央区八重洲2－4－14
〒104　ミツヤビル 3階
発行人　高橋　嶠
TEL　03(272)2050
購読料　年間1200円(送料共)

公安の維持と並ぶ両輪のひとつ

災害警備活動

伊豆大島近海地震、妙高高原土石流、集中豪雨、宮城県沖地震、台風18号、昨年1年間に発生した主な天災被害は死者、行方不明者211人、負傷者3,651人、家屋全半壊流出8,586棟。これに際して出動した警察官は全国延べ77,000人 ― 54年版の警察白書があげた数字である。

危険にさらされたなかでの、機動隊員を中心とした救助活動、その活躍ぶりが紹介され、またこうした目に見えぬ敵に備えて、昨年は警察官78,000人を動員、全国延べ54回に及ぶ大災害警備訓練が行われた ― と同白書は続く。

いつやってくるか分からない災害である。先ごろ、政府が東海大地震に備え「地震防災対策強化地域」を指定したこともあってか、災害に対する関心が急速に高まってきている。このなかで実施された警視庁の震災および風水害警備合同訓練である。

被災者救出作業中の第八機動隊員

防水作業に懸命の第一機動隊員

風水害警備合同訓練
江戸川で鍛練の腕競う

台風が紀伊半島に上陸後、関東地方を直撃、九月十二日午前0時現在、関東各県下の山間部をはじめ、都内全域で記録的な豪雨をもたらした。このため、利根川水系の各河川は急激に増水、警戒水位を越えて、一部堤防で決壊が生じはじめた。午前四時ごろから江戸川でも堤防裏法面に漏水が生じ、さらに激流に洗われて表法面も洗掘されるなど決壊の恐れが強くなった。ついに小松川署管内の篠崎三丁目先で堤防の一部が決壊し、居住者の一部がとり残されて孤立し漂流の危険が生じている。さらに崖崩れも発生し、一部民家が土砂に埋没して家人がとじ込められた。

―この想定をもとに、警視庁は九月十三日午後二時過ぎより二時間三十分にわたり機動隊による風水害警備合同訓練を実施した。場所は江戸川の篠崎水門上流右岸の河川敷である。

特科車輛隊、航空隊を加え、警視庁の誇る各機動隊の精鋭がこれに参加、被害者の救出、あるいは水防工事に日頃鍛えた自慢の腕をふるって大活躍。各隊別にその訓練内容を紹介すると次のとおりである。

一機・月の輪工法、かま築工法による堤防補強。

二機・架橋工法、江戸川大橋の一部決壊を想定。

三機・牛工法、堤防表法面が洗掘の恐れあり、水勢を抑える目的の訓練。

四機・木流し工法、三機と同じ目的の訓練。

五機・長フルコン工法、三機、四機と同じ目的の訓練。

六機・長手三段積工法・増水による越水防止の訓練。

七機・ヘリコプター、舟艇による漂流者の救助。十名位の漂流を想定。

八機・むしろ張りシート工法、堤防の表法面浸蝕を想定。

九機・埋没家屋からの家人三名救出訓練。

特車・救命索によるロープ展張と舟艇による避難誘導。住民四十名の孤立を想定。

震災警備総合訓練
震度六・被害続出を想定

九月一日午前六時三十分ごろ相模トラフ上にマグネチュード七・九の地震が発生、東京都全域にわたって震度六の烈震に襲われ、各地で被害が続出した。

このような想定で警視庁の震災警備総合訓練が始まり、機動隊と特科車輛隊が出動した。

想定された被害状況は、警察有線電話が断線、無線施設も障害をおこし、情報確認が困難。国鉄、私鉄、バスも総て止まり、各所で道路の地割れ、橋梁、歩道橋損壊などの被害が続出、さらに河川の護岸にもき裂が発生、都民は危機にさらされている。

各機動隊は前日の当番員と成田警備派遣要員を除き全員が訓練に参加、日頃の錬磨ぶりを発揮したのである。

想定震災発生と同時に警視庁本部、方面本部、各警察署はそれぞれ、警備本部を設置して警備指揮体制をかためた。

一方、機動隊員は各自地震発生時の午前六時三十分に所属隊、あるいは特別指定警察署への参集活動を開始する。

各機動隊隊長は参集した隊員で直ちに部隊を編成するとともに最高警備本部に部隊編成完了を報告、いよいよ警備活動開始。

突発したパニック状態でとくに重視されるのは正確な情報を伝える通信網だ。最高警備本部はもちろんのこと各方面部隊にも機動隊から通信要員が派遣され、通信網がまず確保される。

通信網の確立を待たず、これと併行して各機動隊は直ちに住民の避難誘導活動を展開、交通混乱の整理と人命の救助、保護活動に入る。

このような機動隊の震災警備活動訓練は四時間にわたり繰りひろげられた。

第三回 北陸支部総会開く

発足三周年を迎えた北陸支部は、去る九月二十一日、新潟市で支部総会ならびに恒例の機動隊員との懇親会を開催した。

懇親会には君新潟県知事をはじめ多くの来賓とともに機動隊から北陸の精鋭一〇〇名が出席、会場を埋めつくして会員との交歓が賑やかに繰りひろげられた。

◇　◇　◇

機動隊員等を励ます会〃北陸支部総会〃は去る九月二十一日午後四時より、新潟市東大通りの日本生命ビル九階大ホールで開催された。この集いには大内俊司理事長をはじめ、全国から多数の世話人、それに地元の会員が参加、機動隊員一〇〇名を招いてなごやかに熱意あふれる交歓が行われた。

北陸支部は発足三年目を迎えたが、藤田文雄北陸支部代表世話人をはじめとする関係者の努力が実り、会員数八〇〇人を超え充実した活動を続けている。

機動隊員と会員を結ぶ第三回目のコミュニケーションの輪に来賓として君健男新潟県知事、森田昌孝新潟県警察本部長をはじめとする多数が、また機動隊からは新潟、富山、石川の北陸三県が誇る機動隊の精鋭一〇〇名が出席、励ます会会員一〇〇名と一堂に会しての懇談が続く。

北陸三県内ばかりでなく、あるいは成田に、東京サミットに、と日本の治安を守る第一線に立ち、日夜激務につく隊員達も、この夜ばかりは総てを忘れ、会員のど真ん中に楽しい一時を有意義に過ごした。

席上、君新潟県知事は「北陸の機動隊は全国でも有数の精鋭である。隊員は悪条件を克服して任務を遂行しているが、これも励ます会の支援の輪があってのこと」と挨拶した。森田新潟県警察本部長も「治安維持、災害警備に出動する機動隊員は悪環境のなかで厳しい任務を遂行しているが、これも皆様方の厚い御支援の賜物。今後とも会の発展を願ってやみません」と謝辞をのべた。

また励ます会からは藤田文雄北陸支部代表世話人が「今後とも当会設立の主旨達成に努力を続ける」と決意の程を語り、大内理事長も「会員と機動隊の皆様との交流を密にしよう」と力強く呼びかけた。

最後に、大阪から参加した石原幸男世話人による万歳三唱で盛会のうちに、終始した。

祝辞をのべる君健男新潟県知事

森田昌孝新潟県警察本部長

今月の言葉

真の勇気ということ

近ごろの世相をみると〃勇気〃のはき違えがはなはだしいように思える。暴走族が転倒すれすれのサーカスまがいの軽業を演じながら取り締まりの手から逃れるのに得意満面である。過激派は極端な少数意見を非合法手段で主張することに自己陶酔する。組員がつまらぬ暴力沙汰に命を賭けて悲壮感に浸る、―いずれも、それが〃勇気〃ある行動だと思い込んでいるので始末が悪い。

彼らに共通していることは、大向こう受けを狙い、観客の拍手を貰えるものと錯覚していることである。フランスのモラリスト、ラ・ロシュフコーは「真の勇気は第三者の目撃者のいない場合に示される」というが、この面からだけでも、彼らの浅薄さが露呈されよう。

さて、こういう場違いの勇気は論外として、一般的に戦後の日本人には真の勇気が足りないようだ。S・P・I東京特派員のヤン・デンマン氏は、週刊誌に連載の「東京コンフィデンシャル」のなかで、ドイツ人記者の言葉をかりて大要次のようにいっている。

―ドイツには〃市民の勇気（ツィビルクラージュ）〃という言葉があり、これが人間の徳とされている。どういうことかというと、自己の所信を堂々と表明する態度のことをいう。これは日本の国民性と非常に対照的で、日本の社会においては、ツィビルクラージュを発揮した人は、しばしばつまはじきにされる。

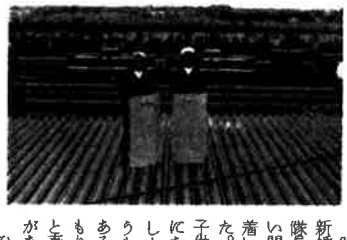
その好例が去年の七月に解任された栗栖統幕議長だろう。奇襲に対処するさいには超法規的行動も必要であり、その点で現行の自衛隊法には不備がある、という現場の自衛官ならだれでも感じていることを、正直に話したとたんに解任されるようなばかげたことが現実にまかり通っているのだから、だれもが勇気をひっ込めるようになってしまう。―

そういわれてみれば、たしかにその通りだろう。そういった〃勇気〃が不足していることは肯定せざるを得ない。身近な例をとってみれば、われわれ励ます会の会員にしても、われわれの安全を護る機動隊員等を励ますという至極正当明快な問題につき、一人一人が遠慮なく、もっともっと声を大にして社会に主張してよいはずだ。

点と線を守る縁の下の力持ち

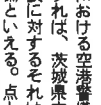
茨城県警察機動隊

暴力許さじ―今日も空港関連施設警備が続く



成田における空港警備を面の警備とすれば、茨城県内の空港関連施設に対するそれは、点と線の警備といえる。点とは県内ほぼ全域にわたって点在する航空無線の送信所・中継所および標識所であり、それらは筑波山頂や、市街地からかなり離れた関散な場所に位置している。線とは新空港へジェット燃料を貨車により送り込んでいる大動脈の鹿島臨海鉄道と国鉄鹿島線だ。これら通信と燃料関係の点と線の重要施設が破壊されるような事態が発生したならば、新空港はその機能を失い、マヒ状態に陥るはずである。

成田空港警備に比べると茨城県での警備活動は地味である。しかし茨城県警は、警備するはるか上空を瞬間的に通過する旅客機の安全と、その燃料確保による空港機能を守るという使命感に燃え、縁の下の力持ち役を今日も黙々と果たしている。



新空港関連施設警備

高山　陽好（茨城県警察機動隊）

私達茨城県警機動隊は、これら施設の中でも特に重要な友部航空無線送信所及び筑波山頂中継所の防護警備と鹿島臨海鉄道の沿線遊動警戒を任されている。この三つの重要防護対象には、ローテーションにより連日連夜機動隊員が配置されるが、その勤務形態は、それぞれ異なる。

友部送信所は約二八万平方メートルの草地に送信アンテナが張りめぐらされた広大な場所である。松林に囲まれている為、夜間度々発生する濃霧のため極めて見通しが悪く、隊員達は非常に神経を使う。その成果はこれまでゲリラ事案発生0という数字によって、表れている。

筑波中継所は関東の霊峰筑波の山頂に位置する。同所まで隊員はケーブルを利用して配置に着く。八七五メートルの山頂の夜は全くの無人となる。隊員も狭い中継所の建物の中に入って勤務するので、文字通り守りの警備を強いられる。昨年六月に、同所はゲリラの攻撃を受け、警察官が負傷するという事案が発生した。それ以来機動隊員による専属配置というわくつきの場所となった。機動隊の名誉にかけ、もし再度ゲリラが発生したさいは、必ず検挙するという気概で隊員達は今夜も隙のない警備を続けている。

総延長約二〇キロの鹿島臨海鉄道は、鹿島港の石油会社から毎日一八両編成の貨車列車五便で、三八〇〇キロリットルのジェット燃料を国鉄鹿島線まで輸送している。極左暴力集団は輸送開始期においては、デモの大量動員で一番列車阻止を図ったが、私達機動隊に制止されてしまった。ところが貨車輸送が軌道に乗るや、戦術をゲリラによる列車妨害に転換したのである。そして開港以来今日までに、生コン車とダンプカーを使ったゲリラ事犯二件を敢行している。PC五台をフル回転させ、風雨をいとわず検問勤務に当たってきた隊員達はゲリラ事案を許してしまったという自責の念に痛恨の涙をのんだのである。だが、再びこの種の事案を絶対に許さない、このような無法者を必ず検挙するとの決意も新たに沿線警戒のためPCを発進させる隊員達の姿は心強い。

友部を守りぬく

本田　和男（関東管区機動隊）

茨城県のほぼ中央に位置する友部町、この町の中に、周囲を金網で張りめぐらした、送信所がある。いわゆる航空無線友部送信所である。この送信所は、広大な敷地で、その中は松林が立ち並ぶうえに、深夜から明け方にかけて、濃霧が発生するので視界はきわめて悪い。このような悪条件のもとで、私達は成田空港から飛び立つ旅客機の安全運行を願いながら、昼夜の別なく厳しい監視の目を光らせている。

県内には、このような重要防護施設が五か所ほどあり、その中に友部送信所があって筑波無線中継所同様、重要な意味あいを持っている。

この送信所警備に課せられた任務は、極左による攻撃の未然防止にある。そのためには筑波襲撃事件で得た苦い教訓を基本として、日ごろの勤務、訓練を通じ、個人個人が体力、気力の向上を図ることはもとより、いつでも突発事案に対処できるような「自信」をもつということが最も重要なことである。このような自信が勤務を通じ、積極的な職務執行となり、ひいてはゲリラ事案の未然防止につながると思う。

管区機動隊のシンボル赤いダイヤに身を託して早や一年半、入隊当時のあの完全装備の重さ、真夏の焼きつくような太陽の下完全装備の立番勤務、そしてぬぐってもぬぐってもとめどなく流れる汗、また厳しい酷寒での徒歩警戒、冷えきって足の感覚がなくなったつらさ等々、数多く経験してきた。

だが、成田から飛び立つ飛行機を今日もまた無事に飛行させるという使命感が、このつらさを吹きとばしてくれた。

機動隊員の妻として

井川　律子

警備に明け暮れる機動隊員。これを支えるのが心優しい奥様である。内助の功、夫人達にもとくに登場していただいた。

昨年の成田空港開港当時は、新婚三か月目でした。まだ機動隊員の妻として地に足のつかない間に鹿島出動の連続で、落ち着いた生活のできない毎日でした。父を警察官にもった私は、子供の頃、家族で外出する間際になって、急に仕事で出掛けてしまう父の後ろ姿に、淋しさとうらめしさを味わいましたので、ある程度の覚悟はできているつもりでした。しかし子供の場合と妻の立場では、かなりの開きがあることを感じました。

ひとりっ子として育った私は、一晩も一人で過ごした経験がなく、夕方近くになると落ち着かず、テレビに写し出される現場の様子に不安は増すばかりで、なにも手につかない毎日でした。

およそ洋の東西を問わず、男性が職場で立派に仕事ができる陰には、女性の力が加味されていると言われています。私には耳の痛い話で、今だに内助の功がどのようなものなのか分からないのが現状です。そこでいまは、ソクラテスの妻よろしく悪妻に徹している次第です。主人の仕事が少しでもやり易いようにとあせっていても、いまだに暗中模索の状態です。先輩の奥様方のご指導を受け、一歩一歩妻としてのつとめを果たせるよう努力してゆきたいと思います。

この世の花

安蔵　久美子

「若い命はだれでも同じ
空と海とが好きなのさ……」

という歌詞で始まる『この世の花』という歌が私はとても大好きです。それは、機動隊員の妻として"隊ぐ"ことになった私にとって、いろいろな面で、とても元気をつけてくれた歌だったからです。今思えば、交際期間中はちょうど成田問題のたいへん忙しい時でもあり出動しているときは、新聞ニュース番組は、すべて目を通していたようにいます。漠然としか主人の仕事を理解できなかった私でしたが、言葉で表現できずとも、この歌を歌うことによって、なんとなくすべてが理解できたような気分にひたってしまうのです。

これから、いろいろなことに出会いながら人生を歩んでいくわけですが、主人には、人間らしい機動隊員であってほしいと思います。そして、最も大切なことは、不愉快な気持ちで朝仕事に送りだすようなことがあってはいけない！　ということです。そして笑いのたえない、明るい家庭づくりに専念したいと思っています。

団結の強さに感激

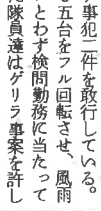
谷口　和子

「機動隊に入隊」――私が最初に感じた事は、「危険」に対する不安でした。警察官の妻になることは、常にこの不安があるものと覚悟はしていたもののやはり動揺してしまいました。

私達の結婚式の日、多くの機動隊員の方々や同期の警察の方方とお会いしました。その時、「この方々にも私のような不安を感じているご家族がいらっしゃる――私だけの悩みではない」そう思った時、今まで重たかった胸の中がフッと軽くなったような気がしました。

私が「機動隊」を強く意識するようになったのは、主人の入院の時でした。入院の知らせを受けて、足がガクガクしたのを覚えています。結婚して間もないころで、機動隊の方々は、身内のようにお世話してくださり心強く感じました。忙しい仕事の合い間をぬってかわるがわるお見舞いに来てくださった上司や先輩やお友達に、どんなに主人も私も心を支えられたことでしょう。

私は強い仲間意識と団結力ある機動隊に勤める主人は幸福な人だと思います。この主人のために機動隊員の妻として、しっかり家庭を守れるよう努力していきたいと思います。



筑波山頂での任務

針替　和幸（警備部機動隊　土浦小隊）

そして、これからも、関東管区機動隊「融和団結」「積極果敢」を隊員として、友部を守りぬきたい。

あたり周辺は、すべて闇、その中に外燈の光が一つだけ輝いている。一時間ほど前から発生した霧で今では外燈の光さえぼんやり霞んで見える。騒々しい車の騒音などとく聞こえず、ただ聞こえるのは虫の泣き声ととぎおり聞こえてくる遙か遠い雲の上を飛ぶ旅客機の音だけである。ここは、筑波山の山頂にある筑波無線中継所。

管区機動隊に入隊してはやくも半年、仕事の大半が、鹿島警備とこの筑波無線中継所警備、いつくるかわからない見えない敵から成田関係施設を守るために、我々は警戒警備する。

筑波無線中継所警備は、単調である。単調であるため慣れてくると惰性になりがちである。そういうとき、我々は昨年六月に過激派に襲撃されたことを思い起こす。出入り口の鉄のドアのところには、今でもありありとあの時の火炎ビンのこげ跡が残っている。

もし過激派に襲撃された場合、山頂には我々六人しかいない。その六人で応援が来るまでの間、筑波無線中継所を過激派から守らなければならない。我々に課せられた任務は、重大である。

警察官である以上だれでもが、二度とあのような屈辱は味わいたくない。今度過激派に襲撃されたときは、「必ず逃捕してやる」と自分の心の中でつぶやく。

そして明日もまた、我々は見えない敵に向かって、鹿島な、筑波無線中継所を、過去の屈辱をかみしめ警戒警備にあたっている。

過激派を寄せつけない

菅原　英夫（警備部機動隊）

九・一六闘争に伴う鹿島ジェット燃料輸送警備に従事中の九月十四日未明の出来事である。鹿島に潜入した過激派が砂利採取場から盗んだ砂利を満載したダンプカーを線路内に突き落とすというゲリラ事案が発生したのである。無事警備が終了しようとしていた矢先の出来事であっただけに、ゲリラ発生の報は昼夜、寒暑をいとわず警備に当たっていた私達にとっては、まさに衝撃的で胸にクサビを刺されたような出来事だったのです。しかし、いつまでも虚脱感におそわれているわけにはいきません。間もなくジェット燃料輸送の第一便の始発の時間です。そこで私達はとりあえず現場に急行しました。現場は無残にもダンプカーが突き落され、周囲には積んであった砂利が飛散し、レールも衝撃で曲がっていました。

成田空港のジェット燃料の備蓄量が低下し、列車の増便が検討されている矢先だけに、一便たりとも遅らせるわけにはいかず、私達はレッカー車の手配をして現場迄誘導し、幸いにも無事列車を通過させることができました。

後日このゲリラ行動について革労協が声明文を発表しました。しかし、この彼らの反社会的な行動をだれが評価し賞賛するでしょうか。反対同盟に対し一貫して支援の立場を取り、過去幾多の流血の惨事を発生させた彼らの一連の先走った行動が、結果的には政府と住民の話し合いによる解決を不可能ならしめたのではないかと思う。私達機動隊は、彼らの反社会的な行動に屈することなく社会正義実現のため、より一層努力していかなければと思う。

過ぎし夏の日

澄んだ空に爽やかな風、秋が深まっていく。太陽と海と潮風、賑わった浜辺もいまは人影がない。さらば夏よ、隊員とその家族に、夏休みの思い出を寄稿していただいた。

八朔祭の花火

九機　川島　武
（九五七期　中隊員）

毎年夏になると、各地方で花火の競演が繰り広げられる。私が幼いころは、隣り近所誘って、ゴザを持って見物に行ったものである。

私の故郷福岡では、九月一日、二日の両日、八朔祭の日に花火大会が行われる。時季的には遅いかもしれない。

その八朔祭というのは、八朔という夏ミカンに似た果物の豊作を願い、秋の収穫を祈る祭りである。

ちょうどこのころは、日焼けで真黒になった顔で、第二学期の始業式に重い足取りで登校しなければならなかった。そんなとき、昼間から祭りの雰囲気をかもしだす合図玉が村中に鳴り渡り、狭い教室のあちこちでは、出店の数、芝居の内容等の話が盛りあがっていた。

式が終わり、急ぎ足で家に着くと、小遣い銭百円を持って、祭りに繰り出したものである。この百五円は、百円札一枚が飲み食いの金で、五円はお賽銭である。我々の子供のころは、百円札一枚がまだ大金であった。

さて、夕方は祭りのメーンエベントである花火見物に一家総出で繰り出すのである。勿論場所は近いし、家から見えなくはないが、一つの語らいの場所として各戸ともゴザを持ち、手料理持参で足を運ぶのである。今では芝居はないが、当時は芝居を見ながら、その背に花火が上がり、広い川原にはどよめきがとめどなく続いたものである。

今とは違い、当時の花火は玉が大きく、夜空に描かれる花輪は、さながら大宇宙の花園を思わせるようで、花火があがるつど歓声があがったものである。まさしく天を焦がすかの如く、「デカーン」という音が夜空の中に散り、その瞬間は、もう声も出ないほどである。だれもが我を忘れ、いつまでも夜空を見上げていた。

それほどに田舎の花火というものは迫力があった。それというのは、指折りの花火工場があったからであり、さらに火薬を包む紙は有名な八女和紙が使われていたからでもあろう。花火の生命は、火薬の量、色付けするための火薬の配置、そして包装紙の良し悪しできまるといわれる。花火大会が終わってから、真二つに割れた焦げ殻を拾い集め、大きさを競い合うことが、我々腕白小僧の楽しみであった。

幻の海水浴

梅野エツ子
（八機　梅野正晴氏夫人）

「オーイッ、今年の夏は全員で海水浴に行くから用意をしておけよ」――暑く、長かったサミット警備が終わった夜、主人はいつもの無口とは人が変わったように子供達を抱きあげたり、ほおずりをしたりして上機嫌でビールを飲んでいました。

結婚して六年余、夏休みの計画は、切符の手配から宿の手配まで、すべて私がおぜん立てをしてやっと腰をあげるのが常でした。今年は〝やる気だな〟と思い主人を見直しました。

さて、七月十九日から二十二日までの四日間、場所は千葉県富津の海の家と決定、子供達は二、三日前から水着を着たり、おもちゃをつめたり、地図を見たりで大はしゃぎ。

私も今年こそは泳いでみようと大志をいだき、へそくりをはたいてデパートに出かけ、年の割りにはちょっと派手なセパレートの水着を買ったりして無我夢中。

ところが、いよいよ出発の前夜、無情にも天候は台風接近とかでどしゃぶりの雨。子供達も大あわてでテルテル坊主の急造にかかりました。

私も新品の水着のことでもあり、つい「どうするのよ、あなた！　しっかりして！」と責任を主人に押しつける始末。主人は主人で「わかった、わかった」と言いながら、ラジオやテレビのニュース、電話の天気予報を聞いたりして家の中をただおろおろするばかりでした。

天気予報は非情にも、「明日からは海上は大荒れになるでしょう」とのこと。ついに海水浴は断念することになりました。

「せっかく新しい水着を買ったのに、あなたがめずらしく『海水浴に行くぞ』なんて言うから台風なんかにあたるのよ」と、ちょっぴり悪妻らしくいやみを言いながら、二人で次の計画にとりかかったが、困るのは子供達をいかに説得するかです。結局子供達は電車に乗せさえすれば納得するだろうと陰謀が決まり、栃木県の主人の実家に行くことにしました。

翌日は雨のなかを一家四人、我が家の夏休みに出かけたのです。主人の実家につくと、海のことなどすっかり忘れ大よろこびのようでした。ただ主人だけが、「早い時期に休暇をとりすぎて失敗した。来年は天気予報などを十分に調べて、お前の計画にしたがって休暇をとるよ」と、しょんぼりしているのが印象的で、ちょっぴりかわいそうでした。

我が家の夏休み

首藤　明子
（七機　首藤達朗氏夫人）

今年の夏休みはどこへ行こうかと、何か月も前から気にはしているのですが、間ぎわまで何の手はずもとらずとうとう夏休みに入ってしまいました。主人の休暇予定日が決まり、そこであわてだしますが後のまつり。これが我が家の恒例です。

子供達には「今年の夏休みはウルトラマンの映画を見て、サマーランドへ行って、それから……」、と念をおすと、子供は「う、うん」となんとも複雑な返事をします。

ところが、主人の実家の大分より電話が入り、どこも予定がないのなら孫の顔を見せに帰るようにとのこと。この言葉で即決。八月二日と決定しました。お土産は何が良いか？　着換えは？　履き物は？　などここち良い準備の忙しさを味わい、いよいよ羽田空港をあとにして、一路大分への旅に出ました。

特に次男の喜びようは大変なもので、背中にしょったリュックは一度もおろさず、しょいっぱなしでした。

さあ、おばあちゃんの家が見えた、子供達は全力疾走。「こんにちは」「よく来たね」。昨年よりはまた一段とくの字に腰の曲がったおじいちゃん、やや白髪の増えたおばあちゃん、でもお二人ともとてもお元気。来てよかったとつくづく思う一瞬でした。

一日目は実家でゆっくり、親子水入らずで一年間の空間を語りうずめ。二日目姉の家を訪問。三日目黒島で海水浴。四日目耶馬溪、青の洞門等見学、そして別府のホテルで一泊。五日目、地獄巡りと精力的に見てまわりました。

しかし、一週間の旅はつかの間に終わってしまいました。

こうしてベンを走らせていても楽しかった日々が浮かんできます。

おじいちゃんが言いました。「私らが元気でいる内は年に一度は孫の顔を見せに来て欲しい、旅費ぐらいは出すよ」

ありがとう、おじいちゃん、また来年来ます。

暑い季節

七機　三宅　有二
（八五五期　警備係）

私は暑い夏の季節が一番好きだ。

波は砕けて、白く飛び散る。

焦げつく太陽は見るものすべてを焼きつくす。

ここにも顔を赤らめた、そしてすっかり焦がした真黒の顔が、体が波打ぎわまで続いている。

こんな夏の情景を幾度見ただろうか。そんな想いから、心の動揺からふっとふるさとの夏を追ってみたくなる。

赤トンボの群れがシンプルヴィューの中に写し出されたときに、村人達は夏の季節を感じとるのであろうか。

そして盆踊りの練習のため田仕事を早々と終え、野良着姿のまま村の中央広場に集まってくる。

それぞれ模様の違う浴衣姿が、小円形から大円形になった時、絶頂を来たす。太鼓や笛が呼え渡るのもこの時である。夜店は、ところてんだのラムネだの、夏の風物で魅了している。そして私などは、あれを食べよう、これを飲もうといわんばかりに夜店に並ぶのである。せいぜい三、四〇人位の大人や子供であろうが、一〇〇人位にいやそれ以上の人に見えた。そして踊りの輪は少しも崩れずいつまでも続いていたことを記憶している。

その想い出されてくる余韻を思い出させるかのように、私の住む町から盆踊りの歌声と手拍子が聞こえてくる。

私はその歌声と手拍子を聞きながら、遠い昔の自分に浸っている。

まもなく夏の盛り、今年も再び炎熱の砂浜に腰をおろすだろう。波のざわめきがふるさとの夏の余韻を打ち消すように、心の動揺から遠ざけてくれる時、目に映る波の音は穏やかであり、海の色はブルーに見えるのである。

われら防人

カッパの二機　優勝!!

警視庁は九月十三日、江戸川で機動隊対抗ボート競技大会を開催した。この競技会では通称カッパの二機の異名をとどろかせる第二機動隊が定評どおり優勝、ニックネームに恥じない健闘ぶり。

〝カッパの二機〟には副総監杯、警備部長楯が贈られた。

明日の日本を担う力　ありがとう

（50音順）

川淵長一
木村政次
黒田一
杉尾栄俊
鈴木實
高橋重廣
中村是一
南保夫
村上益一

会員の広場

恩義忘れじ

嘉悦　康人

去る五月二十七日、ライオンズクラブの台北地区と東京地区とが姉妹地区の締結をしたのだが、その立会人として何応欽将軍が臨席された。

東京地区の代表者として出席した私は次のようにご挨拶を述べた。

「私は、貴国の故蔣介石総統と何応欽将軍に対して、お礼を申上げることを一日たりとも忘れたことはない。それは昭和二十年不幸な中日戦争が終った時に示された次の事実についてである。

故蔣総統は〝怨に報ゆるに徳をもってする〟と申されて、〝一、天皇制廃止反対、二、日本四分割占領反対（筆者註・北海道をソ聯、本州をアメリカ、四国をイギリス、九州を中国）三、賠償放棄〟を実行して下さったのであるが、これなくしては日本の現在の姿はありえなかったと考えている。

さらに何将軍は、四百萬人以上の在留邦人と兵隊を無事に日本に送還して下さった。

満州やシベリアにおけるソ聯軍が邦人に対して、略奪・強姦・暴行のかぎりをつくしたことと比較して、神のような心と行為に対し、日本人全員に代ってお礼を申上げる」と述べたところ、何将軍は、

「日本と中国はもともと兄弟の国である。それが不幸にして兄弟喧嘩をしたが、喧嘩が終ればもとの兄弟であるから、当然しなければならないことをしたまでです」と言われたのであった。

若い人はもちろん中年の日本人でも、このことを知らない人がいる。

北方領土問題とこの事実を比較すると、まさに民族あるいは人間の心として、雲泥・天地のごとき差があることを感じるのは私ひとりだろうか。

陛下が、終戦直後の国民を餓死から救うために、マッカーサー元帥に逢いに行かれて、命乞いにきたと信じていたマ元帥を驚嘆させ、「私は始めて紳士と呼べる人に逢った、そして私は、生れて始めてと言ってよいぐらいの感動を覚えた」

とマ元帥に言わせた。

陛下の大御心に比すべき、この故蔣介石総統と何応欽将軍の恩義を忘れずに生きる日本人が一人でも多くあることを、日本人のために心から祈らずにはおられない。

大阪府警察学校卒業式

高島氏が代表で列席

大阪府警察学校の卒業式および本部長点検が九月二十五日行われ、来賓として高島浩二氏が機動隊員等を励ます会の代表として列席した。

同校は大学卒が六か月、高校卒一年間の教育期間であり、定員に対する競争率はさっと五倍。

今期の卒業生は一般課程（高卒）七九名、短期課程（大卒）二五一名、婦人警察官課程三五名、合計三六五名。平均年齢二十二才であった。

もったいない

橋本　積

むかしの人は、物を大切にしたばかりでなく、それらを生かして使っていたように思う。

たとえば、ゆかた一枚にしても、人前で着られないようになると、使い込んでやわらかになっているので、次は寝間着として使う。寝間着として使ったゆかたを次はほどいて赤子のおむつや、ぞうきんに活用していた。

赤子の柔らかい肌をいためないためには柔らかいことが条件であり、また、ぞうきんは水分の吸収がわるくては困るので、さんさん使って柔らかくなった木綿の布は、その条件を十分に満たして非常に合理性があるわけで、このような例は、米をとったあとのワラで俵を作ったり、ゴザを作ったりして活用し、最後は燃料として湯をわかしたり、飯をたいたり、エネルギー源として利用したあと、カスまでワラ灰として肥料とし食糧の生産に役立たせていたなどもその一つだ。

このように、物を大切にし有効に利用し活用する知恵と伝統をもった日本人が最近まで、それをすっかり忘れてしまったようだった。豊かになった弊害であろうが、こうした知恵と伝統はたやしてはなるまい。

日本の高度成長期には、消費は美徳なり、と昭和元禄を謳歌した風潮も一時あり、節約とか合理的消費ということが殆んど考えられない向きもあり、よろしいことではないなとかねがね思っていた。

いまや石油ショック以降経済構造は一変し、最近の日本経済は誠に困難な時代に様変りしてきた。

このように世界的に波乱ぶくみの昨今の情勢下では、それに対する種々の時代への適応力が必要であるが、この「もったいない」という、古きよき時代の日本人の専売特許であった精神がにわかに必要とし、クローズアップされ見直されるようになったことは誠に心強いことと思う。

物を大切にする知恵と伝統をさらにさらに生かそうではありませんか。

努力の積み重ね

中島　里治

自分で自分がいかに優秀であるか、或いは、働いたかを誇示したがる、所謂、「俺が」を吹聴する人間を日常生活のなかでよく見かける。相手に自分の力を認めさせようとして自己宣伝するわけだが、なかには他の人がやったことまで自分の力でやった如く宣伝する人もいて、聞いている方の立場からすると、しつこく言われれば言われる程、その信頼性を失う場合が多い。

また、その反対に何か問題が起きて、その解決への姿勢、或いは、その結果を見るにつけ、日頃はあまり感じなかったその人の力量、大きさをあらためて感じさせられることもしばしばある。

私はサラリーマンなので、このような例を会社のなかでよく見かけるが、優秀な人は積極的に自分の器以上の人物に接することを求め、そういう人にその個性や真価を発揮させようと、黙々と苦心しているのを肌で感じ、感動的とも言える感銘を受けることがある。別な角度から言えば、自分の価値を認めさせたいと思うなら、黙って行動しそれを表すだけで、自然に周囲の人びとはその真価を知るし、その人を尊敬するようになるものである。

どこの集団、社会でもそうであると思うが、最終的にはこういう人達の努力、苦心によってその秩序が形成されるものだと思う。そして、集団の集団である地域社会、或いは国家という単位でも、その秩序、治安というものの理想的な姿もまた、そういうものなのかも知れないと思う。

よく外国帰りの人に日本の治安は世界一だという話を聞く。一日一日の努力の積み重ねがその評価を得ているものと思う。そして同時にその一つ一つの努力に頭の下がる思いを感じるのである。

寄付金

杉尾栄後氏より九月二十九日付で二〇万円の寄付金を頂きました。

氏は去る七月の総会で、当励ます会の功労者の一人として表彰され、当会がより一段発展することを祈願しての寄付です。

ありがとうございました。

明日の日本を担う力　ありがとう

（50音順）

明鋼材㈱
㈱小沢製線所
高周波熱錬㈱
三和鉄構建設㈱
㈱周東商会
田島鋼材㈱
知多金属工業㈱
東北鋼業㈱
柏陽鋼機㈱
北越メタル㈱
丸定産業㈱
明道金属㈱

はげまし

発行所
社団法人機動隊員等を励ます会
東京都中央区八重洲2－4－14
〒104　ミツヤビル3階
発行人　高橋　繁
TEL　03(272)2050
購読料　年間1200円(送料共)

名古屋支部総会

名古屋鶴舞公園の名古屋公会堂で第五回名古屋支部総会および懇親会が開かれた。

◇　◇　◇

十月十一日、世話人および会員一五〇名、これに機動隊員一五〇名を迎えて繰りひろげられた名古屋での励ましの輪はまず鈴木茂・名古屋支部世話人の挨拶で始まった。

―世界の情勢は常にどこかで緊迫しているが、日本は戦後三十四年、ずっと平和に過ごしてきた。これをよくかみしめていきたい。市民が平和な生活を営める陰には、日夜分たず献身的に努力している機動隊員の存在を忘れてはならない。当支部の励ます会の会員もいまや二、三〇〇人に増えてきた―

つづいて野本国彦・警察部長（丸谷定広・警察本部長の代理）が「二四六人の機動隊員が昼夜寒暑に負けず励んでいる。八〇年代は先が読めないのが特徴だが、今後ともがんばっていく」と謝辞を述べた。

祝辞に立った相川孝・中部管区警察局長、「物心両面にわたる励ましに深く感銘した。世界のなかでも、日本は安全で住みよいとの評価だが、これは法秩序が整然と守られているからである。警察官、これに機動隊が警備の中核として存在していることは厳然たる事実であり、今後とも使命に徹する。こうした励ます会は日本国民の良識の結晶であり、今回始めて出席したが、こみあげる感謝の気持ちを押さえられない」と感動的に語った。

大内俊司・励ます会理事長が、「機関紙はげまし」を強化し、より一段のコミュニケーションをはかっていく」と、乾杯の音頭をとり、続いては機動隊員による歌、空手、大道芸、寸劇など多士済々たるところが披露された。

お礼の言葉として鈴木桂一・愛知県警察機動隊長は「平均二十五才のわれら機動隊員は支援を感謝、より一層任務に励む」と力強く語り、川端長一・大阪支部世話人の万歳三唱で締めくくった。

こうした励ます会に出席した隊員は、異口同音に感謝の言葉を語るが、「びっくりした。この会のことは常々聞いていたが、本当に存在していたことを今日自分の目で確認した。理解者があることは心の支えになる」（車両小隊・鈴木俊宏隊員）の言葉が印象深かった。

盛会を祝い万歳の大唱和
上・相川中部管区警察局長
中・野本警務部長

今月の言葉

韓国政変に思う

朴大統領撃たる、の報に接した時、これからどういうことになるのだろうか、という意味でのとまどいや驚きは、ケネディ大統領が凶弾に斃れた時以上のものであったかもしれない。

それは、まさかという意外性での驚きはケネディ暗殺の時のほうがはるかに大きかったかもしれないが、日本に最も近い隣国、しかも政治的にも経済的にも異常な緊張下にあるという意味からは、ケネディの時よりもはるかに身近な場面での影響が想像されるからであろう。核戦争の引き金よりも局地的な侵略戦争の恐怖のほうが生々しいというのが人情の常かも分からない。

朴大統領が撃たれたという事実は、とうとうというか、やはりというか、独裁者の終焉の一つの形として起こり得べくして起こった事件かもしれない、という気がしないでもない。事件の真相はいまひとつベールに包まれているようだが、いずれにせよ、あの有名な徹底した警備ぶりを以ってしても護り得なかったという事実は、歴史的にまた一つの大きな教訓を残したことになるだろう。朴大統領は自由主義陣営の最前戦で強力な政権を維持し続けたという大きな政治的機能を果たしてきたことと同時に、強力政権の代償としての病巣もまたその体質深く進行していたということになるだろう。

翻ってわが国の情勢を顧ると、暴徒と化したデモ隊に素手で立ち向かう機動隊員の姿を思う時、そこには銃の放列ではけっして護れない、かけがえのない貴重なものが賭けられているということを再認識せずにはいられない。

これこそ国民との合意の上で、国民とともに、国民のために護られている真の自由であると思う。

私たちは隣国の政変に際し、今一度みずからの国をふりかえり、この麗しき国の何が大切で、何を正さなければならないか、皆で真剣に考えないと国際的な情勢の変化への対応ができないのではないかと思う。自分を知らぬ、自分の祖国を知らぬという意味では残念ながら日本人は、相当の後進国と言われても仕方ないのが現状であろう。

心の輪がふたつ

菊薫る秋日和の10月、励ます会の祭典が二つ開かれた。名古屋支部総会と仙台支部総会。

日本国民の良識の結晶といわれる心の輪は、これからも各地区でさらに広がっていこう。

仙台支部総会

広瀬川のせせらぎ、杜の都、青葉城の仙台で開かれた第四回東北支部総会および懇親会は一段と熱気を帯びた。

◇　◇　◇

十月二十六日、東北各県警から機動隊員一四七名、励ます会から大内俊司・理事長を始めとする各世話人、それに東北地区会員二〇〇名が、仙台市上杉二丁目勝山大ホールに参集した。

開会の挨拶に立った近江八郎・東北支部長は、東北管区警察局より感謝状が贈られたことを改めて披露した。四十四年四月に発足した東北管区機動隊の創設十周年記念として、励ます会東北支部が同管区機動隊員の士気高揚に寄与したことに対する感謝状である。

今後とも励ます会をもっと大きく、力強い輪にする決意のほどを、近江支部長は次のように語った。

―昨年の総会が終わって東北機動隊は即成田へ向けて出動した。この一年間で七回、延べ二万名が出動しており、心よりご苦労様を申しあげる。

六月の東京サミットでは、一部心ない人が警備の行き過ぎをとり沙汰したが、国の発展のため黙々と危険な任務についている隊員には感謝の念あるのみである。

総会に先立って東北管区機動隊の局長査閲に列席したが、東北機動隊は日本のなかで最も優秀、最も精鋭であるとの感を一層深めた―

これに対して百瀬涓・東北管区警察局長は「当地区機動隊が発足して十年、幾多の治安に出動した。今年のサミット警備でも、警視総監から東北機動隊は休止時にも出動服を着たままで隙をみせないとほめられたが、これというのも皆様の支援があることを胸中深く信じているからこそである。国民の理解、国民の正義のためにも励ます会の発展を願って止まない」と祝辞を述べた。

島本耕之介・宮城県警察本部長も励ます会に対するお礼の言葉を力強く語った―機動隊員は炎暑酷寒のなかで出動しているが、励ます会を思うと勇気が倍増する。第一次安保時に聞いた当時の総理と警察庁長官、警視庁総監のやりとりを思い起こした。

「警察だけで人員が不足なら自衛隊の出動も」という総理の言葉に対して長官および総監は、「警察ひとりひとりは自衛隊員より弱いかもしれない。しかし警察は県民、市民が後についている。その支援がある限り一番強い」と答えた。つまり国民の支援に勝るものはないが、その形が励ましに端的に現れている―

つづいて宮城県警察音楽隊三五名によるブラスバンドの演奏、鈴木実・東京本部世話人の乾杯で懇親会はいちだんと盛りあがった。

〝団結をつき固めよう〟と餅つきが威勢よく行われ、隊員による歌、踊り。このなかで柴山時夫・機動隊長が渋いノドをきかせる前に「はげまし十月号に載った『ナンバーワン・日本の機動隊』に感銘を受けた」と声を大にし、最後は松本三良・名古屋支部世話人の万歳三唱で賑やかに飾った。

入隊して四年目、始めて同懇親会に出席した安藤利雄・第一中隊第一小隊員の「ただ感激あるのみです」の一言が若い隊員の気持ちを代弁していた。

上右・百瀬東北管区警察局長
上中・島本宮城県警察本部長
上左・東北支部懇親会四たび盛大に開く
下左・会場にこだまする力あふれる杵音

東西対抗①

福岡の剣道VS北海道の相撲

機動隊員に要求されるのが体力と気力、それにチームワークによる団結力の養成である。スポーツはある面では警備実施の極意と相通ずるものがあり、仲間意識を強めることによって警備活動にも好ましい結果をもたらす。

それぞれが日本一を自負する全国の各機動隊、東西対抗シリーズとして初回は剣道と相撲のお立ち合い、行司は読者の皆様方である。なお次回は埼玉県警ボート部と大阪府警ラグビー部の取り組みを予定している。

剣道日本一・天皇杯を手に石橋隊員

山下和幸第一機動隊隊長

福岡県警察第一機動隊に〝日本一〟のタイトルを持つ隊員がいる。〝剣道日本一〟の石橋正久隊員（剣道五段）がその人。

すでに、ご存知のことと思うが、石橋正久隊員は、昨年十二月、日本武道館で開催された第二六回全日本剣道選手権大会に初出場。「剣道日本一」の栄冠に輝いた剣道界のホープである。

当時、新聞、テレビ等のマスコミは一斉に『福岡から二十四年ぶりの快挙』『剣道日本一福岡県警察第一機動隊　石橋正久五段』と大見出しで報道した。

日本剣道選手権大会で、福岡県警察の選手が優勝したのは、もちろん初めてであり、本人はもとより福岡県警察、福岡県剣道界に大きな名誉をもたらした。

福岡県警察には、先のメキシコオリンピック柔道大会でゴールドメダリストとなった二宮和弘、園田勇の両選手がいるが、石橋隊員が〝剣道日本一〟の快挙をなし遂げたことで柔剣道ともに覇者を擁する県警察となったのである。

その主人公、石橋隊員の郷里は、有明海に面した、福岡県三池郡高田町である。剣道との出合いは、父親の勧めで小学校六年生のとき近くの町道場「若葉道場」へ通うようになったのがきっかけと聞いている。

それ以後、剣道に魅せられた石橋隊員は柳川商業高校、専修大学へと進み、その技を磨いた。学生時代には、国体、全日本学生剣道大会で優勝するなど、すばらしい戦績を残した。そして、「剣道を続けるなら警察が一番適している」と、大学を卒業すると、昭和四十九年七月、福岡県警察官となり、機動隊員となったのである。

機動隊においては、剣道特別訓練員であるとともに、第二中隊第三小隊に籍をおく隊員である。警備車案が発生したり、予想される時は、機動隊員として出動もし、待機することも当然である。

昨年は、新東京国際空港開港警備に三回にわたり出動、また本年も、第五三回日教組定期大会をはじめとする幾多の警備事案に出動、その他、暴走族の取り締まりなどにも、ヘルメット、出動服に身をつつみ、ジュラルミンの大楯を片手に同僚と同様激務に従事している。

連覇をめざし猛練習に励む

石橋隊員は今、本年五月完成した、福岡武道館において猛練習に励んでいる。

それもそのはず、本年十二月十一日、日本武道館で開催される第二七回全日本剣道選手権大会に目標をしぼり、しかも過去だれもがなし得なかった〝剣道日本一〟の二連覇をめざしているからだ。

この石橋隊員の猛稽古について、毎日一緒に稽古している同僚たちは「石橋隊員は技も多彩で抜群である。特に得意とする〝メン〟に一層の磨きがかかってきた。また、なによりも成長したのは、精神面の安定である。彼は負けず嫌いであり、今の調子からして二連覇も夢ではない。是非二連覇を果たしてほしい」と一様に声援を送っている。

家庭に帰れば優しい二児の父

五十一年四月、高校の後輩である悦子さんと結婚。剣道日本一の猛者も家庭に帰れば、長女直美ちゃん（三歳）と本年五月に生まれた長男高博ちゃんの優しいパパ。悦子夫人とともに、目の中に入れても痛くないほどのかわいがりようで、優しい父親である。

特に高博ちゃんには、「早く親子で剣を交える日が来ないかな」と今から楽しみにしている。

山下和幸隊長談話

剣道日本一となった石橋君が当隊にいることを誇りに思っている。

隊員の士気も高まりまた励みともなっている。

石橋君は、明るい性格でしかも根性があり、日本一の剣士にふさわしい好青年である。

今後ともますます、心、技、体を練磨し、剣道日本一の二連覇をめざしてがんばってほしい。

相撲部監督

第一中隊長　楢林　栄次

北海道警察機動隊に、相撲部が結成されて満六年、現在二五人が北海道相撲連盟に所属し、各種大会で大いに活躍している。

昭和四十九年、部員七人で発足した相撲部は、五十一年、隊舎に土俵の完成をみてからは部員も増え、現在部員二五人中、四段二人、三段三人、二段六人、初段七人を擁するに至った。五十一年から三年連続、国民体育大会青年の部、同年から四年連続、全国青年相撲選手権大会、五十年から四年連続、全国青年大会相撲の部に出場し、全国青年大会では、団体で三位、個人では優勝者を出すなど、優秀な成績を収めており、その活躍は目ざましいものがある。

また道内では有数のチームとして、全道相撲選手権大会、実業団対抗相撲大会、市町村対抗相撲大会等に出場し、優勝四回をはじめ、数多くの上位入賞者を出している。

警備の極意と相通ずる、と語る楢林警部

相撲部部長

巡査　佐藤　靖幸

体重五六キロの豆力士誕生、これが、はじめて褌を締めた、中学二年生の私です。以来、今日に至る十三の年間、指導者と環境に恵まれ、楽しく有意義な国技相撲道に傾倒してきました。

昭和四十九年、機動隊入隊以来の六年間、永遠の夢であろう全国制覇を虎視眈々と狙いつつ、一方ではこの相撲から得る心身の成長すなわち「健康の鍵」といわれる体力の向上は、わが機動隊に最も必要と考えて、愛好者に胸を出す毎日です。裸体の激しい突進、そして押し寄りから生まれる筋力、瞬発力、持久力さらに敏捷性等の発達は、厳しい警備実施時等に大きく役立つものと確信します。

体重八〇キロ、相撲道四段に成長した私は、部員に胸を貸しつづけ、わが機動隊に力を与えてくれる相撲道を、今後一層発展させていく決意です。

佐藤　和枝

結婚前からよく大会の応援に行き、主人の心酔する貴ノ花に負けず劣らずのハラハラ相撲を印象づけてくれたものですが、これほど長く取り続けるとは意外でした。それも子供ができてからのここ四年間は、週二回の練習日に、外出嫌いの主人が必ず参加するから驚きです。

車両小隊

巡査長　太田　茂晴

とかく相撲という競技は、褌一貫まわしをしめて、かっこのよいスポーツではありませんが、わが相撲部は本当に格闘技の好きな者の集まりであります。いくら好きとはいえつらくて、やめたい時も何度かありました。

しかし、勝利をめざして稽古を積み、試合に勝った時の喜びは、なにものにもかえられません。

この相撲というスポーツを通して、培われた逆境の時のチームワーク、なにものを恐れない不撓不屈の精神、強靱な体力が、最終的には豊かな人格を形成し、職務執行の際の「自信」となり、「ゆとり」と「やる気」が、生まれてくるものと信じます。

太田　典子

主人と私が、結婚して早いもので三年になります。主人と最初に出合った第一印象は、体格のよい明朗な人だなあーとの思いでした。私のほうは細くてひ弱に見えた事と思います。友だちは、私たち夫婦の事を「大木にセミ」だと笑います。

相撲てきょうも体力づくり　勢ぞろいした隊員たち

新婚時代、主人は全国青年スポーツ大会の相撲部門において、全道代表として東京蔵前国技館で、試合をしました。その結果、団体戦の副将で出場し、七戦全勝で全国第三位の輝かしい戦績を収めました。以前にも、全道選手権などの大会で団体戦の大将や副将で出場し、優勝あるいは準優勝したことがあります。

そして最近、三段に昇段しました。相撲という男らしいスポーツに励んでいる主人を見て、とても頼もしく感じております。社会の秩序を守り、国民を保護する立場の警察官はやはり強くなければならないと思います。

特務中隊車両小隊

巡査　門脇　勉

私は相撲部に入って五年目になります。相撲をはじめた理由は体力向上にあったのですが、相撲をとっているうちに体力差を感じなくなりました。相撲大会に出るようになってからは相撲の興味も増し、土俵に上ったら一瞬の油断も許されない厳しさを覚え、警備実施等警察の仕事に似たものを感じるようになりました。身体は小さいが、気力で相手に勝てることを知り、自分でも精神力が強くなるのを覚え、好んで各種大会に出場するようになりました。

昭和五十一年には相撲をとるものあこがれである蔵前国技館において全国青年大会に出場し、機動隊勤務の中で一番の思い出となっています。

門脇智恵子

私が結婚した時には、すでに主人は相撲部に入って、北海道内の各種大会に出場していました。私もたまには一緒に出かけ、楽しませてもらいました。

相撲をとっている夏の期間は食欲も進み、病気も少なく、健康維持に役立っており、私も陰ながら声援を送っています。

男の人が何か自分のスポーツを持ち、これに打ち込んでいる姿はとても美しいもので、相撲部の人たちは明るい人ばかりなのはそのせいだと思っています。私も来年は子供が生まれますが、強いお父さんになるため相撲を続けてほしいと思っています。

第一中隊第一小隊

小谷　章博

私が相撲を始めたのは、昭和五十二年四月機動隊に入隊してからです。身長一八〇センチ、体重九〇キロという体がありますので、相撲なんてと安易に考えていました。しかし、いざ相撲をやってみますと、小柄な人に投げられ、土俵から突き飛ばされる等、さんざんでした。一瞬の気もぬくことのできないデモ警備、長時間の待機、短時間での出動等、十分勤務にプラスになっています。これからも相撲に真剣に取り組み、機動隊生活を充実したものにしていくつもりです。

相撲が警察に勤務の私に役立つ

警視庁

交通防犯　全国運動に参加

警視庁がおこなった〝秋の全国交通安全運動〟と〝全国防犯運動〟に機動隊が派遣された。その成果は〝年末警戒にもぜひ参加してほしい〟と大好評。このぶんだと警備ばかりでなく平常のパトロールにも出動が要求されそう。

◇　◇　◇

警視庁はこのほど恒例の〝秋の全国交通安全運動〟、〝全国防犯運動〟を相次いでくりひろげた。この二つの全国運動には機動隊員が応援派遣され、その勤務ぶりが大きな好評を呼んでいる。

十日間にわたりおこなわれた全国交通安全運動には延べ一、二三六名の機動隊員が参加。七、三九四件の指導警告活動をおこなっている。機動隊員の応援を受けた警察署では「きびきびした態度、積極的な勤務ぶりは署員のみならず住民にも好感を与えた」と評判で、なかには署長自ら隊員を督励してまわるなど期待も大きく、今後も引き続き派遣を望む声が聞かれた。

一方、十月中旬、十日間実施された全国防犯運動では、延べ七〇署に四二〇名が派遣され一〇件、一〇名を検挙する成果を挙げている。

この運動でも「機動隊は防犯パトロールもやってくれるのですか。安心です」と住民から好意的な言葉をかけられ、応援を受けた署員からも「街頭活動が強化され、犯罪が減った。年末警戒にも是非派遣を願いたい」と予想以上の評価を受けた。

また、この運動に参加した機動隊員も「住民とのコミュニケーションの場をつくることができ、よい経験をした」と喜びを語っている。

青年警察職員意見発表会機動隊大会

二機　佐々木氏が一位入賞

青年警察職員意見発表会機動隊大会はこのほど総合庁舎大会議堂で開催され、一位に佐々木美典氏（二機）、二位に藤本一氏（六機）が入賞した。この大会は各機動隊から選ばれた代表一〇名により「青年警察官と都民」をテーマに競われたもの。上位に入賞した二氏は十月十九日開かれた警視庁大会に出場したが、惜しくも優勝は果たせなかった。

この会議に出席される各国首脳は、日本にとって大事なお客様なのに……。

なぜ協力が得られないのだろう。私のやり方がまずかったのか……。と悩んだものです。

説得に疲れ気持ちが高ぶってくると上京する時の父の言葉が脳裏をかすめるのです。

「美典、仕事がどんなに辛くてもけってくるんでねぞ！　体に気つけてな……」

七年前高血圧で倒れ、病床に伏したままの不自由な口からようやく出た言葉だったのです。

私はその都度気をとり直し、「父も病気と闘っている。よし、負けるもんか！」と自分に言いきかせ、検問を続けました。

ところがどうでしょう。

警備について三日ほどたったころから、汗と排気ガスで黒ずんだ顔と、塩をふき、まだら模様になった出動服を見かねてか。「暑いのに大変ですね。がんばってください」

交通規制を受け、不便を感じているはずなのに、逆に私達を励まし検問にこころよく応じてくれるドライバーが日ごとに多くなってきたではありませんか。

私はそのたびにこみ上げるうれしさを押さえ、自然に声もはずみ、「ご協力ありがとうございます」と思わず敬礼にも〝力〟がこもったのです。

そして、最後の特別機が離陸したとき、「父さん、がんばったよ！」と心の中で叫んだのを今でも忘れることができません。

私は今回の経験を通じ、都民の真の協力を得ることがいかにむずかしく、また大切であるかを身をもって感じました。

日ごろ機動隊は、隅田川花火大会の警戒や、人命救助のためのレスキュー活動、また交通安全運動への応援など、街の人達と接する機会は意外と多いのですが、その時の触れ合いこそが大切だと思います。

背を伝う汗、額を流れる汗、汗の一滴一滴が理解と協力をかちえるものではないでしょうか。

私はこれからも仕事に、訓練に、真剣に取り組み、一滴でも多くの汗を流す決意です。

汗と信頼

二機　佐々木美典

「失礼します。免許証を拝見します」

「ご面倒ですが、トランクの中を見せていただけませんか」

「うるさいな。おれは何もしていないんだ。見せる必要ないね」

これは、六月に行われた主要国首脳会議警備のさい、首都高速羽田ランプ検問に当たった時の一コマです。

私たち第二機動隊は、首脳一行が通る高速道路の警戒・警備を担当。連日三〇度を超す炎天下、完全装備での自動車検問。

私の生きがい

六機　藤本　一

「世の中で一番尊いことは、人のため奉仕して決して恩にきせないことである」

これは、福沢諭吉先生の心訓の中の一つです。私は、警察官になる前にこの言葉を知りました。その時は「そんな気持ちになるものだろうか」といささか疑問に思ったものです。

しかし今は仕事を通し、都民と接触しているうちに少しは分かってきたような気がします。

そんな私でも、「小さいころは、絶対に警察官にだけはなるまい」と思いました。警察官である父に対する印象があまりにも強すぎたからです。

父は「三日に一度は泊まり」という当時の勤務のためか、暇さえあればいつもゴロゴロと横になっていて、私と弟がチョットはしゃいだりすると、「お父さんは、仕事で疲れているのよ、静かに休ませてあげなさい」と母に叱られ、友だちは「お父さんと海へ行ったんだ」とか「お父さんにキャッチボールをしてもらったよ」と言っているのに、「私のお父さんはどうして日曜日なのに家にいないんだろう」と子供心に思い、悲しくなったものです。

そんな心を変えさせたのは、交番で見かけたある光景なのです。お巡りさんが、泣きじゃくる女の子を優しく抱き上げてあやしていたのです。また、どしゃ降りの雨の中で、お巡りさんたちが故障した車を一生懸命に押している姿を見たのです。

私の父も、「同じように子供を抱き上げたり、車を押したりするのかなぁ」と思い、それとなく聞いてみました。

父はいつも「ムスッ」としていましたが、この時ばかりはとても嬉しそうな顔をして、「いいか、お巡りさんというのはなぁ、一口に言えばなんでも屋さんなんだ。街の人たちのためにいろいろな事をするんだよ」と、誇らしげに話してくれました。

ある日「警察官になりたい」と父に話したところ、喜んでくれると思った父が意外にも「警察は並みたいていの者じゃやっていけないぞ。真夜中、街の人達が眠っているのにパトロールしたり、また、人が避けるような危険なことにでも真っ先に突っ込んでいかなければならないんだ。それになぁ、おまえが見てきたとおり家族は苦労するぞ。世の中にはもっと楽な仕事があるぞ」と言ったのです。

しかし私はそんな父が好きなんです。そのような警察の仕事が好きなんです。

警察学校を卒業して三年半、現在私は警視庁第六機動隊に勤務しています。あの空前の大警備といわれた、主要国首脳会議のとき私は、ホテルオークラの警戒に従事しました。検問を受ける大半の人は、素直に身分証明書を見せてくれたのですが、なかには「何で、そんな何回もやるんだ」とか、「この若僧、えらそうな顔をするんじゃない」と言われたこともありました。しかしそのたびに父の姿が、言葉が、頭に浮かび、耐えてこれました。

私は、地の塩となってひたむきに生きてきた父の人生を心の糧として、二代にわたって奉職するこの誇りを胸に、福沢諭吉先生の言葉を信条とし、だれにほめられなくとも、だれからも認められなくとも、ただひたすら都民のために、一歩一歩がんばるつもりです。

世界に誇る警備　ごくろうさま

（50音順）

市原澤次
岡部(株)
(学)嘉悦学園
加納鉄鋼(株)
光洋商事(株)
副島遙
高島浩一
西戸栄一
豊国興産(株)
松田鉄鋼(株)

会員の広場

ハイー・拍手

高橋悠紀夫

「名は実の賓なり」というのは荘子の名言だが、諸橋轍次先生の解説によると次のとおりである。

―名は実の客人、つまり名と実とは、客人と主人との関係になる。客だけいて主人がいなくては仕方がない。即ち名だけあって実の伴わない人間では、どうしようもないのである―

こんなしかつめらしい言葉を思い出したのはほかでもない。このごろの結婚披露のスタイルに、つくづく若者たちの上っ調子加減を思い知らされているからである。

当人主導型となりつつある披露パーティーは、初々しさとか清々しさとか、そういったイメージとかけ離れてきたようだ。規模の大小にかかわらず、新郎新婦は、自分たちを好んで速成タレントに仕立てあげる。

大した恋愛でもないのに、テレビ映画の主人公気取りで、ひどいのになると、交際期間の推移を臆面もなくスライドでお目にかける。だんだん濃厚になると、友人たちはお義理にも、スクリーンに向かって冷やかしのひと声をかけねばならぬ。その過程で、二人の〝間柄〟は十二分に誇張される。

そのくせウエディングケーキにナイフを入れる段では、手を添え合うのにわざとらしく逡巡する。「これはお二人の最初の共同作業であります。カメラをお持ちの方々は、どうぞ前へお進みください」といった司会者の決まり文句も、かえっていやらしい。

年長者のスピーチはまだ面目を保っているが、若者のはどうにもさまにならない。作文もろくすっぽ書けない教育過程を経てきたのだから止むを得ないが、このためテレビまがいの寸劇や歌で誤魔化すのが多くなった。

この歌というのが、つい先ごろまでは「世界は二人のために」というもので、天上天下唯我独尊というわけか、親も世界からはじき出されるのを観念せねばなるまい。それでも二人のためならまだよかったが、最近では「関白宣言」ときている。冒頭の言葉ではないが、実力を持ち尊敬に値する人間が関白なら得るのであって、宣言によって、オーソライズされるのは無理というものだ。

イエス・ノーというのがある。YESとNOを書いた板を二枚ずつ新郎新婦の前に置き、質問に板をあげて返事をしてもらう趣向だ。司会者が質問する、「披露宴が早く終わってしまえばいい、一刻も早くベッドに入りたい、そう思いますか？」新郎は勢いよくYESの板をかかげ、新婦は一瞬遅れてNOの板を出す。またかと思いながらも皆がどっと笑う。これが新郎新婦の企画演出なること見え見えなのだからやりきれない。

クライマックスが新郎新婦から両親への花束贈呈である。これにつきものの伴奏は「母さんが夜なべして……」だが、今朝までさんざん親に向かって悪態をついていたご両人の豹変ぶりは、並みの神経ではない。「花束贈呈によって今までのご恩がチャラではかなわん」とはさる父親の述懐である。

さて、あまり悪口をいっていると、どこの披露宴からもお呼びがかからなくなるだろうから、この辺で止めておくが、もっと厳粛にやれとはいわない。しかし、何かしら真実めいたものを長時間の披露宴から求めたいのが、古い男の郷愁である。

第八回隊旗祭開く
愛知県警察機動隊

愛知県警察機動隊はこのほど警察本部長、関係部課長、および機動隊員等を励ます会役員を迎えて第八回隊旗祭を開催した。

この隊旗祭は去る四十七年、隊員の士気高揚を目的に隊旗が制定されたのを記念して毎年おこなわれているもの。

今年も本部長視閲後、相撲大会、演芸大会、音楽クラブ〝サウンド愛機〟による演奏などが盛大に開かれた。また、会場の周囲では各小隊が自慢の腕を競って屋台を並べ、焼鳥、おでんなど、得意の料理を披露、隊員諸氏の好評を博し、意義ある一日をなごやかに過ごした。

次の世代のために

樋浦　忠

自民党混迷のきっかけとなった十月の衆院選では、五〇人以上の自民前議員が惜敗（次点）している。全体では自民党の得票率が伸びていながら、議員数にストップがかけられた理由はともかくとして、現象面では早い話、これら次点者が当選しなかったということであろう。

ある週刊誌が「次点者のひとこと」と題して、この選挙での次点者の敗因を語らせている。酷な企画だが〝捨てられた政治家の壮語すると、破れた靴の鳴るとは悲し〟と長谷川如是閑が言っているようなことが、このなかに見当たらないのは幸いである。

掲載分は一三〇人で、全部を網羅したものではないが、このうち自民前が三四人含まれている。反省の内容は、ひとりひとりのニュアンスが異なるが、集約すると次のようになる。

多いのが、敗軍の将兵を語らず、泣かずに次をがんばるという武士型で、これが七人。同じく七人が、自分自身の責任で力不足、不徳の至すところと全面反省型。三番目は、悲観ムードであった、危機感が足りなかったという油断大敵、ウサギ型で五人。四番手が、二本立ては無理だった、自民候補の共食いによるものとするもの四人。

次いで、悪宣伝に負けた、雨に影響されたなどの恨みを残す三人。同じく三人が、これと同様だが、人物といわれる人が落ちた、正直が結びつかぬなど沈む木の葉。同じく三人が立ち遅れ。最後の八番手が、増税の影響など党の政策に起因するとするもので、これが二人。

ひと通り列記したが、ここでふと不審に思うのは、一般に敗因とされている「党の政策」に起因するというのが、僅かに二人で最下位である。それが当事者意識というものなのだろうか。

それぞれ激しい選挙だっただけに、無理もないが、そうだからといって、自民党も候補者も、国の政策より選挙が大事ということになっては困る。

「ポリティシアン（政治屋）は次の選挙のことを考える。そしてステイツマン（政治家）は次の世代のことを考える」というのは、クラークの有名な言葉である。

われわれ励ます会は、純粋に機動隊員等を励ましそうとする市民の集まりである。そして法秩序に守られた平和な日本が、次の世代にも受け継がれることを望むばかりである。

レジャーに求めるもの

東京・HM

現在は、平和な時代でありながら、一方では複雑化した社会の厳しい世相に対処していくためには、気分転換や休養の手段として日常生活でレジャーは欠くことができないものとなっている。

レジャーには各人各様で無数にあると思われるが、私どもの一般的なレジャーに求めているものは次のような事ではないだろうか。

大衆に人気のあるパチンコの場合は、手軽で時間の調整ができ、雑踏の中で孤独になれる、賞品がもらえるなど、慰安を求める人が多い。麻雀は、千変万化の手づくりの楽しみの中で、相手の手のうちを読み、それを勝利に結びつけるスリル、技術と偶然の一致、グループでできる親睦がはかれるなどがあげられる。旅行やドライブは、気分転換、未知のところを知り、視野をひろめるなど日常生活をはなれて、開放感を味わえるところに魅力がある。釣は、魚を釣り上げるときのスリルと快感があり、それと同時に自然を相手に、釣れても釣れなくても自然に同化して楽しむという孤独派もいる。一時流行したボウリングは、爽快感、精神統一、破壊本能の充足そしてストレス解消、ひとりでも気楽にできる点である。囲碁、将棋は思考を集中して静かに考えながら楽しめる点と自己との戦いで落ち着いて精神の統一をはかれる点が強調される。競馬は、スリルと推理性。ゴルフは、自然の中の孤独感で自己力をフルに発揮できる点があげられる。

このようにしてみると、どのレジャーにも共通していえることは、スリルと孤独感であり、それと同時に自然を求める意欲も高く、それによって日ごろのストレスを解消しようとする現代人の願望がうかがえる。いずれにしてもレジャーとは、元来、思い思いの方法で楽しみ、明日の活力となればそれでよいのではないか……。

事務局からのお知らせ

左記のとおり支部総会を開催致します。会員多数のご参加をお願いします。

一、大阪支部総会
日時　十二月六日(木)　十五時～十七時
場所　大阪市東区内本町橋詰町五十八　大阪商工会議所ビル六階　ニュー国際　TEL〇六（九四四）六五二五

一、千葉支部設立総会
日時　十二月十一日(火)　正午より
場所　追って事務局よりお知らせ申しあげます。

世界に誇る警備　ごくろうさま

（50音順）

金廣鋼材㈱
高周波熱錬㈱
三福商事株式会社
仙台運送㈱
大和重工㈱
中条鋼材㈱
新潟鋼機㈱
藤田金属㈱
北海鋼機㈱
三菱商事㈱名古屋支社
豊鋼材工業㈱

はげまし

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
東京都中央区八重洲2－4－14
〒104　ミツヤビル 3階
発行人　高橋　嬉
TEL 03(272)2050
購読料　年間1200円(送料共)

地震防災の大訓練

駿河湾沿岸に、サイレンと半鐘の音が響き渡った。「マグニチュード8クラスの大地震が発生」という想定で、十一月十六日行われた第一回目の東海地震防災大訓練に、一五〇万人が参加した。

静岡県を中心に、防災対策強化地域に指定された神奈川、長野、岐阜、山梨、愛知県下一七〇市町村での大がかりな通信情報伝達訓練、避難訓練、婦人会による炊き出し訓練、いずれも真剣そのものだが、このなかにあっての機動隊員の活動をみることにしよう。

非常招集発令さる

大規模地震対策特別措置法に基づく、我が国で初めての地震防災対策総合訓練は駿河湾トラフの真上に位置する静岡県を中心に実施された。そこでこの広域総合訓練の焦点を静岡県警察機動隊にしぼって追跡してみた。

十一月十六日午前七時二十七分、静岡県警察本部は警察庁から斉報通信で地震情報を受け活動を開始、直ちに警備要員の非常招集を実施した。その応招状況は通勤時間帯と重なったものの、きわめて良好で、招集伝達後一時間以内には四、四四三人（九五・四％）が、一時間三十分後には招集対象職員四、六五七名全員が応招している。

県警察本部ではこの措置に続き、午前七時五十分、県本部一二階会議室に訓練警備本部を設置するとともに、各警察署に訓練現地警備本部を配置して、はやくも指揮、命令の統括をおこなう警備体制を確立する。まさに真剣そのものであった。

機動隊配置につく

静岡県下では四六市町村で約七万人の住民が避難訓練に参加している。

警察本部および各警察署は続続と参集する職員で警備部隊の編成を急ぐが、結局一、三八五名で一般部隊が、九七八名で交通部隊が編成され、この住民避難訓練に従事、避難路の確保をはじめ、安全維持に活躍する。

県警察本部は現地警備本部の活動を支援するため、主要訓練地域に機動隊を主軸に応援部隊を派遣したが、その主な派遣状況は次のとおりである。

焼津署へ・県機動隊一個中隊（七五名）。

清水署へ・二機県本部小隊（三五名）

県境交通規制現場へ・管区機動隊西部小隊（三五名）

この訓練の最大の目標は言うまでもなく住民の生命の保護にある。派遣された機動隊員は、市町村自治体職員と協力、住民の避難路確保など交通対策を中心に全力をつくして活躍する。

避難路確保活動にその一端をみることにしよう。

交通規制箇所は国道一号線三箇所を含め六〇区間、総規制距離一万八、五二〇メートル、規制時間は十分ないし三十分である。その詳細は次のとおり。

ハンド・カー・リフターで障害車を除去、避難路確保訓練に懸命の静岡県警察機動隊員

災害活動に万全の自信

①清水市で国道一号清水駅前交差点から旧清水署前までの約三〇〇メートルの区間を午前九時三十分から十時まで交通規制し、避難住民約二〇〇名の避難路確保を行う。

②焼津市内の国道一五〇号線（県立水産高校南交差点から本局前交差点）および県道上青島、焼津線の延べ二、四五〇メートルの区間を午前九時から九時三十分まで交通規制し避難民約七、〇〇〇名の避難路を確保した。

なおこの両市の交通規制に当たっては写真のとおりハンド・カー・リフターを使用して障害車輌の排除をおこなっている。

③国道一号静愛県境において、愛知県警と協力し、両県側各一・五キロメートルにわたって午前九時十分から十分間、交通規制を実施し、愛知県側から模擬緊急車輌一七台を走行させたが、一般車輌の協力もあって混乱もなく、良好な訓練成果を得ている。なお、この規制にともなう、国道一号線の交通渋滞は静岡県側は約一キロメートル（約一〇〇台）であった。

④発震時の交通信号を確保するための訓練として、県下主要交差点四八か所で信号機用発動発電機四八基を作動させ、これも満足すべき成果を挙げている。

――これはあくまでも訓練である。だがこの経験は貴重だ！

大阪支部総会

師走とは思えぬポカポカ陽気に恵まれた十二月六日、大阪市商工会議所ビル六階は、機動隊員等一三〇名、励ます会会員二五〇名の参集で、気温が一段と上がった。

◇　◇　◇

通算第六回、社団法人になってから第三回目の大阪支部総会は「励ます会が乱発されているなかで当励ます会だけは純粋な市民の集いである」という石原幸男・支部世話人の開会の辞、国歌斉唱で厳粛に始まった。

大内俊司・励ます会理事長は――今年の未年は一応平穏であった。もっとも来年が申年のせいか、後半に入って早くも波乱含みである。イラン紛争に起因する油上の楼閣経済、韓国のクーデターなど。とかく申年は桜田門の変、江戸大火、ふるさは加賀一揆と乱世であった。こうした縁起をかつぐと八〇年は何らかの天災地変が心配される。わが国の治安は最高によいというのが内外の評価であり深く感謝している。もっとも油断大敵、東海大地震が取り沙汰されるように、災害はいつやってくるか分らない。こういった際には被害を最小限度にくい止めて貰うよう、機動隊の皆さんに引続き頑張って頂きたい――と挨拶。

近畿管区警察局長の代理として、赤塚普知雄・公安部長は、「〝この世を花とするため〟の歌に、何を好んでそしりを受ける…の一節がある。法と秩序の楯としても時には中傷と誹謗を受ける事がある。しかしこれも励ます会で代表されるように、国民の支持があることを信じて勇気づけられている。今後とも信頼と期待に応えなければと身を引締めている」と謝辞を述べた。

続いて半田博・大阪府警察本部長――われわれ隊員は治安、防災、交通違反や暴力の取締まりなどに全力投球している。とくに今年は成田問題やサミットの警備で東奔西走、大阪の機動隊は大阪のみならず、日本の機動隊であると思っている。来年もいままでの道を一筋に進んでいきたい――と力強く語った。

自見真清・九州支部世話人による乾杯の音頭で盛りあがった懇親会は、日頃の苦労をねぎらう会員に対する隊員の感謝の言葉が、あちこちのテーブルで交わされた。自信のノドを次々ときかせるそのなかで、大内理事長が艶のある〝ネオン川〟を披露したのが圧巻だったようだ。

松本三良・名古屋支部世話人の万歳三唱で幕はおりたが、心の交流はこれからもずっと続く事であろう。

上右・アンコールの拍手が止まない大内理事長の熱唱
下左・半田博大阪府警察本部長

今月の言葉

愛国心について

終戦後日本人は民主主義とともに経済的な面等で多くのものを得たが、反面失ったものも少なくない。昨今国内の治安が良好に維持され、世情も安定し、低成長、省エネルギー時代への転換期に当たり、勇気を以って、こういう問題に取り組む必要があるのではなかろうか。

例えば「愛国心」という言葉は、どこかに消え失せたような感がする。しかしもともと日本人は本質的に国を信じ愛しているのではなかろうか。それがなにより証拠には、日本人の貯蓄性が世界中のトップであるということである。少々のインフレで通貨の価値が下がるとも、一生懸命貯蓄に励んでいることは国を信じているからできるのであろう。

近ごろ「金」相場の異常高が問題になっているが、これは投機という以外に、通貨に対する不信を如実に示しているものではないだろうか。こんな状態でありながら現実に愛国心という言葉がほとんど聞かれなくなったのは戦後いわゆる〇〇アレルギーで、すぐ軍国主義とかファッショ復活とか言われることを恐れる傾向になってきたからに違いない。また防衛について無関心なことは驚くべきであり、何国人か疑うような論議がなされていることもしばしばである。更に日本人は国旗を大切にしなくなったことも事実であり、祭日等に日の丸を掲げる家が大変少なくなり情けない次第だ。

次に日本人は終戦まで一億総愛国心を求められ、すべては国益優先で個人の利益、主張は無視され、国民もそれに耐えてきた。それが終戦後はまったく反対で、民主主義の名の下に個人の権益が優先し、国はそれを護り増大するために奉仕すべきが当然であるとの風潮が一般に強く浸透してきた。この個人エゴが戦後紛争の大きな部分を占めたことはご存知の通りである。もともと国民あっての国でありとせば、国益と個人の利益は合致するはずで、国の名の下に個人が不当に圧迫されたり、また反対に個人が国民として果たすべき義務を忘れて権利のみ主張することは本来許されないことである。為にする人々は如何なる場合でも自己の為の主張をするのであろう。私は毎朝表を掃除するのが日課になっているが、箒を手にして時々考えることがある。公害を叫び批判する人々が空疎を散らし、タバコの吸いがら、ごみを所かまわず投げ捨て、ごみ公害を出していることに気付かぬのだろうか。また発電所建設反対を唱えている人々が結構電化生活を楽しんでいるのではなかろうかと。愛国心ということは自分の国のみ考え他国を憎み敵視することではなく、まして戦争に参加することでもない。一人一人の国民が自分の国の美しさを守り国民としての当たり前の義務を果たすことから始まるのでなければならないと思う。次代を担う青少年たちに愛国心という美しい言葉を、国旗日の丸とともにこのさいしっかり教えてやりたいものである。それにしても昨今の政情ははなはだ情けない状態で、こんなことを書きながら空しさと腹立たしさを感じるのは私だけであろうか。

断郊競走大会

断郊競走大会に優勝して

第五機動隊第二中隊
巡査　可兒　秀博

秋晴れの十月二十五日、警備部長出席のもと輝かしい伝統ある機動隊断郊競走大会が警視庁レクリエーションセンターで行われた。

わが第五機動隊は、隊長をはじめ隊員一体となった心温まる応援のもとに、選手一同大いに奮いたち、輝く優勝の栄冠を克ちとることができ、特にチームのアンカー選手として、ゴールのテープを切った瞬間「やった」という感激でいっぱいであった。

そして、その感激は警備部長から手渡された優勝旗のずしりとした重さを味わったときに、さらに倍加したような気持ちだった。

午前十時二十分、号砲一発、各隊第一走チームがスタートし、その迫力は、他隊に負けまいとする激しい闘志をむき出しにした実に壮観なもので、後に続こうとする各選手を奮いたたせ、各隊応援団に興奮と熱気を与えた。

本部、幹部、四中、一中、三中、二中チームと尻上がりによくなる強力な布陣で臨んだ五機は、本部チームが第六位で、たすきを引き継いでから、着々と先頭に迫り、二分差から一分差へと各走者ごとに距離を縮め、いよいよ追いあげムードが高まってきた。

第五走の三中チームに第三位でたすきが引き継がれ、「さあ、アンカーのわれわれで勝負だ」と自分に言い聞かせると、闘志がますます湧いてきた。

三中チームがまた距離を縮め、私たちのチームにたすきが渡されると同時に一丸となり飛び出した。すぐ前には九機、約二〇〇メートル先には先頭の四機が走っており、射程距離にあると思い、全力でがんばった。

五〇〇メートル走った地点で九機チームを抜き、まわりからの「がんばれ!!」「先頭は一〇〇メートルもないぞ」との熱っぽい声援の中をもみじ坂へと向かった。

登り坂でいちだんと息が苦しく、「自分はもういい、歩こう」と何度も思ったことか、しかし、目の前には、先頭で必死に登っている四機幹部チームが見えた。「もう残かのチームはいない。何がなんでも先頭でゴールしなければアンカーの役割を果たせないんだ」と、仲間とともに足のしびれも忘れ、死にもの狂いで駆け上った。一〇メートル、五メートルと差が縮まり、坂を登り切ったところでとうとう四機チームの最後尾選手をとらえ、五機のサミット展望台で先頭の三名を抜いたとたん、視界がぱっと明るくなり、「優勝できる」という確信が湧き、最後の急坂も夢中で駆け降りた。

真っ白でピーンと張られたゴールテープに五人一緒に飛び込み、「やった、優勝だ」とみんなで喜び合い、手をとり合っているうちに、その感激で鳥肌が立ったほどで、言葉で表せないものがこみ上げてきた。

念願の優勝であった。台風二〇号の影響で降りしきる雨と突風にあおられながら、汗と泥にまみれて、三回も四回も、もみじ坂を登り、「なんでこんなにしてまで訓練するんだ」と思ったことも、警備部長からの優勝旗を手にしたとたん、その苦労もどこかに吹きとんでしまった。

この優勝は、私にとって「何事もやればできる」という貴重な体験であり、また、大きな自信として、仕事や人生の支えともなってくれることであろう。

断郊競走大会優勝という栄冠を胸に秘めて、勉強と隊生活をがんばり抜く覚悟である。

断郊競走大会

機動隊員に欠かせないのが体力と気力である。日常での訓練、スポーツを通じてその向上に努力しているが、十月末開かれた断郊競走も、参加隊員が激しい闘志を燃やしての機動隊員ならではの山野疾走であった。

◇　◇　◇

「努力目標を持たせることによって士気高揚を図り、併せて全機動隊の団結をより強固にする」秋川市の機動隊レクリエーションセンター内コース約一・五キロ及び外周コース約一キロの計二・五キロを一周する競走に、ベストメンバーが集結した。

走って登るのが不可能といわれる四〇度傾斜のもみじ坂三〇〇メートルコースを始めとして、アップ・ダウンと難コース連続するところを編上靴、盛夏略衣姿で走行する。

各隊とも中隊（四組）、本部、幹部の六組とし、五人一組となってのリレー方式で競い合い、ひとりひとりの速さよりも、チームの団結力がタイムを大きく左右するので、そこは選手はもちろんのこと、各隊応援団とも大いに興奮と熱気の渦に包まれた。

優勝の栄冠は第五機動隊、準優勝が第四機動隊に輝いた。

この断郊競走には各隊から六チーム（一組五名）の足自慢が参加、覇を競った。ルールは厳しく、各チームがゴール手前一五メートルの集結ゾーン内で全員集結し、審判員の指示で一斉にゴール・インする。しかもそのゴール・インは選手五名が一列縦隊で整然と他チームの追越妨害をしないことが規定されている。こうして、二・五キロのコースを一周、見事、優勝を勝ちとった第五機動隊チームを代表して、可兒選手は競技での奮闘ぶりを語っているが、機動隊の見事なチーム・ワークぶりを発揮したものといえよう。

ハート・ブレーク・ヒル
〝もみじ坂〟も一気に走破

警視庁

柔道大会に優勝して

第二機動隊　宮本　茂

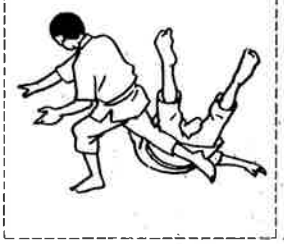
私は、本年九月九日、男の戦場「機動隊」にあこがれ、憧れて伝統ある第二機動隊の武道小隊分隊長として着隊し、第二機動隊の武道の要としての責任ある立場に置かれたことは嬉しくもあり、また責任の重さをひしひしと感じたものである。

着隊して間もなく、柔道の稽古で隊員と一緒に汗を流したさい、先生を中心としたチームワークのとれたすばらしい柔道部であることが肌で感じとれた。

試合当日、出陣式で隊長から「悔いのない試合をするように」との激励を受け、選手一人一人がその言葉を肝に銘じ隊舎を後にした。試合場である警察学校に着いてから準備運動をしている選手の顔に気迫がこもっており、「これは優勝できる」と直感した。

第一回戦は第三機動隊と対戦し、二〇対五という圧倒的な成績で大勝し、準決勝の対第八機動隊でも一四対一〇でくだし、破竹の勢いで勝ち進み、決勝戦では第五機動隊と対戦した。試合中にだれからとなく「あと一回だ、優勝するんだ」と言うはずんだ声が聞こえ、二機の柔道部が一丸となり先鋒から順当に勝ち進み、士気大いにあがり四将までに勝負は決まった。

この優勝には、隊長はじめ各級幹部からの暖かいご支援を受けたことと、全隊員からの激励があってこそできたものと深く感謝している。過去に第二機動隊の柔道部は四連勝した経験があり、これを目標に今後も努力精進していく覚悟である。



道場にこだまする若さと技と力

剣道大会に優勝して

第二機動隊
武道小隊長　羽成　利夫

今年の第二回機動隊対抗剣道大会で、剣道は三年ぶりに優勝することができた。

これは、隊長以下全隊員が、総力を結集して訓練に力を入れ、努力した結果であり、大変意義深いものがある。

試合は、三五名の選手による一本勝負で行われた。試合で優勝することは、すなわち「一番力のある機動隊」と評価されるので、優勝にかける選手の闘志は燃えていた。私も微力ながら、副将として試合に出場した。

試合内容は、一回戦から決勝戦まで手に汗にぎる接戦であり、実力伯仲し、勝敗はほとんど一本差で決まった。選手の中には、足の指を骨折したり、ねんざした者もいたが、痛そうな顔も見せず決勝戦まで試合を続け、試合に対する執念をまざまざと見せつけた場面もあった。

ところで、二機は、今年の舟艇競技大会優勝を皮切りに、それに続けとばかりに、つねに隊の総力を結集して各種の対抗試合に出場し、断郊レース、水泳大会に立派な成績を挙げ、けん銃射撃大会には初優勝を飾ることができた。そして今回また、柔剣道ともに優勝するという偉業を成し遂げ、まさに「為せば成る、為さねば成らぬ…」という言葉どおりの成果を挙げ、私も武道小隊長としてやっと責任の一端が果たせたと喜んでいる。

柔剣道大会

剣道と柔道、いずれも〝心身を錬磨し、人を作る道〟である。警視庁警備部長主催による五十四年度第二回機動隊対抗大会が開催された。この大会を熱心に観戦した〝機動隊員等を励ます会〟の村山文雄理事は「過日、街頭で警備中の機動隊員が、通行人の帽子を拾い、手わたす姿を見て、そのやさしい心情に接し、胸を熱くした。今日は、その若さが力強く道場せましと満ち溢れているのを目のあたりにし、これでこそ都民の信頼する機動隊であることを改めて認識した」と挨拶、大会に花をそえた。

十一月二十九日、中野警察学校の道場は終日耳をつらぬく気合い、万雷の拍手に包まれた。

一階が柔道、三階が剣道の対抗試合。柔、剣道とも各隊二五名によるトーナメント。熱戦に次ぐ熱戦の結果、柔道、剣道ともに第二機動隊チームが制覇、優勝旗を手にした。

この大会で健闘、柔、剣道、両手に優勝旗を独占した第二機動隊五〇名の選手を代表して、宮本茂柔道チーム主将、羽成利夫剣道チーム副将に、その感想を寄せていただいた。

柔剣道大会

各隊の年末隊内行事盛会

警視庁機動各隊は年末恒例の家族慰安会、もちつき大会、祭をそれぞれ盛大におこない、一年の労をねぎらった。その年末隊内行事は次のとおり。

◇慰安会およびもちつき大会＝二日に二機と八機、九日に四機と特車、十九日に五機、二十二日に九機。

◇祭＝三機が三日高輪プリンスホテル。五機が十日椿山荘。八機は十三日日本閣。四機は十四日椿山荘。二機が十七日ロッテ会館。九機と特車は十八日半蔵門会館と東京大飯店で開催。

東西対抗②

埼玉のボートVS大阪のラグビー

渾身の力をしぼって漕ぐボート部に対するは楕円球に真剣にくらいつくラグビー部。そこはいずれも捨て身とねばりの凝集である。気力と体力、それにチーム作りときょうも汗を流す。東西対抗の第二弾は、埼玉県警察機動隊と大阪府警察機動隊をお届けした。

埼玉県警察機動隊

埼玉県には東京オリンピック開催時に建設された、戸田オリンピックボートコースがある。

この東洋一のコースを県内に持つ埼玉県警察にボート部があってもよいではないかということで、東京大学ボート部OBで、当時の県警察本部長木村善隆氏、警備部長赤塚普知雄氏、機動隊長の新井安三郎氏のご尽力で、昭和四十七年七月一日、東京大学ボート部総監督の西浦義幸氏をコーチに迎え、約一〇名からなるクラブとして発足した。

目的は「機動隊員として要求される体力気力の練成と団結力の養成を図り、水難救助技術の向上とボート競技を通じて、より県民に親しまれる警察づくりに資する」というものであった。

当隊ボート部員は現在一九名で、ナックルフォアー・二クルー、シエルフォアー・一クルー、シングルスカル・一クルーで練習に励んでいる。

ボート競技は六月から九月に大会が集中するため、隊員は夏場になると体重が五キロも減ってしまうほどで、その苦しさは想像を絶するものがある。この苦しい練習に耐えうる心の支えは、県警察を代表するクルーという誇りと機動隊精神である。

家族の理解と協力で

小隊長　山田　毅

ボート部での妻帯者は私一人であるが、日曜日や休務日に練習や大会が重なるので、夫婦でゆっくりと出かける機会が少なくなった。ボート部に入部したころは愚妻の愚痴もたびたび出たが、たまに練習風景を見せて、ボート競技を理解させたところ、愚痴が出なくなり、非常に協力的になった。

デートが大変

佐藤　敏則

ボートを始めて早や三年、練習の合い間に婚約者と呼べる人を見つけたが、朝から夜遅くまでの訓練、大会などで休日も返上しなければならない日が多く、なかなかデートをする機会がない。しかし彼女がよく理解してくれているので助かる。

これからもボートを

分隊長　阿部　憲一

オールを握って四年、真夏の炎天下での練習、寒風吹く冬の練習、最初のうちは何でこんなことをやっているのかと思ったが、先輩の答えは「練習をやればいい。そしてうまくなれ、強くなれ」の一言であった。練習が苦しくても一位でゴールをした時のなんともいえない気持ちが忘れられなくて、一生ボートをやっていくような気がする。

水に飛び込んじゃえ

組長　福嶋　武司

国体出場が決定した日から、宮崎国体へむけての練習が始まった。炎天下のもと、太陽と水と体力、そして自分との戦い、上手からはコーチになられ、艇の上では先輩におこられ、こんなに苦しいのなら、オールを捨てて水の中に飛び込んでしまえ、と思うこともあった。

二十四時間が練習

田口　哲夫

早朝マラソン、日中のボート訓練、くたくたになっての帰隊、先輩の警備靴みがきなどをやってから、バック台によるフォームづくり、そして今日一日の練習反省で一日が終わる。練習で手のまめをつぶしたのが痛くて、寝つかれないこともあった。

戦歴

埼玉県には昭和四十二年の埼玉国体で全種目優勝を果たした戸田市役所クルーが、大きく立ちはだかっていたので、国体出場は至難の業と思われていた。

「国体出場」を合い言葉に猛練習に励んだ結果、部発足四年目の昭和五十一年に、ナックルが念願の佐賀国体へ出場、初出場で六位入賞の好成績をあげた。

今シーズンは開幕戦の四月のお花見レガッタで優勝、五月の東商戦招待レガッタでは一、二、四位と上位を独占、六月は愛知県下の中日本レガッタで初出場初優勝の快挙を成しとげた。九月の宮崎国体は、ナックルが六位入賞というのが主戦績である。

来年の栃木国体は、ボートコースが戸田オリンピックコースでもあるので、三位以内入賞をめざして練習に励んでいる。

写真上から、山田毅、佐藤敏則、阿部憲一、福嶋武司、田口哲夫、ボート部員のみなさん

プロフィール

大阪府警察ラクビー部は昭和二十八年五月、警察官として必要な旺盛な気力、体力の練成と強固なチームワーク作りにもっともふさわしいスポーツとして当時の大阪市警視庁機動隊に創設され、昨年二十五周年を迎えた。

発足当初は高校生チームにも大敗するといったみじめな成績であったが、関西の名門大学や有名なチームに教えを受けながら渾身に練習を重ねてきた。

昭和三十三年、関西社会人リーグ発足と同時に、これに参加し、これまでに全国大会の準決勝に三回進出するなど、OB諸氏の地道な努力により輝かしい戦歴を残している。

隊員に一言

第一小隊分隊長（HB）　森岡　泰樹

ラクビーには「みんなは一人のために、一人はチームのために」との格言がある。これは部隊活動にも通じると確信する。

キャプテン　坂本　貞雄

府警察ラクビー部のメンバーは経験者が多く、他チームに比べて小柄だが、それを補うには警察官らしい気迫のこもった当たりとタックルしかないと思う。またそれこそが四半世紀にわたって諸先輩から引き継いだ府警察ラクビースピリットだと思う。

写真上から、吉岡、家長屋、田中ご一家

大阪府警察機動隊

ロック　四谷　和義

現在私は二十九歳、そろそろ現役生活の炎も消えようとしているのかもしれない。しかし、走れる間はつねに前向きの姿勢で練習に取りくみ、体力の限界に挑戦したい。そしてこの猛練習で培ってきた不断の努力と精神を忘れることなく、機動隊員としての誇りを持ちつづけたい。

妻から夫へ

部員家族　吉岡　淳子

四歳の男の子は大きくなったら、僕くもラグビーをすると言う。夫は「ラグビーを始めたら、どんなに辛くても苦しくても最後までやり通さなければならない」と教えている。

そんな夫を私は尊敬する。子供たちが、ガンバリ屋のラガーパパを見習ってほしいと思う。

部員家族　長屋千代美

私たちは世に言う「共稼き夫婦」。ラグビーシーズンに入ると、休日を一緒に過ごすことが少なく、結婚後初めて迎えたお正月も全国大会のため、せっかく作ったおせち料理も主人の口には入らずじまい、しかし、警察官の妻、スポーツ選手の妻として半人前の私を、ぐちも言わず我慢してくれている主人に感謝の気持ちでいっぱいである。

そんな私でも、試合当日は電話が鳴るたびに「けがの知らせでは？」とドキッとすることもある。玄関に疲れきった主人の顔をみて、「ホッ」と胸をなでおろしている私である。

部員家族　西村紀美江

夫は私によくラグビーの話をしてくれる。その時の夫の目はとても輝いている。そんなときは私もとても楽しいが、けっして楽しいことばかりではない。身体中に生傷のたえないことを私にしてみれば心配で心配でたまらない。

心配といえばラグビーのことだけではない。なによりも不安だったのは、成田警備である。成田でも非番日にはやはりボールを持って走っていたそうである。こんな夫を心から声援し、誇りに思っている私である。

部員家族　田中　美恵

社会人ラグビーができるようになった主人はとてもいきいきとした毎日を過ごしている。

試合の次の日は山のようにある子供たちの洗濯物と一緒に主人のジャージーの洗濯だ。汚れを落とすのはたいへんだけど、いつも汚れているジャージーを洗濯させて嬉しいなァ、こんなことを考えながら洗っている。

先日「大阪府警ラグビー部二十五年のあゆみ」を読み、ラグビー部の歴史の深さを知った。伝統を守りつづける現部員の努力はたいへんなことだと思う。主人もその一員として、体力の続くかぎりがんばって嬉しいと思う。私も、主人が練習に、試合に、ベストコンディションでのぞめるよう、精いっぱい協力していきたいと思っている。

体力づくりでゆるがぬ備え

（50音順）

小川運輸㈱
金森藤平商事㈱
関東銑鐵株式会社
高周波熱錬㈱
近藤与助工業㈱
㈱佐藤製線所
芝本龍平
自見産業㈱
谷本隆夫
辻子丈太郎
㈱辻作次郎商店
津田鋼材㈱
豊田通商㈱
内外運輸㈱
西野公庸
廣慶太郎
広畑海運㈱
堀口海運㈱
宮崎精鋼㈱
山大鉄商㈱
和田弘

会員の広場

年末年始を迎えて

佐藤　俊夫

きょうはクリスマスである。そうして間もなく正月を迎える。キリストが生まれた年は、本来が西暦の始まりだが、いまの推定ではB・C（ビフォー・クライスト＝キリスト生誕前）三～四年と修正されている。

ルカによる聖福音書には、キリストが生まれた時「その地方に野宿して、夜、羊のむれを番する羊飼いたちがいたが、主の栄光があたりをてらし、主の天使が近くにあらわれた」という一節がある。気象学者によると二千年前のベツレヘムで羊飼いが野宿できたのは真夏に限られるとのことで、このことからキリストの生誕は七月ごろと推定されている。

それが十二月二十五日となったのは、ローマに入ったキリスト教が、その地在来の太陽宗教の祭日であった太陽の誕生日、すなわち一年で一番日の短い冬至の翌日（その日から太陽が生まれかわって成長する＝だんだん日が長くなる）に合わせたからだといわれる。

つまり十二月二十五日というその日自体は、もともと一年の区切りの祝いなのである。したがってその日の過ごし方は、日本の正月と似ている。

前夜は、あっさりした七面鳥をたべて歌をうたう＝年越しそばをたべて紅白歌合戦をみる。真夜中に鐘の音をきいてミサに行く＝除夜の鐘とともに年越し詣でをする。

クリスマスツリーを飾る＝門松をたてる。クリスマスカードを贈る＝年賀状を交換する。子供は目が覚めると枕もとにサンタクロースのプレゼントがある

お年玉を貰う。

家中揃って身なりを整え教会に行く＝晴着をきて初詣でに出かける。その日一日を静かに楽しく過ごす＝同じ。数日のクリスマス休暇がある＝正月休みがある。

前置きばかり長くなったが、正月にせよ、クリスマスにせよ一年の区切りの時、それをいかに過ごせるかは、平和のバロメーターともいえるだろう。

「一月や日のよくあたる家ばかり（万太郎）」といった心の安らぎを、お互いに持てるような社会であって欲しいものだ。機動隊員等の皆さんにも、この季節には心おきなく休んで頂けるように。

最近に思うこと

柳本　武一

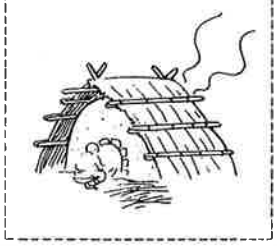
昭和五十四年も早くも終らんとしている。一年三百六十五日、それは永い時と日であるかのように思っていた。しかし過ぎ去りし一年の速さに思いよせて、何となく自らが感じながら最近に特に感ずる事象が多きことかを…。

本年は地方統一選挙に始まり、衆議院選挙等、国内はこれらの選挙に強い関心をもちながら施行された。いざ終ってみて日々の報道は極めて痛烈に批判の活字で一杯であった。考えてみれば我々国民が各々の立場で国の将来を考え、自らの正しい判断に基いて投票したわけである。

私は戦時中は軍隊で三年有余過し、終戦により復員してきた。広島の地は原爆により一瞬のうちに壊滅した。以来永い間、住む家なく、食べるに食なく、着るに衣なく、本当に苦しさを超えた生活の連続でありながら、我が子供の幼きを抱え、親は食べずとも子供に与え、元気で成長するよう祈る生活であった。

しかし今日の物質に恵まれた環境の中で生活する時代を到底想像すらできなかった。家庭生活の中に於いても極めて便利となり、電気冷蔵庫からはじまって、掃除機、洗濯機全く合理的にできている今日の生活である。私はその中にあって失われんとしているものがあるのではないかといつも考えている。

自分の子供が小学校に通う時、母親は子供に対し、暖かい食事を自らの手で与え、「元気でいってらっしゃい」と声をかけることを忘れ、冷蔵庫の牛乳を飲みなさい、トーストを焼いて食べていきなさい、このような心の通わぬ親子関係は、幼き子供に与える影響は将来必ず生ずるであろうと今から心配するものである。本当の愛情は物でなく、やさしいお母さんの言葉であり、自らの手をよごしてつくる朝食であろうと思う。



やがて成長する子供たちが想い出すことは、寒い朝お母さんがつくってくれた心暖かい朝食であり、そのことがやがて心の奥深く刻まれ、間違いなき社会人として日本の将来を引きついでくれるものと信じている。

前述の如く近代社会に於ける、国民を代表する選挙の結果に左右することなく、我々民族の発展を心から願うならば、先ず子供に対する家庭生活の基本から考えるべきであろうかと思っている。

極めて平凡な表現で失礼とは存じながら、今私の幼き時代の母親の姿を想起しながら、思いしことの一端を寄稿させていただいた。

地震防災訓練に参加して

静岡　中田　文雄

自信のない地震対策――といった語呂あわせで茶化していられる場合ではない。現実に大地震の可能性は日に日に強まっているという。

むかしから地震・雷・火事・親父と恐れられてきたが、いまの時代に雷や火事の被害は注意次第で避けられるし、親父にはもはや権威がない。

そういった恐怖感が、先ごろ世間を騒がせた九月十二日東海大地震のデマとなって現れた。

大地震が起きたら、どうするか！――ガスをつけ放しにするな、エレベーターには乗るな、電話をかけるな、自動車に乗って逃げるな、流言に惑わされるな――など一般市民に示されている対策は、〝べからず〟ずくめであり、積極的にどうすれば安全かという青ランプの指標はない。

このなかで、十一月十六日に実施された東海地震防災大訓練である。サイレン、半鐘の音のなかで、かくいう私も避難訓練に参加した。巡動靴で近くの家庭に集まり、けが人搬出、消防車の一斉散水も行われたが、われわれ市民にとっては、真剣に〝逃げる〟ことしかないようだ。

そこで市民が期待するのは、その時自分たちを救ってくれる存在、つまり警察力ということになる。なかんずく機動隊員が具体的にどのような地震対策を立て、かつまた訓練を行っているかが、私たちにとってはひとつの〝保険〟になると思っている。

うつくしき老年

千葉　F　S

はやいもので、あと旬日を経ずして新年を迎える。

「還暦おめでとう」とか「来年は君の年、歳男だね」……と家族や友人からヒヤかし半分に言われるが、六十歳を迎える実感はまったくわかない。

長い外国暮らしで、私の体から日本の風習が失われてしまったのかもしれない、と一沫の淋しさを感じるこのごろである。

欧米には還暦も干支ももちろんないし、それどころかアメリカでは六十五歳から七十歳へと停年を延長して働ける間は働こうという風潮が強くなっている。わが国でも、おくればせながら六十歳停年制が普及しつつあり、結構なことだと思う。

さて、昔は還暦と言うと、引退して退職金で家作の何軒か持ち、食に不安なく、赤いチャンチャンコを贈ってもらって静かに暮らすのが一般的であったのだろう。しかし、今のわが身を振り返ってみると、仕事に追われて日々あくせく送っているのに気づく。だいいち、赤いチャンチャンコなど誰も贈ってはくれそうもない。このようなわけで、「還暦を迎えて……」とか「歳男の……」と心境を問われても、返事に窮するわけだ。

しかし、私なりに理屈をつければ、還暦にも意義があると思っている。六十歳を人生の一つの節として、思いを新たに過去を反省し、これからの人生に処する心構えをかためる――たしかに東洋人の伝統的な知恵の結晶でもあろう。

そう言う意味で仕事から引退した後の自分の姿を想像してみよう。職を得ている現在は肩書きと名前で私は人々とお付き合いさせていただいている。ところが引退して肩書きがはずれるとどうなるだろう？　極端な話かもしれないが、終戦当時を思いだす。海軍大尉の肩書きを失った私はまるで犯罪人のようなみじめな気持ちで日々を送ったものである。これは比喩としてはふさわしくないが、要するに堺の人間としての魅力が自分にあるか否かと言うことだ。

老いは誰にも平等に訪ずれる。年齢にふさわしい自分であるよう自らを見つめることはむずかしい。「いま仕事に追われ、ぬくぬくと俺は若いのだと思いこんでいれば、これは必ず老醜につながる。年とともに自分のあるべき姿を見つめ、ふざまなことは絶対にするな」と自分に呼びかける。

とにかく〝うつくしく老いる〟ことはむずかしいようだ。

いまの日本では多くの老人が必ずしも幸せな老後を送っているとは考えられない。

アメリカでは退職を〝ハッピー・エンタイヤリング〟と呼んでいる。ボランティア活動に生きがいを見出している老人が日本に比べるとはるかに多いことなど大いに考えさせられる。

ところが、日本の老人社会はどうであろう。健康で地位を得た人々は政治や経済界で老害と陰口をたたかれながら現役を勤めているが、なかには失礼ながら、あの年でと痛々しさを感じさせることさえある。だが、これは例外で多くの老人は貧しく余生をもてあましているのではなかろうか。こう心配するのは私だけであろうか。

この励ます会の活動も、老人に若い機動隊員と接する場を提供する意味で、もう一つの意義を生みだすのではないかと愚考する次第だ。ともあれ、うつくしく老いることのむずかしさをしみじみ考えさせられた年の瀬である。

愛知県警察機動隊総合体育大会

励ます会代表が声援送る

愛知県警察機動隊はこのほど中部管区警察学校で「機動隊総合体育大会」を開催した。この大会には当励ます会から中森誠一伊勢湾海運取締役、木村清重広畑海運会長の両氏が出席、励ます会を代表して競技に声援を送った。

当日は、曇ひとつない秋晴れでグラウンド内では機動隊員らしいファイトあふれる競技が繰りひろげられた。

競技は、百メートル競走、八百メートル競走、スウェーデンリレー、仮装応援合戦など小隊別対抗一四種目と中隊別の綱引き、紅白の騎馬戦等の自由競争に分けて争われた。なかでも仮装応援合戦は、テレビでおなじみの「ピンポンパン体操」、土人に仮装しての「ふりむけばアフリカ」が登場するなど会場を大いにわかせた。

結果は、小隊別対抗で第六小隊が最後の種目八百メートルリレーで逆転優勝し、本部長賞杯を獲得、一方仮装応援合戦は、第二小隊が優勝し、大会を終了した。

事務局からのお知らせ

☆かねてより、千葉支部新設の準備を進めておりましたが、左記のとおり、設立総会を開催することになりました。会員多数のご参加をお願いします。

千葉支部設立総会

日時　一月二十二日（火曜日）
　　正午より

場所　千葉市千葉港一二二―二
　　グランド・ホテル
　　TEL〇四七二（41）二一一一

☆警視庁第一機動隊長・石原滋明氏より、このほど当会あて御礼状をいただきました。これは同隊が開催した恒例の家族慰安会に関するものです。

はげまし

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
東京都中央区八重洲2－4－14
〒104　ミツヤビル 3階
発行人　高橋　繁
TEL　03(272)2050
購読料　年間1200円(送料共)

期待に応える決意新たに

警察庁長官　山本鎮彦

新年おめでとうございます。

昭和五十五年の年頭に当たり、機動隊員等に対し、深い御理解と暖かい御激励を賜わっております社団法人「機動隊員等を励ます会」の会員各位に対し、衷心から謝意を表する次第であります。

昨年は、全世界から我が国警察の真価が問われたカーター米国大統領国賓訪問警備とこれに続く主要国首脳会議警備、一連の「成田闘争」警備等多くの困難な問題に直面したのでありますが、会員各位の暖かい御理解と御支援のもと、全国都道府県警察が文字どおり一丸となって対処し、所期の目的を達することができました。

本年も、内外の情勢は楽観を許さないものがあり、警察の諸活動は一層困難の度を増してくるものと思われます。特に、極左暴力集団等は、「八〇年代決戦」を呼号して「新東京国際空港第二期工事阻止」を当面最大の闘争に掲げ、「連月連日闘争」に取り組むことを決定しているところから、今後ともゲリラ行動を含めた激しい実力闘争が予想されますし、日本赤軍の動向にも予断を許さないものがあります。

一方、右翼諸勢力は、北方領土問題、靖国問題、日中交流の拡大等をめぐって強い不満を表明し、また、政局の現状に危惧の念を抱くなど直接行動に向けた不穏な動向がみられます。

このような厳しい情勢下において、全国の機動隊員等は、いかなる事態にも迅速、的確に対処できる強靱な実力を涵養して法秩序の維持と民主主義社会の擁護に努め、国民の期待と要望に応えるべく、決意を新たにしているところであります。

会員各位におかれましては、今後とも、国民と機動隊員等を結ぶ「かけ橋」として、また、機動隊員等の精神的支柱として一層の御激励と御叱正を賜わりますようお願い申し上げます。

終わりに、貴会のますますの御発展と会員各位及び御家族の御多幸と御健康を祈念して、年頭の御挨拶といたします。

国民と機動隊を結ぶかけ橋

警視総監　國島文彦

新年おめでとうございます。

昭和五十五年の年頭にあたり、社団法人「機動隊員等を励ます会」の皆様に心からご挨拶を申し上げ、常日ごろいただいている深いご理解と、幅広いご協力に対し、衷心より感謝の意を表する次第であります。

昨年は、主要国首脳会議開催に伴う警衛警護警備をはじめ、多くの困難な問題に直面したのでありますが、国民の皆様方の暖かいご理解とご支援を得て、無事乗り切ることができました。

本年も、国内外の各般の動向には予断を許さないものがあり、治安的にも、厳しい情勢が続くものと思われます。

特に、極左暴力集団は「新東京国際空港の開港と、第二期工事阻止」を中心課題としながら、本格的なテロ、ゲリラへの志向を一層強めていくものと思われますし、ハイジャック等、日本赤軍の動向にも注意を要するものがあります。

一方、右翼諸勢力は、現下の情勢を厳しく受けとめており、その一部においては、「直接行動」に訴えるおそれが強いのであります。

このような情勢下での警察、とりわけ集団警備力の中核的組織としての機動隊は、集団不法行為や災害等の脅威から社会の平穏と国民生活の安全を護るため、本年も全力を傾注して職責を果たす決意であります。

機動隊員等を励ます会の皆様はまさに国民と機動隊を結ぶ「かけ橋」であり、皆様の暖かいご支援によって機動隊員は大きな自信と勇気を与えられているのであります。

機動隊は今後とも会員の皆様のご期待に応えて、たゆみなく研鑽を積み、有事に際しては何時、如何なるところにおいても的確に対処し、国民の皆様の信頼を一層深めるよう努力してまいりたいと存じます。

終わりに、貴会のますますのご発展と、会員およびご家族の方々のご多幸をお祈りして、年頭のご挨拶と致します。

はげましの輪を広げよう

社団法人　機動隊員等を励ます会
理事長　大内俊司

皆さん、新年おめでとうございます。

いよいよ一九八〇年代に入りました。正月来、皆さんは新聞やテレビや雑誌で、一九八〇年代という十年間についてのさまざまな意見を見聞され、また皆さん自身、政治・経済・社会、あらゆる面での大きな変化の始まりを感じとっておられるのではないかと思います。

英語には、百年をいい表わす〝センチュリー〟と十年を表わす〝デケイド〟という言葉があります。われわれは〝センチュリー〟を〝世紀〟と呼びますが、〝デケイド〟には適当な対応語がありません。十年ひと昔、と言い馴らされてはいますが、将来に向かっての十年ということは、あまり従来の感覚にはなかったようです。今年は、六〇年、七〇年の当時と異なり、盛んに今後十年間が強調されていることは、進歩でもあると同時に、短期的対応では済まされない時代の背景でもありましょう。

さて、その十年ですが、端的にいえば国際的にも国内的にも、エネルギー問題、政治経済体制の多極化など、今までのさまざまな行き過ぎや矛盾の蓄積を、人類が、また日本人が、どのように英知をもって解決するかを試される時代でありましょう。

われわれの機動隊員等の皆さんも、おそらくいろいろな形の試練に出会い、また、それを進歩をもって克服していかれることと思います。

その間、どのような激動があろうとも、唯一の正義は、平和で幸福な社会の確立であり、それだけに機動隊員等の皆さんと、それを励ます会員の皆さんの責務は、より一層大きいといわねばなりません。

フランスの哲学者パスカルが「力の伴わない正義は無効であり、正義の伴わない力は暴虐である」という含蓄の深い考えを述べています。

機動隊員等の皆さんとわれわれ市民は、平和な社会生活を脅かす〝正義の伴わない力〟と戦っているわけですが、社会の正義を貫くためには、力が必要であります。その正義の力というのは、単なる防衛力、戦闘力だけではなく、機動隊員等の皆さんの信念と人格の養成、それにこの基盤を確固たらしめる市民の支えであります。

機動隊員等を励ます会は、いまや全国で東京本部と七支部、一月末創立の千葉支部を含めると八支部になり、会員も一万二千人を超えてきました。

当会は政治関係や売名、営利行為を排し、純粋に機動隊員等をはげまし、日本の平和を心から乞い願う市民の集まりであります。

新年にあたって、われわれは向かう十年のために、われわれに与えられた責務を十二分に自覚し、はげましの輪を何倍にも何十倍にも、強くたくましく広げてゆくことを、誓い合おうではありませんか。

八〇年代へ向けて全国機動隊長語る

世界に誇る治安国日本、これを支えるのが尖兵、機動隊である。隊員のほとんどが柔剣道の有段者、拳銃の名手であり、融和団結・積極果敢・誠実忍耐を掲げ〝訓練に泣き実戦で笑う〟を合言葉に切磋琢磨している。迎えた八〇年代、あらゆる面で波乱含みというのが大方の予想であるが、ともかく防人の務めとして、平和な日本を守りぬくと決意のほどを語る。北海道から沖縄まで、全国の機動隊隊長に勢揃いしていただいた。

精鋭最強、北の守り

北海道警察機動隊長　村上　諦一

〝正義、融和、根気〟が、我が道警機動隊の隊訓である。

隊員は、この隊訓を座右の銘として自己啓発を基本とした練成に努め、半年は雪に埋もれる厳しい自然条件の中で、四国、九州を合わせたより広い地域における警備実施の中核部隊として精鋭最強を誇り、日夜、任務を遂行している。

全隊員が各種のスポーツに秀でているが、特にスキーには練達の者が多く、装備としても三台の雪上車を保有し、この技術と装備を活用して冬期における警備活動の万全を期している。

昨年は、道内における警備活動のほか、成田空港、東京サミット警備にも参加したことは、隊員にとって貴重な体験であった。

多難な政治・経済情勢の中で新しい年―八〇年を迎え、道民に信頼される力強い機動隊としての使命感に燃え、決意を新たにして、更に努力することを誓う。

各方面本部の虎の子部隊

北海道警察警備隊副官　長森　武

北海道は、ご承知のとおり他の府県と異なり、札幌、函館、旭川、釧路、北見の五方面に分かれており、道警備隊の半数は、これら各方面本部の所在地に一箇小隊ずつ配置されている。集合訓練、大規模警備実施等の際は、札幌に所在する本隊と合同で行動する。昨年来、四次にわたる新東京国際空港警備と東京サミット警備にも参加、朋のシンボルマークに恥じぬ精鋭ぶりを発揮した。各方面とも、本隊から遠く離れているため（一番近い旭川まで一四〇キロメートル、遠い釧路までは三八七キロメートル）、それぞれの方面における警備実施の中核部隊として活躍するとともに、平素の交通指導取り締まり、集団警ら等の他、季節的に秋の鮭密漁取り締まり、冬は山岳救助等文字通り「八面六臂」各方面における虎の子部隊として活躍している。

複雑多様化するであろう八〇年代を迎え「北の治安は、どうぞお任せ願いたい」の決意を新たにする次第である。

東北管機　心得の条

東北管区機動隊大隊長　千川原昭六

三三〇名、どの顔も朴訥そのものであるが、どんな抵抗があってもかかったエンジンは容易に止まらない。あたかも鉄骨を満載したトラックがジリジリと急坂を登るがごとく、地道ではあるが、ととことやり抜く根性と自力を秘めている。

大槌に刻み込んだシンボルマークに象徴される小隊それぞれの持ち味もまた面白く、相互の切磋琢磨の中に定着した剛たる隊風、そして築き上げた十年間の実績と伝統は決してきらびやかではないが、あたかも燻銀の風格をさえ感じさせる。

「我が命我がものと思わず、武門の儀あくまで陰にして、己の仮備を秘し、ご下命如何にても果すべし、……」

これこそ八〇年代に入っても決して変わることのない「東北管機　心得の条」である。

ジョッパリ精神に燃えて

青森県警察機動隊長　須藤　清勝

〝ジョッパリ〟これは、負けず嫌い、粘り強い、意地っ張りなどと、雪国の風土に培われてきた律軽人の気質を現した方言である。社交性に乏しく、閉鎖的で、意思表示をはっきりさせないもどかしさもあるが、何事にも粘り強く、その使命感に徹した行動力は高く評価されている。

これまで幾多の警備出動にも黙々とその任務を遂行して県民の信頼を得、また相次ぐ成田出動や東京サミット警備に一人の落伍者もなく立派に任務遂行したのも、このジョッパリ精神に徹していたからだと思う。

八〇年代に向け、本県でも、車力村ミサイル基地、原発、原船「むつ」母港等の諸問題をかかえており、寸時の油断もできない状態である。隊員の融和団結をより一層強固にして、ジョッパリ精神を大いに発揮し、本州北端の護りを期すべく我が青森県警機動隊員は今日も訓練に励んでいる。

治安の闘士を目指して

岩手県警察機動隊長　菊池　清

〝強く、明るく、頼もしく〟―これが我が隊の隊訓である。

我が機動隊は、昨年四月待望の所属昇格となり、兼事務隊員一名を含め隊長以下六〇名の陣容で新生機動隊が誕生した。編成は、柔剣道特練員を中心とする県機第一小隊と、管機隊要員で構成する第二小隊である。

小隊対抗各種競技―柔剣道では第一小隊に二歩も三歩も及ばない第二小隊も野球、バレーボール、卓球等となると俄然その実力を発揮、県下各種対抗試合優勝の原動力となっている。

県管の活動指標である「県民の安全と平穏な生活の守り」に生きがいを感じつつ日夜健闘している隊員たちだが、県内における各種出動、更に成田空港、東京サミット警備等に参加し、貴重な体験を積んだことは大きな自信となった。

激動する八〇年代を迎え、治安維持の最後の砦たらんとがんばる決意である。

忍の警備で治安を守る

宮城県警察機動隊長　柴山　時夫

我が機動隊は、東北の玄関である仙台市を中心に、県民の安全と平穏を願って「明朗、団結、忍耐」の隊訓のもと、日夜活躍している精強部隊である。

〝忍〟の警備を誇り、団結も固く柔剣道、ソフトボール、通信競技と県下大会で優勝を独占、士気は極めて旺盛である。「訓練に泣いて実戦で笑え」を合言葉に隊内マラソン、サッカーで基礎体力を養い、厳しい警備訓練に耐え、レンジャー、レスキュー、爆処理等機能別訓練にも真剣に取り組み有事に備えている。

昨年は、県民の治安を守りながら、成田、鹿島の警備にも出動し、重責を果たしたことが隊員の誇りと自信を深めた。

国内外の情勢が大きく揺れ動くなかで新しい年八〇年代を迎え、我が機動隊は、「ナンバーワン日本の機動隊」の評価に恥じない、県民の楯となる、気が優しくて力の強い、たのもしい隊員の育成に精根を傾けたい。

武道東北制覇で士気高揚

秋田県警察機動隊長　桜庭　欽也

〝武道の秋田部隊〟―我が機動隊の誇りの代名詞である。

日本海の波しぶきをあびてはるかに続く、おけさ、おばこラインが果つるところ北都あり、その一角に秀峰鳥海山を仰ぎ、我等機動隊は結集する。寡黙なるもその誇りと闘志は胸奥深く秘め満を持している。我が隊は、昨年十月三十日の東北管区内柔剣道大会で県警史上初めて柔剣道とも優勝し、その伝統に輝かしい一ページを加えた。

朝夕我が隊員の耳に親しい松籟にもすでに八〇年代の足音は厳しくも伝えられつつあるが、〝最高の苦難は我が肩に〟―〝治安の最後の砦は我等が楯〟―を合言葉に、これからもくじない、県民の楯となる、気が優しくて力の強い、たのもしい隊員の育成に精根を傾けたい。

県警最後の切り札

山形県警察機動隊長　小林　實

〝機動隊は、県警察の最後の切り札だ〟嵐警察本部長が初巡視の際、期待をこめていわれた言葉である。

本県機動隊は、これまで、数次にわたる組織の変遷を経て、昨年一月の機構改革で、県機と管機が合隊し新体制となった。

―本隊は、将棋駒の製造で知られる天童市に、分駐隊は、出羽三山参詣拠点となっている鶴岡市に置かれている。

当隊は発隊以来、「誠実、明朗、剛健」を隊訓として、日々精進し士気は高い。

昨年は我が国警備史上かつて激動と混迷の時代といわれる八〇年代を迎えて、機動隊の使命は重い。我が機動隊は、いかなる不測の事態にも、冷静沈着に対処し得る精強な集団警備力を維持するため、日々たゆまぬ訓練を重ねており、特に機能別訓練の強化をめざしている。

我が隊は、戊辰戦役の悲話として有名な会津白虎隊の「清純、至誠」をモットーに、〝白虎〟のシンボルマークを大槌に描き、隊長以下五八名が日夜治安維持に邁進している。

隊運営の基本は、「融和と団結」である。上下一体となった部隊活動こそが、強力な部隊をささえる柱である。

どんな劣悪な状況下でも動揺せず、耐える部隊でなければならない。会津武士道を育んだ、日新館の教え「ならぬものは、ならぬ」の精神が、我が隊員をささえている。

ならぬものは　ならぬ

福島県警察機動隊長　村上　貞祐

ないといわれる東京サミットや成田空港警備にも出動して貴重な体験をし、自信をつけ、みな逞しくなった。

八〇年代の情勢は厳しい。機動隊の役割は、更に重くなってくるだろうが、着実な努力と融和団結を図り、真に県警の切り札として、県民のための機動隊になりたい。

「伝統」その旗の下

警視庁第一機動隊長　石原　滋明

当隊は、皇居のほとり、旧近衛師団の跡地、現北の丸公園内に位置している。

昭和八年、警視庁特別警備隊（通称新撰組）として発足、以来四十八年の隊史は、昭和の警備史そのものといえる伝統をもち、現在は〝近衛の一機〟、〝旗本一機〟の愛称で、皇居、本部庁舎等都心部の護りを固めている。

隊員は、「誠実、融和、忍耐」の隊訓の下、「訓練で泣いて現場で笑え」を合言葉に、幾多の先訓に学びつつ、真に強い機動隊を目指し、文武の道に励むことで若い情熱を燃焼させ、機動隊員らしく気力、体力の充実に努めている。

国内外の情勢を反映して、八〇年代も厳しいねりが続くものと考えられるが、鍛え抜いた力を一致結束させ、首都の治安を護り、都民の平穏な生活のために献身する決意を新たに頑張っていきたい。

カッパの二機は水陸両用

警視庁第二機動隊長　瀬川　勝久

通称〝カッパの二機〟は、昭和二十五年九月十六日発隊以来、

本年で満三十周年を迎える。この間、各種の風水害警備をはじめ、安保闘争警備、浅間山荘事件警備、成田闘争警備、そして昨年の東京サミット警備等幾多の大警備に足跡を残してきた。

また、カッパの名に恥じず、ボート部は国体の常連、水難救助隊も連日救助活動に活躍している。そして水上のみならず、昨年は当庁拳銃大会でも優勝を飾ったほか、柔剣道、断郊レース、マラソンなど水陸両用の精強部隊たるべく全隊員が一丸となって猛訓練に励んできた。

「三〇而立」という言葉がある。この記念すべき年のはじめに、我々は、なお一層団結を強固にし、多様化する時代の要求に応える能力を身につけ、一貫して不変の機動隊精神を堅持して、国内外とも混迷の八〇年代に、民を守る水神＝カッパとして、責務を全うする覚悟である。

桃太郎像を求めて

警視庁第三機動隊長　松浦　清輝

静かな住宅街の一角に、我が精鋭第三機動隊の隊舎があり、幾多の先輩が文字どおり血と汗で築きあげた伝統が脈うっている。〝誇り〟の三機の名の下に、万全の警備力を確保するため、今日も厳しい訓練が続く。

マスコットが示す「桃太郎」は、悪に対しては敢然と立ち向かう姿勢と善良な都民に対する優しさの両面を象徴する。機動隊は、何をおいても強さが表看板である。しかし、強いばかりが機動隊ではなく、やはり人間的な心に欠けることがあってはならないと、情操教養にも心を傾けつつ平素から万全の構えをとっている。今後とも、首都治安の最後の砦として、一層その責任を自覚するとともに、人間機動隊として、三機の機関誌名のごとく、「樫」と「輝」く機動隊を目指して、全隊員一丸となって精進を重ねたい。

堂々進む緑の旗の下

警視庁第四機動隊長　鬼嶌　正雄

〝鬼の四機〟のニックネームで都民から親しまれ、凶悪の徒から恐れられた伝統が隊も、発足以来三十年の歳月が過ぎた。

若さと希望、そして発展を表す「緑」の隊旗をシンボルとして、いかなる困難に遭遇しようとも堂々と進む精強な部隊づくりに余念がない。

当隊は、安保闘争や成田闘争そして主要国首脳会議警備等幾多の困難な事象に際し、一致団結して任務を全うした。三十年にわたり築かれた基盤と使命感が脈々と後輩に受け継がれ、隊生活の大きな支えとなっている。

八〇年代は、情勢変化の激しい時代だといわれ、大規模災害の発生も予測されている。「治に居て乱を忘れず」の心境で都民保護に徹し、日夜厳しい訓練を積んでいきたいと思う。

〝学〟〝精強〟と呼ばれて

警視庁第五機動隊長　高木　健哉

我が隊は、〝精強の五機〟、〝学の五機〟と呼ばれて久しい。その名にふさわしく昇任試験合格者は年々輩出し、警備実施をはじめ、柔剣道、サッカー、陸上競技の精強揃いである。

この伝統を支えているものは、寸暇を惜しんでの勉学、汗にまみれての猛訓練、猛練習、これらを通しての心の絆であり、目的に向かって黙々と努力し、耐えていく燃えるような若さと情熱である。

第二次石油危機で幕明けする「くすぶる危機の時代」といわれる八〇年代は、経済成長の減速、欲求不満の増大、紛争の多発等が予想されるが、治安の磐石を誓いつつ、ひたむきな努力を続けていきたい。

明るく強く頼もしく

警視庁第六機動隊長　伊藤　隆二

〝若鹿の六機〟――我が隊のニックネームである。鹿は「六」に通じ、その俊敏性とスマートさからつけられた愛称である。

第六機動隊は、東京国際空港に近接する勝島の地にあるため内外要人の警護警備には、常に第一次的に出動しており、「空港警備は六機」との言葉が定着し特別の期待と信頼を寄せられている。隊員は、在隊中に全員が昇任・昇段を目標に多忙な警備の合間を、勉学に、柔剣道に励み心身の鍛練をしている。

昨年の我が国有史以来初めての主要国首脳会議警備は、全隊員が「なせばなる何事も」の信念と気力体力で乗り切った。

八〇年代を迎え、この体験をもとに、決意を新たにし「明るく、強く、頼もしく」の隊訓を モットーに隊員の団結を強め、治安警備はもとより雑踏でも災害でも、どんな事象にも対応できる精強部隊として都民の信頼と期待に応えていきたい。

若獅子の三多摩鎮台

警視庁第七機動隊長　川原　春雄

多摩川からはるか秀麗富士を眺める近藤勇の生地、調布の地に我が隊は所在する。

三多摩唯一の隊で〝三多摩鎮台〟を自負し、他隊にない水難レインジャー部隊をもつ。

ニックネーム〝若獅子〟の名に恥じない「情熱・英知・創造」を隊訓に、名実ともに若さを誇る。強固な団結のもと、大学紛争・第二次安保闘争・成田・サミット・重防警備に活躍、爆弾・火炎びん・投石の下で鍛えられ、他隊にも負けない実力を蓄えてきた。政治・経済の混迷・社会不安の増大・流動性の激化・不確実性の時代――八〇年代の治安の鎮めとして若獅子のように勇躍するため庁内最良の武道場には気合の声の絶える日はない。

「忍の八機」

警視庁第八機動隊長　笠井　邦久

新宿一の高台、若松台に我が精鋭八機の本隊がある。高所優位の先訓か、実に地の利を得ている。第二安保のさなか六機、七機とともに産声をあげ、一月十日で満十一歳になる。

「融和、積極、練成」を隊訓に、本業の諸訓練に加えて相撲や重量挙げなど、体力の限界に挑む若さが隊内に満ちあふれている。

東大警備が初陣、その後、荒れ場を風のごとくかけめぐって敵の側背を突き、〝忍の八機〟の異名をとる。昨年のサミット警備では、高速道路を守って不眠不休、無事任務を果たした充実感は生涯忘れられない。

国の内外に多くの問題をはらむ難しい情勢の中で激動の八〇年代を迎え、心引き締まる思いがする。どのような時代でも世の中の推移を見きわめつつ的確に対応し、断固として日本の平和を守り抜く決意を新たにするとともに、親しまれ信頼される機動隊をめざして頑張りたい。

「警備道」の確立

警視庁第九機動隊長　木田　菅夫

「至誠、団結、剛健」の隊訓のもとに警視庁第九機動隊が発足して今年で十周年を迎える。

わずか十年の伝統ではあるが、今やその実力において他隊に比べて勝るとも劣らないところまでこぎつけることができた。

満天下にその名を轟かせた浅間山荘事件をはじめとして、幾多の警備現場で、常に疾風迅雷の活躍を続け、〝疾風の九機〟の名をほしいままにしている。

検挙実績三年連続一位の数字が示すように、警備現場において極左暴力集団を怖え上がらせているのも、我が隊である。

文字通り、命を賭し、先輩が血と汗で築きあげたこの輝かしい伝統を確実に引き継ぐことが私と現隊員の使命である。

激動と混迷の八〇年代を迎えるに当たり、先訓に学び、時潮を先取りし、国民の負託に応えられる最後の砦として、実力のある機動隊を目指し、隊員とともに汗を流していきたい。

技術集団の誇り

警視庁特科車両隊長　小森　茂

〝技術の特車〟自他ともに認める我が隊のニックネームである。発足以来十年、全国唯一の車両機動隊である。紛争大学の封鎖解除や浅間山荘事件、災害地救援活動、その他数多くの重要警備には必ず出動し、隊の特性と機能を発揮し、重責を果たしてきた。隊員は技術集団としての誇りを持ち、全隊員がどんな車両でも操作できる資格技量を持ち、車両整備、電気熔接等の特殊技能保有者も少なくない。

テクノロジー時代の機動隊といえば自画自賛となるが、隊員は創意練成の隊訓にのっとり、警備技術の開発改善に意欲をもやし、訓練に精進している。

八〇年代は、いろんな意味で試練の時代となるだろう。その幕あけの年を迎えて、センス（柔軟な感覚）、スピード（迅速な対応）、スピリット（使命感）の三つのSを合言葉に、全隊員が新しい気持ちで、スタートをすることを誓い合っている。

団結の象徴　赤いダイヤ

関東管区機動隊連隊長　中地　国次

〝赤いダイヤ〟は、関東管機のシンボルマークである。隊員のヘルメット、大楯、警備車に〝赤いダイヤ〟が鮮かに印されている。これぞ、隊創設直後、警備現場の知恵として考案された我が隊のマークである。赤色は若さと情熱を、ダイヤは固い団結を表している。

当隊には、昭和四十八年に制定された隊訓――「融和団結・積極果敢・自律自学」――がある。一〇県一千名の隊員の心のよりどころとして日々の活動のなかで生かされている。昨年四月、山本警察庁長官の直筆の隊訓碑が管区警察学校校庭に建立され、隊員の士気を一層高揚させることができた。

国の内外に困難な問題が山積している中で迎えた八〇年代は正念場の時代といえよう。さし昇る朝日のように若い情熱を真赤に燃やして、ストロング・スピード・スマートを身につけた隊員づくりに精進したい。

文武不岐　前進あるのみ

茨城県警察機動隊長　内山　重信

「組織がその真価を問われるのはピンチに立った時だ」とは県警四方本部長の名言。この教えを肝に銘じ、新米隊長をベテラン隊員が、かっちりと支え、一朝有事の際、県民の期待に応える県警の最強部隊として、ただひたすら実力の涵養に努めている。

当面の任務は、県内に散在する成田空港関連施設の警戒警備。守り主体の地味な警備で、時には当番、非番と激務が続く。しかし、「男だ、なんでなくものか」我々の団結力が、ジェット燃料を無事成田へ輸送、あの大空の下、世界各国へジャンボ機が飛び立っているのだと思う時、隊員の心は希望に燃える。

水戸学の真髄は、「文武不岐」我が機動隊も、悪者を震え上がらせる「鬼の集団」であると同時に、知性あふれる「学の集団」をめざし、一四〇名の隊員がスクラムを組み、八〇年代の先頭を全力で走っている。

覇気と行動力の充実

栃木県警察機動隊長　八木美知雄

千古から続く那須岳の噴煙は、北関東のシンボルである。その裾野に広がる大原野は、勇猛な坂東武者の修練の場となって、万葉の昔から本邦第一の勇者として防人の務めを果たしたことは県民の大きな誇りである。

世の移り変わりは激しくとも、脈々と流れる野州健児の熱血は、那須の噴煙となって燃える。選抜された我が隊員は、本県警察の集団警備力の中核として心、気、体の練磨に努めている。

激動の八〇年代は、我が隊員の試練の年であり、覇気と有時即応の行動力を強め、郷土の治安を護る決意を固めている。とりわけ、栃の葉国体の警備に万全を期することが、我が隊の本年の大きな課題である。

勇者は恐れず

群馬県警察機動隊長　須藤　三

八〇年代は、「くすぶりの危機」の時代といわれているよう

に、全く予測しがたいような多くの事案の発生が懸念される。

この厳しい年代を迎え、更に決意を新たにし、「訓練に泣き実戦で笑う」を合言葉に、全隊員一丸となって、治安維持の尖兵として挺身していく覚悟である。

我が機動隊は、隊長以下四〇名の少数組織であるため、隊員一人ひとりが水難、山岳、爆処理、スキー、レインジャー等の特殊訓練をマスターし、いかなる事案にも適切に対応できる部隊であることを目標に日々練磨に努めている。

また、一方では赤城、榛名、妙義の上毛三山の秀麗を望む恵まれた隊舎で、先人の労を忍びつつ、智者は惑わず、勇者は恐れずの気構えを求めて頑張っている。

正義に集う若鷲

埼玉県警察機動隊長　清水　明

県下最大規模の所属、そして社会正義の実現に情熱を燃やし文武両道に秀でた全国一若い若鷲の集団、これが埼玉県警察機動隊である。

「訓練に泣き現場で笑え」を合言葉に実戦的な訓練に励み、恐れを知らない強靱な部隊、前途不透明、混迷な八〇年代にも的確に対応する柔軟な部隊をめざし頑張っている。

また、幹部候補者の養成機関的位置づけに隊員は、向学心に燃え、心を磨き、技を練り、毎年多数の昇任者を出している。

このように、今や雄々しくはばたく若鷲に五三〇万県民の期待は大きい。

やる時にはやる

千葉県警察第一機動隊長　杉田　安男

我が隊は、十数年来続けられてきた成田空港警備において、本県基幹部隊として、その中心的役割を果たし、年々受け継がれてきた一機魂は、各隊員に浸透し血を吐くような訓練と不屈の根性で自他ともに実戦の一機としての名を恣しいままにしている。

日本の表玄関として活動を開始した成田空港は、二期工事を控えて多くの難問をかかえ引き続き関東各県をはじめ全国から応援をいただかなければならない。

一機の看板は「立ちあがりの素早さ」と、「やる時にはやる」の精神であり、この精神に基づく強い団結力で、新空港警備はもとより首都県警察として脱皮しつつある本県の八〇年代事象に対し、県民の機動隊として一丸となって対処していくつもりである。

愛され信頼される

千葉県警察第二機動隊長　鈴木　勝美

「レインジャー〇〇準備よし」「降下」裂帛の気合、機敏な動き、今日も激しい訓練が続いている。

我が隊は、多くの警備を血と汗でのりこえ、輝かしい実績と伝統を築いてきた。若い隊員は「先輩に続け」を合言葉に融和団結を強め、集団警備力の向上をめざし、若い体を鍛え、血の滲む訓練をくり返して、強靱な精神力を養っている。

新しい年―八〇年は、政治的にも、経済的にも多くの問題をかかえている。

特に、本県においては、空港問題、人口急増に伴う諸問題等をかかえ、警察の仕事は、多様化し、すばやい対応が要求され、機動隊の果たす役割はますます大きくなってきている。

我が隊は、県民の期待に応え、県民の平和で安全な生活を守っていくために若い力を育て、県民から愛され、信頼される機動隊になるようがんばりたい。

たくましくはばたく若鷲

新東京国際空港警備隊長　石渡　久弥

当隊は、昨年七月、国民の期待を担って、各都道府県警察から選び抜かれた精鋭五八七人をもって発足した。隊員は、創設の苦労と幾多の試練をのりこえ、近く一五〇〇人体制となり雄々しくはばたこうとしている。

世界の空に飛びゆくジェットの音を聞きながら空港の周囲一八キロにわたって、昼夜の別なく警戒の目を光らせている警備の連続である。

八〇年代に向けて廃港へと固執する過激派集団、二期工事を控え、反対闘争は更にエスカレートし、また、内外の情勢を反映してハイジャック等予断を許さないものがある。

空港は日本の玄関、世界を結ぶ接点であり、これを守る空港警備隊は、まさに日本警察の顔である。精強化して使命感に燃え、スマートで、豊かな教養を身につけ、国民に信頼され、親しまれる「たくましい若鷲」に成長することを願っている。

若き獅子達

神奈川県警察第一機動隊長　杉山　利夫

我が隊は、創設二十五年目を迎える。この間、蓄積された諸先輩の業績は数多く、養われた不屈の精神は名誉ある伝統として輝いている。そして今日、これを受け継ぐ隊員の士気は高く、和から生まれた団結力は固く頼もしい。

いつ、いかなる事象にも対処すべく訓練は厳しい。「訓練で泣いて実戦で笑う」を合言葉に基本訓練はもとより、レインジャー、特殊部隊等日ごろの訓練は人間扱いしないほど過酷である。その成果か、たび重なる重大警備において隊員の士気は微動だにしない。八〇年代は、七〇年代以上に変化に富んだ年代と予想される。世界に誇る治安国日本、国民、県民の期待に応える警察、これを支えるのは、我が機動隊の若き獅子達である。兵法の「父子の兵」ではないが、血が通い、活気に満ちた治安維持のプロ集団として、より魅力ある機動隊づくりに邁進したい。

強靱な心身　明るい隊風

神奈川県警察第二機動隊長　宮本　照男

午前八時二十分全隊員が本館前に整列、寒気凛冽たるなかで国旗掲揚のあと警察体操、柔軟体操、駆足訓練と続く。全員の足並みが揃い、グラウンドに若若しいかけ声がこだまする。我が隊は、強靱な心身こそが何よりの基本と走る機動隊がモットーで、駆足は我が隊の伝統である。新入隊員もひと月たつとまことにたくましくなり、おかげで県警の各種大会で抜群の強さを発揮し、全隊員の団結力、克己心を養う基礎となっている。

多くの問題をかかえながら八〇年代の幕が明けた。都県境に位置し京浜工業地帯と都市化現象の激しい地域のなかで多様、激化する各種警備事案に対処し、県民生活の平穏を願いつつ今日も黙々と訓練が続く。「オス」と明るい挨拶をかわす隊員のはち切れるような元気な姿に、明日にはばたく若鷲への成長を願いつつ、今年も県民のために全力投球を誓うものである。

粘りの越後魂

新潟県警察機動隊長　小黒　利雄

我が新潟県機動隊は、色とりどりのチューリップに囲まれた県都新潟市の郊外に位置しており、そのチューリップを形どった襟章もまぶしく、全国でも屈指の広大な地域を平均年齢二十二歳の隊員を柱とした七六名の陣容で固めている。

日本海の荒波と、厳しいシベリアおろしで鍛えられた強固な意志と忍耐力は、戦国の名将上杉謙信をはじめ数々の名士をはぐくんできたが、我が隊員もこれに負けず劣らずの粒揃いである。

昨年は、全国でも類を見ない柏崎、巻と、二か所の原発闘争警備に旺盛な志気と強い団結力で活躍し事なきを得た。

混沌とした政経情勢の中において八〇年代を迎え、自由と平和、そして明るい社会の実現を目指して決意を新たにしている。

伝統の継承と地力の確立

長野県警察機動隊長　柏原　陽

出動四五六回、救助人員等六〇六名、我が長野県機動隊山岳分隊（山岳遭難救助隊）が北アルプス穂高連峰の夏山に常駐を始めた昭和三十五年以来の記録である。山岳遭難の救助は山国信州に特有の任務である。隊員は、急峻な岩場で、豪雪強風下の雪崩で死と背中合わせの任務を全うするために、善光寺の裏山「謙信物見の岩」で猛訓練を続けて技術を磨き、想像を絶する困難を克服して任務を果たした幾多の業績で、我が国最高の山岳救助隊の評価を確立した。

昨年、地震法により県内三市六町一七村が強化地域に指定されたことから、隊員の増員と機動救助隊の新設が決まり、装備も飛躍的に整備される見通しである。隊は、激動する社会情勢の下にあっていかなる事態に際しても期待に応えられるよう猛訓練で地力を固めていきたい。

不撓不屈の精神力

山梨県警察機動隊長　横内　正重

武田菱のシンボルマークのもと「風林火山」の心意気で、北富士反対闘争等々各種警備活動の先陣をきって活躍している。

これが我が機動隊の姿である。

我が隊は、隊員五誓に…

一　われらは、隊員相互の信頼と団結を信条とする。

一　われらは、隊員として自覚を高め使命感に徹する。

一　われらは、隊員として厳正な規律を保持する。

一　われらは、隊員として英知をかん養し自己啓発に努める。

一　われらは、隊員としていかなるかん難をも甘受する。

と定め、その実践を通じて不撓不屈の精神力と、なにものをも恐れず、強くたくましい隊員の育成に努めている。

八〇年代を迎え、意識の多様化は更に進み、治安的にも由々しき問題の続発が予想されるが、我等はひたすら県民の安全を守り、信頼される警察づくりの先頭に立ち頑張る決意である。

救助活動専門家をめざす

静岡県警察機動隊長　鈴木　義忠

本県は地震・水害などの災害が多く、そのたびに出動して献身的な救助活動に打ち込む我が隊員の姿は、第一線をはじめ多くの県民から大きな信頼を得ている。いかなる現場であっても、敢然と立ち向かっていく旺盛な士気と迅速な行動は我が隊の伝統である。訓練も、強い精神力と強固な団結力を培うよう「訓練で泣き、実戦で笑え」を合言葉に若い体を鍛えている。

日ごろ、県民生活の安全を守ることに生きがいを感じている隊員も、昨年は成田空港・カーター大統領警護等に出動、新たな使命観に燃えて頑張った。

内外情勢は激動し、多くの問題を抱えるなかで新しい年八〇年を迎え、自由と平和な日本を断固守り抜く決意を新たにするとともに、特に東海地震の発生が危惧されているとき、大震災等に備え、隊員一人ひとりが救助活動のエキスパートをめざし、県民に愛され信頼される逞しい力を育てるよう、なお一層訓練に励んでいく。

六花弁のもとに

中部管区機動隊連隊長　吉田　輝夫

〝六花弁〟これは中部管区機動隊の旗印である。全体の円形は隊員の豊かな人間性を、丸みのある六つの花弁は管区内各警察の強い団結と融和を、花弁の橙色は治安維持に燃える隊員の情熱を…。すなわち―気は優しくて力持ち―精強な機動隊であることを象徴している。

隊員は去る昔、鍬を銃に替えて北辺を防備した屯田兵のように、平素は様々な警察活動を通じて県民の生活を守り、また、一旦緩急に備えて在県時、管区学校で治安・災害訓練に汗を流している。その成果は幾多の感謝状がこれを証明している。

人類は八〇年代を迎えた。時勢を的確に摑み、隊の精神基盤を旗印に求め「スマートで目先が効いて几帳面、負けじ魂これが中部の六花弁」を合言葉に、真に県民・国民が治安の維持について頼り甲斐のある桃太郎のような機動隊員の育成に、今年も微力ながら努力したい。

前進する機動隊

富山県警察機動隊長　飴　良三

融和団結・質実剛健・自学自律の精神、これが、我が機動隊の隊訓である。

はるかかなたに、自雪をいただき厳然とそびえる立山連峰を仰ぎ、そこに源を発し富山平野を縦断する常願寺川のほとり、恵まれた環境のもと、朝に夕に隊訓をかみしめながら、治安警備訓練・災害警備訓練、そして柔剣道あるいは拳銃にと、文字どおり極限に挑戦し、心身の錬磨に励んでいる。

昨年は我が機動隊も成田・東京サミットの警備出動で国家治安にも貢献し貴重な体験をしたが、何よりも忘れがたいのは、―水難救助活動中に愛する隊員一名が壮烈な殉職を遂げた―ことである。

我々は、霊前に、より強固でよりたくましい機動隊に前進することを固く誓い合った。

多難な八〇年代を迎え、隊員一同、いよいよ決意を新たにしている。

治にいて　乱を忘れず

石川県警察機動隊長　中村　省三

〝加賀獅子部隊〟我が機動隊のニックネームである。

加賀獅子舞は、樽、太刀等をもって獅子を退治するという全国でもめずらしいもので、加賀百万国の文化と現代に通用する武道精神があり、我が機動隊が武道小隊であるところから、その勇壮活発な獅子舞にあやかってつけた愛称である。

「治にいて乱を忘れず」を隊訓に〝強く、明るく、ただしく〟を合言葉に崇高な使命感に燃え連日猛訓練に励んでいる。

隊員は、県民の期待にこたえ信頼される警察の確立のため、積極的に活動しており、昨年は、県外では成田空港、東京サミット警備に出動、また県内では新年早々七尾火電建設反対闘争警備に出動し警備活動の万全を期した。

七〇年代に引き続き激動が予想される八〇年代を迎え、県民の安全と治安維持のため、我が機動隊は全力を傾注したい。

くろがねの楯めざして

福井県警察機動隊長　早津　賢一

我が隊の隊歌は、「精鋭の花〝くろがねの楯〟機動隊」とうたっている。当隊は文字どおり県警の精鋭部隊として、治安・災害等の警備に「くろがねの楯」としての役割を果たすことをモットーにしている。

このため、〝融和団結、積極果敢、不撓不屈〟を合言葉にして隊員一人ひとりが、日夜体を鍛え、精神力を養い、技術を磨くべく訓練を重ね、出動に備え精進努力している。

昨年は、成田空港警備、原子力発電所反対闘争警備等に十数回出動した。この間、さしたる不法事犯も惹起させることなく、無事任務を果たしている。

八〇年代を迎え、内外の治安情勢は厳しいものがある。特に本県は、原子力発電所九基をかかえ、これに伴う治安情勢は予断を許さない。我が国の治安と県民生活の〝くろがねの楯〟たらんと八〇年代の明日に向け今日も頑張り続けている。

黙々と歩む〝野牛〟たち

岐阜県警察機動機動隊長　村井　弘

民謡で名高い御岳山の突然の噴火は、八〇年代の激動を暗示するかのごとく、不気味な噴煙をたなびかせている。

そんな日本アルプスの魏々たる山々と、そこに源を発し、濃美平野を滔々と流れる木曽三川、この名実ともに山紫水明に富んだ一万平方キロメートルは、他面、地形的にも災害発生の危険性を多分にはらんでいる。

我が機動隊の活動重点も、当然災害警備活動に置かれ、五五人の〝野牛〟（我が隊のニックネーム）たちは、日夜訓練に励んでいる。

その一歩一歩は遅く決して目立つ存在ではないが〝野牛〟は時には〝鉄牛〟ともなる覚悟で一誠実」「忍耐」「団結」を旗印に、「県民の安全で平穏な生活の確保」のため、一団となって〝飛山濃水〟をただ黙々として歩みつづける。

精強かつ〝学〟の異名

愛知県警察機動隊長　鈴木　桂一

我が隊舎は、徳川御三家縁の居城、名古屋城の北東に隣取る。昔は住宅街の一角に一際高くそびえたっていた我が隊舎も、今では高層住宅の影に潜む。

隊発足以来「精強な機動隊」を信条に、厳しい訓練を積み重ね、強固な団結力と強い精神力を養い幾多の難事を乗り越えてきた輝かしい伝統を持つ。

昇任試験合格率は県警随一。〝学の機動隊〟と異名を誇る。

治安、災害警備の豪勇隊員達も、昨年はかつて経験のない天皇皇后両陛下の行幸啓（全国植樹祭）警衛警備に従事、いつしか紳士隊員に早変わり、何でもできる機動隊員としての自信と、新たな使命感に燃えた。

政治、経済の激動や、各種治安事象の多発が予測される八〇年代を迎えるに当たり、更に厳しい訓練を積み重ね、時代に対応できる機動隊を育成して、県民の信頼を勝ちとり大愛知建設の一翼を担いたい。

本旨に徹する

三重県警察機動隊長　大西　幸仁

昭和二十九年「特設機動隊」が創設され、その後幾多の変遷を経て、昭和五十一年に管区機動隊を吸収し、三個小隊一一五名の新しい機動隊が誕生、現在に至っている。

我が機動隊は、県花「伊勢しょうぶ」に「機」と印した隊員章を胸につけた、平均年齢二十五歳の精強な若者の集団である。

県内外の重要事案の警備出動に耐え抜いた貴重な教訓・経験を生かし、

「命令一下、直ちに事態を処理できる部隊」

これこそ我が機動隊の生命である。

激動の八〇年代を迎え、複雑多岐にわたる警察事象に対応し集団警備力の強化育成に努め、全隊員の厳しく旺盛な志気のもと、警備活動はもとより刑事交通及び防犯警察等の多面的な活動を効率的に推進していきたい。

一層の精進を

近畿管区機動隊連隊長　泉　十一郎

部屋の窓ガラスが、校庭を駈けめぐる管機隊員の喚声にビリビリとふるえている。

現在、成田空港警備と、静岡県下田市におけるカーター米国大統領警護警備を経験して、多少とも警備実施が分かりかけた管機隊員を、なお一層鍛えるため合同訓練の真最中である。

当隊の合同訓練は、完全装備大楯携行での六キロ駈け足を中心に、その厳しさは広く定評のあるところであって、歴代の隊員は、訓練に耐え得るかの不安を抱いて入校し、連日校庭で涙と汗を流し、そして大いなる自信と満足感に胸をふくらませて帰県していくのである。

さて、八〇年代の国内外の情勢は、流動的かつ不安定な状態で推移し、国内治安面でも極めて厳しい情勢が予想される。

鍛えぬかれた精強な管区機動隊の連設こそが、国民の負託に応え得る道であることを銘記し一層の精進に努めたい。

伝統に輝く湖国の新撰組

滋賀県警察機動隊長　桶井　信一

〝弁慶部隊〟我が隊のニックネーム―隊員は、少数ではあるが精鋭ぞろいの精強部隊である。

士気、警備力も抜群、執行力のある隊員は、全員が柔剣道あるいは拳銃のエキスパート。各種競技大会に完勝、優勝旗を林立させ強さを誇っている。

各機能別部隊の編成では、隊員のほとんどが一人数役を兼ね、どのような事案にも全員が対処できる技能を備えているのも我が隊の自慢でもある。

日夜、県民の生活の安全を守り抜くことに生きがいを感じている隊員たちだが、とりわけ昨年は、成田空港、東京サミットと国の重大な警備活動に参加、重責の一担を果たしたことは、終生忘れられない喜びである。

新しい年、八〇年を迎え、決意を新たに県民に愛され、信頼される、たくましい力を備えた機動隊たるよう精進する。

名物「新隊員訓練」

京都府警察機動隊長　山崎　秀人

機動隊へ配置になった翌日から始まる一か月間の厳しい新隊員訓練は、まさに機動隊員になるための洗礼といえる。デモ規制要領遊撃部隊活動要領等の訓練に次ぐ訓練、かけ足、サーキット、レインジャーで自己の体力と気力の限界に挑戦し、夜は飯ものどへ通らずただただ寝るだけという血と汗と涙の毎日。この新隊員訓練も野外訓練で頂点に達する。目もくらむ絶壁をロープ一本頼りに降下したときの「やった」という感激は一生忘れられない思い出であり、やればできるという自信と極限を乗り越えた者だけが持つゆとりを感じさせる。こうして一人前の隊員に育てるのが京都名物「新隊員訓練」である。

過去幾度となく各府県機・管機の応援をいただいた京都。八〇年代はますます各府県機・管機の連帯強化の年になろう。そのときこそ、京都名物「八ッ橋」ならぬ「新隊員訓練」で鍛えた隊員をひきつれて、まっさきにかけつけますぞ。

精強にして執行力ある

大阪府警察第一機動隊長　植芝　勇

山脈（やまなみ）青い信貴、生駒の連峰と豊かに流れる淀川のほとり、歴史も古き浪華津の関目に精強を誇る我が第一機動隊がある。

正義にもゆる精鋭は、警備訓練をはじめ柔、剣道、ラグビー、サッカー、陸上、重量挙げにと全隊員が連日苦闘にいどみ、若さあふれるエネルギーを爆発させ、心を鍛え、技を錬り府民の平穏な生活の確保と社会正義実現のため、ベストをつくしている。

昨年は、三菱銀行人質事件、成田空港及び東京サミット等重要事件や警備に出動し、重責を果たすことができた。

いよいよ昭和五十五年の新春を迎え、経済都市大阪では、関西新国際空港の建設問題がクローズアップされ、絶対第二の成田にはさせないという固い決意のもと、我が第一機動隊は精進を重ね有事即応の体制を確立し、ベストをつくし、ますます府民の信頼を高める覚悟である。

闘魂

大阪府警察第二機動隊長　庄　孝

〝隼〟……我が機動隊のシンボルマークである。機をみるに敏、事にのぞみて勇猛果敢……象徴たる所以である。

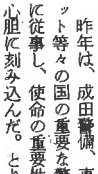
歴史も深き住之江の地に創設来、勇健破邪の若人達は、執行力のある精強機動隊をめざして訓練、武道、勉学にと切磋琢磨日夜涙と汗にまみれている。

昨年は、成田警備、東京サミット等々の国の重要な警備活動に従事し、使命の重要性を深く心胆に刻み込んだ。とりわけ、市民生活を震撼させた三菱銀行人質事件は、今なお脳裏に焼きついている。身命を賭した厳しい眼差し、ほとばしる情熱……二機健児の不屈の闘志に感涙したことを昨日のように思う。

新しき年八〇年代を迎え、国内外の諸情勢はいぜん混迷の様相を呈し、激動と変化への対応には心せねばなるまい。社会の安寧と秩序の維持を念じ、隼の二機は決意も新たに〝なにわ〟の空を睥睨する。

正々の旗　堂々の陣

兵庫県警察機動隊長　中尾　一延



我が隊は、大楠公ゆかりの地で有名な湊川の古戦場の近くにある。大楠公が多くの人の敬仰の的となったのは、道義のみだれきった時代に、正々の旗をかかげとおし、最後までますらおの節義をつらぬいたその心意気にあると思う。しかも寡少の軍

勢をもって堂々の陣を張り、ウンカのごとき敵の大軍に立ちむかい、全軍壮烈な戦死を遂げ、大義に殉じたのである。

ところで我が隊の念願とするところは、大楠公の軍旗と伝えられる「非理法権天」のごとく、正々の旗をかかげ、活気ある隊風の確立と、練度の向上に努め、堂々の強靱な部隊をもって、その使命を貫徹することである。

今八〇年代の初頭に当たり、二二六名隊員一人ひとりの精気みなぎる勇姿を思い浮かべるとき、我が隊の正々の旗ゆるぎなく、堂々の陣ますます堅固なりと自負するとともに、たのもしく思う。

勇気　聰明　明朗

奈良県警察機動隊長　中久保末造

腕章のあざやかな三本の白線にとめられた目標に向かって厳しい訓練に、勉学に意欲的な毎日を送る隊員。

県民は、県機を「伐折羅部隊」と呼んで親しみを寄せる。それは、当隊が新薬師寺に坐す薬師如来坐像を守護する国宝一二神像の内伐折羅大将像をシンボルマークとしていることに由来する。煩悩や外からの魔神を降服させ破壊する力を持つといわれるこの神の表情はすべての罪悪を許さじとする厳しさにあふれ、その姿は怒髪天を突いて力に満ち、まさに当隊員そのもの。

この厳しさの中にありながら、当隊の行うレクリエーションには多くの市民が参加し、なかでも「餅つき大会」は名物行事として市民の中に定着している。当隊員が心豊かな人間性あふれた若者であることを知っていただけよう。

八〇年代を迎え、治安の砦としてますます重要な存在であることを知っている我々は、全員「伐折羅」であることを誓う。

笑って苦難にあたる

和歌山県警察機動隊長　原武雄

紺碧の大空に聳え立つ御三家紀州の伏虎城を仰ぎつつ、標題をモットーとして、汗と泥で鍛えぬいた根性の四〇人衆、これが我が頼もしき機動隊である。

昨年は、成田空港警備、米大統領警護と、度重なる警備実施に参加、県内では過激派による原発建設反対闘争の警備、あいつぐ暴力団抗争や凶悪化した暴走族等の封圧、拳銃所持のモーテル客人質事件を特殊部隊決死の突入で解決等、日ごろ練磨の腕をフルに発揮することができ、隊の士気はますます軒昂である。

新たなる八〇年代を迎え、国の前途を展望するとき、まことに厳しいものがあるが、「我に百練の機動隊あり」とニコニコして対応できるように、十二分の力と自信をつけ、県民の負託に応えようと決意を新たにしている次第である。

五枚の大楯

中国管区機動隊大隊長　西村寿栄男

我が隊は、中国五県の連合編成である。創設十周年を記念して授与された隊旗に躍動する五枚の大楯は、戦国の雄毛利元就の「三矢の訓」になぞらえたものと聞く。まさに我が管機隊団結のシンボルである。

昨年は、東京サミット、成田空港と長駆警備治安の第一線に馳せ参じ、積極果敢、任務に邁進したことが何より大きな心の支えである。

隊員は、各県選り抜きの精鋭であり、前後期の合同警備訓練では、術科に、学科に切磋琢磨、成果を競うダイヤモンドである。

内外ともに激動と変化が予想される八〇年代において治安の砦である機動隊の任務は重い!!「殿和団結」と「実戦的訓練」を合言葉として「いかなる事象にも対応できる精鋭部隊」を目標に訓練に汗を流そう。国のそして郷土の治安を護るために!

大黒さまに学びつつ

鳥取県警察機動隊長　桑名勇

「大きな袋を肩にかけ大黒さまは……」神話で名高い自兎海岸に近い松林の中に我が隊舎がある。

東西にのびる日本海岸を控え水にはめっぽう強い隊員が揃っているほか、鳥取砂丘等観光地の名ガイドができる者も多い。

隊長以下二七名で分隊長以下は全員柔剣道の特別訓練員により編成されている。

正信破邪

島根県警察機動隊長　矢富彦二郎

出雲、石見、隠岐の三国よりなりたつ島根、出雲神話と古代文化発祥の地。素朴で粘り強い県民性は、そのまま隊のカラー。少数ながらいずれ劣らぬ精鋭ぞろい。因みに七〇年代最後の年、管区内警察柔剣道大会において、剣道二連覇、柔道準優勝の戦績を収めた。

隊舎に掲げる扁額に「正信破邪」とあるが、破邪顕正のためには「千万人といえども我往かん」の気概をもつ外柔内剛のサムライ集団。

朝陽に映ゆる千鳥城を東に仰ぎ、夕七彩の雲棚引く宍道湖水を西の方に望む、風光明媚なる水都の一角こそ黒田の砦に集う二六勇士の意気は軒昂。

武士の守り本尊、摩利支天をまつる森の黛、松籟耳にひびきて熱血たぎる。

八〇年代の幕明け、明るい日本の社会を守る決意も新たに、県民とともにある警察活動具現のため着実な前進を続けたい。

和と団結をモットーに

岡山県警察機動隊長　末井儀一

岡山市の北部、県総合グランドの一角に二千平方メートルの敷地を持つ恵まれた環境で、「和と団結」をモットーに励んでいる。「東の成田」に対し「西の日本原」といわれる自衛隊の基地を持つ我が隊の訓練は熾烈で、広大な隊庭は数多くの若者の汗と涙がにじんでいる。

我が隊の自慢の一つに「憩いの森」がある。手造りの池でゆうゆう泳ぐ錦鯉や、サミット警備を記念して隊員が作った「小鳥の森」では、小鳥達がさえずり、隊員を楽しませている。

激動と変化の八〇年代を迎え県警察の中核として厳しい訓練に耐え、より強く精神力を培い更に一層の飛躍をめざして隊員と共に頑張りたい。

ファイトなき者は去れ

広島県警察機動隊長　出廣秀夫

我が機動隊は、毛利元就の〝三矢の訓〟になぞらえ、大楯三枚で一致団結を表した隊旗のもと、総勢八九人の隊員が集う、若さ溢れる男の職場である。

集団警備力の最後の砦として、揺ぎなき信頼をかち得るため〝ファイトなき者は去れ〟を合言葉に、猛訓練で気力・体力を養い、治安・災害警備はもとより、暴走族の取り締まり、……など、ほとばしる若さと使命感のもと、日夜活動する隊員の姿は頼もしい。

不確実時代といわれる八〇年代。行く手には、想像もできない事案が待ち受けているものと思われる。

我が機動隊は、県民の自由と平和な生活を守り、治安維持の精鋭なブロ集団となるべく、努力を続ける。

信強　和の誓いも固く

山口県警察機動隊長　藤井一吉

〝力の県機〟と呼ばれる我が隊は、文武に優れた隊員を擁し、昇任試験合格率の高さを誇り、各種術科に優秀な成績を残し、また各種警備実施には、力を遺憾なく発揮してきた。

これは、毎日毎日、信、強、和の誓いも固く、勉学に訓練に励んできた結果である。

八〇年代の早い時期に、現在に四倍する新隊舎が完成する。指標なき八〇年代も、警察の中核部隊として、心・技・体・を十二分に鍛え、スーパーマンの隊員をつくり、練度をより高め、部内外から、より一層頼りにされる山口県警察機動隊にしていきたいと思っている。

我々には、幕末明治維新という激動期に、〝奇兵隊〟という機動的組織をつくり、回天の大偉業を成し遂げた先人の血が流れており、昭和の激動をも、これを乗りきる覚悟でいる。

限界に挑戦

四国管区機動隊大隊副官　香西忠

我が隊は、「勇気」「愛情」「真実」の隊訓のもとに〝青い国・四国〟四県警の精鋭で組織され、小世帯の由をもって警備現場で小回りのきくことこのうえなく、隊員は全て柔剣道ともに有段者であるなど部隊としての士気、機能は極めて良い。

訓練では、〝限界に挑戦〟の合言葉で、森の石松代参で有名な金比羅さんを出発点とする、道なき山野九キロの「大麻山縦走」野戦を想定した昼夜にわたる「山岳ゲリラ訓練」など普通寺市内四国管区学校で汗と泥にまみれ「山椒は小粒でも……」の部隊づくりに励んでいる。

八〇年代は、不透明の時代と評され、成田闘争を中心に極左、極右のはね上がりなど治安的にも混迷の度合を深めよう。

我が隊では、隊員一人ひとりが法と秩序を維持し、社会正義を実現するとの自覚のもと、血のにじむ実践的訓練を行い、もって国民の期待と信頼にこたえる。

新生機動隊の意気高く

徳島県警察機動隊長　後藤八十一

我が隊は、従来の県機動隊と管区機動隊を統合し、警備部機動隊として、昨春産声をあげた新生の機動隊である。

小人数の隊であるが、『小数精鋭主義』をモットーに、隊員一人ひとりが本来の任務である警備実施はもとより、高度の熟練を要する各種特殊任務の完遂をめざして、〝鉄の団結〟のもと日夜訓練に励み、『一騎当千』の若武者集団づくりに邁進している。

昨年は、成田空港警備、東京サミット警備という七〇年代警備の締めくくりともいえる歴史的な警備に参画の機会を得、隊員一同大いなる誇りとともに、生涯忘れ得ぬ貴重な経験を積んだ。

本年から始まる八〇年代は、不透明の時代と喧伝され、治安的にも予測しがたい困難な事態が幾多生起すると考えられるが、我々はただひたすら〝国民の平和と安全〟を願い、職責完遂の使命感に燃えて、前進あるのみである。

和明強

四国管区機動隊大隊長兼香川県警察機動隊長　三野隆義

我が隊は、四国の玄関高松市の中心街からやや西に寄った清流香東川の河口にあり、海と山に接した風光明媚にして訓練に最適な位置にある。

「和明強」は、我が隊訓であるが、隊員は殆んどの者が柔剣道、拳銃の県代表選手であり、気力、体力ともに抜群である。

日々隊訓「和明強」の質的向上をめざし、海岸を、紫雲山麓を、隊庭を鍛練の場とし、いかなる困難な事態ありとも動ぜず、任務を遂げ得る精強な部隊作りに励んでいる。

八〇年代は不透明の時代ともいわれる。成田二期工事をはじめ、原発問題、極左の動向等厳しい警備情勢をふまえ、今後とも警備実施は全国各地でひん発するものと考えられる。

国民、県民の期待に応えるため、我々機動隊員は、さらに練度を高め、事に当たっては、精鋭部隊の名に恥じない足跡をしるしたい。

誠実　根性　融和

愛媛県警察機動隊長　梶田省一

我が隊は、昔一五万石の〝松山城〟の城下に鎮坐している。狭いながらも独立隊舎に、柔剣道・特科の第一機動隊と警備専

門の管区機動隊が合同常駐し、その団結力は強く、士気は極め旺盛である。

隊員は、平均二十六歳の元気者揃い。隊訓「誠実・根性・融和」を心にきざみ、職務に情熱を燃やし、日夜厳しい訓練に精励。今日まで、県内外の警備出動で精強な力を発揮したほか、山岳遭難救助、水難救助活動にも出動して県民の信頼を得ている。

激動の八〇年代を迎え、治安維持の最後の砦として機動隊の責務の一層重大となることを自覚し、平和な日本、明るい郷土を守るために、一丸となって頑張ろうと、隊員と共に誓い合っている。

実力行使のプロを目ざす

高知県警察機動隊長　川田　健男

南国土佐は台風常襲県。これまで繁忙災害をはじめ多くの災害が発生し、我が機動隊は、災害警備活動の尖兵として活躍してきた。まさにプロ集団としての面目これにつきるものがある。

ひるがえって、県内の特異重要事件における我が機動隊の役割をみた場合、「実力行使のプロ」としてよりも「制服部隊の一戦力」としての使われ方が圧倒的に多く、いかにも物足りなく、かつ残念である。

我がローカル機動隊が、成田警備、サミット警備等を通じて他県機動隊から学んだものは実に大きく多岐にわたるが、集約すると「機動隊ならでは」の分野を広げ、かつそれを立派にやりとげることにつきる。

困難かつ危険を伴う現場作業が、ごく当然のこととして機動隊に下命されること、また、そのために日夜実力を養うこと、これが当面の私の目標であり抱負でもある。

"九"の旗の下に

九州管区機動隊連隊長　大熊　豊

"九の旗"それは我が連隊旗である。九州管区機動隊創設十周年を機会に、"九州"の"九"を、力強くデザイン化した連隊旗が完成した。燃える大阿蘇のごとく、強く、明るい男達の団結の象徴である。九州の精鋭は"九"の旗の下、汗と、埃にまみれて、より強く、より逞しくをめざして、日夜訓練に励んでいる。九州の精強部隊として、東京サミット警備、成田空港警備、日教組大会警備等に参加し、完璧にその任務を遂行した。一九八〇年は、激動する"八〇年代"の序幕である。国内外共に、政治的、経済的な不安要素が累積している。新年を迎えるに当たって、我々は、八〇年代の情勢を明確には握するとともに、その中における自らの任務を強く自覚し、国民の信頼と期待に応えるため、より精強部隊をめざして頑張る決意である。

打って一丸　精強一機

福岡県警察第一機動隊長　山下　和幸

当隊は"強く、賢く明るく"を隊訓とし、黒田藩五二万石で有名な筑前今様に歌われている"黒田武士"を隊のシンボルマークに一致団結、治安確保のプロとして使命感、熱血漢に燃え、士気盛んである。

昨年は、福岡市で開かれた日教組定期大会の警備や皇太子同妃殿下の警衛であるために機動隊の"剛"柔"両端をのぞかせ、県民の賞賛を得た。その他各種警察活動において、打って一丸精強一機の名を高めた。また、年末ともなれば、機動隊員の年末特別警戒集団警らに対し、市民からは親しみをこめて「金太郎部隊」――つまり、やさしくて力持ちの集団――と仇名されるなど親しまれ、信頼され、愛される機動隊でもある。

千変万化する八〇年代の新年を迎えるに当たり、治安確保の最後の砦として、その責務の重大性を自覚し、国民の要望と期待に応える決意である。

強く正しく　積極果敢に

福岡県警察第二機動隊長　古賀　勉

県機に昇格独立して満三年。「情熱、剛健、協和」を隊訓に、同志的団結を強化し、心技体を練磨、強く、正しく、積極果敢に使命を遂行してきた。

我が隊の歴史は浅いが、入魂の隊風と伝統の基礎を礎き、マグマのごとく燃える闘魂とガッツを兼備した隆盛飛躍の部隊である。

昨年は、日教組定期大会警備や皇太子、同妃殿下の警衛、東京サミットや成田闘争に呼応した重防警備、九名の人命救助に成功した災害警備等使命を果たし、県民の期待にこたえた。

更に、柔剣道、逮捕術県大会で初の完全制覇の念願を果たし、「精強二機」の名を高めた。激動の転換期八〇年代幕明けの新年を迎え、厳しく困難な治安情勢を洞察、重大な責務を自覚し、初心に徹し、新しい決意で献身努力する。

誇る融和団結

長崎県警察機動隊長　坂田　利昭

"走る機動隊"――我が隊のニックネームである。

柔、剣道や警備実施についても一番大事なことは足腰を日ごろから鍛えることだ。毎朝のサーキットトレーニングの結果からつけられた愛称だが、耐久力、粘り強さ、己に勝つ根性を植えつけるには"走る"ことが一番。昨年は"力の機動隊"に加えて"学の機動隊"の名声をとどろかした。各級昇任試験に大量の合格者を出したからだ。融和団結の隊訓のもと士気、団結、警備力は抜群。日夜、県民のために頼もしい活躍を続けている。

激動の新しい年――八〇年代を迎え、自由と平和そして明るい県民生活を断固守り抜く決意を新たにするとともに、文武両道に秀れた機動隊、県民とともにある機動隊、強靱な機動隊、走る機動隊づくりにがんばっていきたいと思う。

"鍛"を目標に

佐賀県警察機動隊長　江頭　漳

県機、管機二個小隊の精鋭が集う我が機動隊は、佐賀藩（鍋島家）の家紋「杏葉（ぎょうよう）」をシンボルマークにする。「杏葉」に象徴される「葉隠武士」、特にその精強さに対する憧憬と、藩に伝わる武士道の秘本「葉隠」の教えに現代的意義を認めたからにほかならない。

昨年は、新東京国際空港、東京サミット、原子力船「むつ」等歴史に残る重大警備を経験し、部隊の士気、練度とも飛躍的に向上した。新たに潜水班を加えた機能別部隊、なかんずく、潜水、レインジャー、レスキュー各班は、三分以内に出動、十分に機能し得るまでに成長した。

「葉隠」の一節に、「千日の稽古を"鍛"といい、万日の稽古を"錬"という。」とある。平均在隊年数二年余、"錬"には遠く及ばないが、激動と混迷の八〇年代の治安の全きを期するため、"鍛"を目標に、日夜訓練に励んでいる。

阿蘇の如く勇壮雄大に

熊本県警察機動隊長　堀江　一之

「情熱」「友情」「純潔」と「忍」「静」を隊魂に日夜、訓練に、出動に生きがいを求めながら心身を鍛えている。訓練は、基礎訓練と機能別訓練を中心に、徹底して反覆実施し効果を上げている。

勉学意欲も旺盛で昨年は昇任試験合格率全国一位三〇・四パーセントとなり大いに気をはいた。今後も縦然として独露し白雲の間に今なお火を噴く大阿蘇の如き勇壮雄大な部隊作りをめざしたい。

強く明るい機動隊

大分県警察機動隊長　中和田　谷

我が隊のモットーは「強く明るくやさしい機動隊」である。隊員数は三八名という小規模隊ではあるが、文字通り県警察の中核部隊としてデモ警備をはじめ暴走族の取締りに、水中捜索等のアクアラング、災害救助等等フル回転の状況にある。これは、平均年齢二十五歳という警察社会では低年齢層に属する彼等が底抜けに明るく連帯を尊び、しかも平素の血のにじむ訓練による何事にもくじけぬ不屈の精神力を兼ね備えているからであると思う。

いよいよ世は八〇年代に入り国内外の情勢は厳しく、いきおい治安の維持に当たる警察の責務は複雑多岐になるであろう。それだけに我々の任務も更に過酷なものになるであろうが、それだけに使命の重大性をよく認識し、より連帯を強め、いかなる事態に対処しても微動だにしない機動隊の育成に本年も引きつづき全力を傾注していくことが私の抱負である。

新たな感覚と強い使命感

宮崎県警察機動隊長　井野　元繁

精鋭二四名――この人数で、警備、アクアラング、レインジャー、柔、剣道等々、ひとり数役をこなし、数百名分の実力を有するエリート集団。これが、我が宮崎県警機動隊である。

特に昨年は、第三四回国民体育大会（夏、秋）と第一五回全国身障者スポーツ大会において、行幸啓警備をはじめ主会場の厳害警備等一生涯一度の使命感に燃え、無事大任を果たした誇りでいっぱいである。

政治・社会の大きなウネリと経済の急変動という動と試練の七〇年代は終わった。今日から、更に厳しいであろう八〇年代である。しかし、「いかなる流れの中でも、本隊の使命と戦略は不変」である。

年頭に当たり我々は、八〇年代を輝かしき歴史の一ページとして残すよう新たな感覚と強い使命感で対応することを誓う。

なにものにも動じない

鹿児島県警察機動隊長　万膳　兼重

左に桜花、右に燃える桜島の襟章をつけた我が隊員は、いずれも柔剣道の猛者ぞろい。

その実力は、昭和四十九年三月、東燃CTS計画に反対する七〇〇余名が、賛成派集会へ押しかけてくるのを、橋上でわずか二個分隊、楯のみで防あつし、流血の惨事を防止した輝かしい戦歴を持つなど、薩摩隼人の根性を持ち、県民生活の安全と平和を守る警備活動に、誇りと情熱を燃やしている。

さて、八〇年代の県内警備情勢を展望すれば、激動と混迷のなか、川内原発等各種の大規模反対闘争や、台風銀座下の警備活動が予想されるので、なにものにも動じない、強靱にして精強な部隊活動と、機能別体制をより充実し、真に県民の期待と信頼にこたえることである。

このため、一人ひとりの隊員が、団結と誠実をモットーに、より信頼される機動隊への前進を目指している。

精強さとスマートさ

沖縄県警察機動隊長　川平　勝彦

"シーサー"（沖縄の伝説の獅子で守り神）は、我が機動隊のシンボルマークである。

楯に描かれたシーサーのように剛健で勇敢でありたいと念じつつ、また、シーサーのように身を楯にしても県民の平穏な生活を守るんだという強い使命感に燃えたつわものぞろいである。

過去幾多の試練に堪え、培われた実力と自信、そして誇りは、たゆまぬ訓練によって伝統として受けつがれ、士気ますます軒昂である。

南北に連なる日本列島最南端の鎮台として、柔剣道の有段者の中から選ばれた二百有余の若き防人は、若獅子のように精強でスマートな機動隊をモットーに毎日訓練に汗を流している。

八〇年代を迎え、治安維持の礎として自由と平和を守り、県民から信頼される力強い警察の確立を期して邁進したい。

会員の広場

石油・昔と今と

藤田　文雄

若槻　日米戦争ヲ主唱スル論ト所謂ツリ貧論ヲ屢々聞クガ、コレ程危険ナ話ハナイ、将シテ戦争シタナラバ、ドウ言ウ事ニナルカ、余程検討ヲ要スル原（枢府議長）　石油問題ガドウモ中心ト思ハレルガ、海軍ノ油ノ事ハ二年位アルト言ウ様ニ、聞カサレテ居ルガ　陸軍ハ将シテドノ位ノ準備ヲ持ッテ居ルカ聞キタイ

（誰モ十分ノ説明スルモノナシ）

岡田　結局油ノ問題ハ色々ト煎ジ詰メテモ結局、結論ハ得ラレマイ

阿部　急進ノ論ナナス人モ、又引張ッテ外交交渉ヲ希望スル人モ　気持ハ同ジデ　要スルニ油ト言ウ事ナノダガ　首相ハドコ迄追求シタダラウカ

これは、防衛庁の防衛研修所の戦史部が本年九月発刊した、大東亜戦争の公刊戦史第一〇一巻目（第一巻は昭和四十一年でした）の大本営海軍部大東亜戦争開戦経緯(2)に掲げられていたものです。

昭和十六年十月十七日、宮中の西溜（ママ）の間という所で、行われた重臣会議の模様を、木戸内大臣が手記にまとめ、それを写しとった嶋田海軍大臣の備忘録にあったものだそうですが、大東亜戦争のはじまった十二月八日の五十二日前、未だ日本の迷っていたことがよくわかります。若槻、岡田（海軍大将）、阿部（陸軍大将）の三人は共にかつて総理大臣であった人達です。尚この年の八月一日アメリカは、日本への石油の輸出を禁止しています。

それから三十八年たった今年、イランはアメリカへの石油の輸出を禁止しました。消費量の五〇パーセントを自給し、更にイランからの輸入量が全消費量の四パーセントにしか当たらないアメリカの今回の対応策をみると、当時の日本の追い込まれた様子が目に浮かんでくるではありませんか。

ところで、原油の価額はこの十年間で、ざっと一一倍になりました。アメリカの石炭液化が商業生産に成功するまでは、これから先も上り続けるだろうといわれております。

今年からはじまる、いわゆる八〇年代は、かつて、薪、木炭、亜炭、石炭、練炭等といったものから、石油へ転換していったのとは逆に、それらにもどっていくこと、そして太陽熱利用のソーラーシステムや、あらためて、寒さに耐える体力をといったような時代であろうと、覚悟をきめている昨今です。

教育勅語

岩崎　友明

中年以上の方々は、多かれ少なかれうる覚えていられるだろうが、明治天皇の教育勅語の全文を思い出してみよう。これは何も、軍歌やスパルタ時代を懐古するためでなく、この勅語には、現代社会に通用する指針が、見事に網羅されていることを知っていただきたいためである。

朕惟フニ、我カ皇祖皇宗、国ヲ肇ムルコト宏遠ニ、徳ヲ樹ツルコト深厚ナリ。

我カ臣民、克ク忠ニ、克ク孝ニ、億兆心ヲ一ニシテ、世々厥ノ美ヲ済セルハ、此レ我カ国体ノ精華ニシテ、教育ノ淵源亦実ニ此ニ存ス。

爾臣民、父母ニ孝ニ、兄弟ニ友ニ、夫婦相和シ、朋友相信シ、恭倹己レヲ持シ、博愛衆ニ及ホシ、学ヲ修メ、業ヲ習ヒ、以テ智能ヲ啓発シ、徳器ヲ成就シ、進テ公益ヲ広メ、世務ヲ開キ、常ニ国憲ヲ重シ、国法ニ遵ヒ、一旦緩急アレハ、義勇公ニ奉シ、以テ天壌無窮ノ皇運ヲ扶翼スヘシ、是ノ如キハ、独リ朕カ忠良ノ臣民タルノミナラス、又以テ爾祖先ノ遺風ヲ顕彰スルニ足ラン。

斯ノ道ハ実ニ我カ皇祖皇宗ノ遺訓ニシテ、子孫臣民ノ倶ニ遵守スヘキ所、之ヲ古今ニ通シテ謬ラス、之ヲ中外ニ施シテ悖ラス、朕爾臣民ト倶ニ、拳々服膺シテ、威其徳ヲ一ニセンコトヲ庶幾フ

明治二十三年十月三十日

御名御璽

さて、そうはいっても、これは今では実に難解な文章になってしまったし、活字があるかどうか心配なくらいである。若い方々には、パズルを解くより難しいに違いない。そのため、国民道徳協会による訳文があるので御紹介しよう。この訳文がまた、実によくできている。

『私は、私達の祖先が、遠大な理想のもとに、道義国家の実現をめざして、日本の国をおはじめになったものと信じます。そして、国民は忠孝両全の道を完努力して、全国民が心を合わせて美事な成果をあげて参りましたことは、もとより日本のすぐれた国柄の賜物といわねばなりませんが、私は教育の根本もまた、道義立国の達成にあると信じます。

国民の皆さんは、子は親に孝養をつくし、兄弟、姉妹はたがいに力を合わせて助け合い、夫婦は仲むつまじく解け合い、友人は胸襟を開いて信じあい、そして自分の言動をつつしみ、すべての人に愛の手をさしのべ、学問を怠らず、職業に専念し、知識を養い、人格をみがき、さらに進んで、社会公共のために貢献し、また法律や、秩序を守ること、は勿論のこと、非常事態の発生の場合は、真心を捧げて、国の平和と、安全に奉仕しなければなりません。そして、これらのことは、善良な国民としての当然のつとめであるばかりでなく、また、私達の祖先が、今日まで身をもって示し残された伝統的美風を、更にいっそう明らかにすることでもあります。

このような国民の歩むべき道は、祖先の教訓として、私達子孫の守らなければならないところであると共に、このおしえは、昔も今も変らぬ正しい道であり、また日本ばかりでなく、外国で行っても、まちがいのない道でありますから、私もまた国民の皆さんとともに、父祖の教えを胸に抱いて、立派な日本人となるように、心から念願するものであります。』

お読みになって、どうだろうか。この立派な内容に、アナクロニズムとして非難されるいわれがあるだろうか。

戦後の被占領期間に、この教育勅語は、われわれの眼の前から持ち去られたが、それとともに、われわれは、この勅語にある人間として当然の基本観念まで失ってはいないだろうか。

われわれに自由を教えたアメリカでは、親は子供の社会道徳教育に熱心だし、子供は毎朝、国旗に向かって敬礼する。自由主義国家において、それが自由を保証するからだ。

引用部分のみ多くなってしまったが、あまり余計な注釈はつけないほうがいいだろう。傍点のところは、機動隊員等を励ます会の会員として、とくに私が強調したいことである。

蔵のある町

東京・SY

年の瀬もせまったある日、急用があって会津へ出張した。言うまでもなく慌しい旅であったが、この地方の商都である喜多方で小休止の機会を得た。

暖冬異変のためか、この地も暮れの東北とは思えない暖かさ。それでも空はどんよりと曇って北国の冬をしのばせるものがあった。

仕事をはなれると旅は良いもの。思いもかけない風物や人情に接して身も心も洗われる。喜多方市での旅の小休止もそのような旅の一コマであり、日常考えもしなかったことを、いろいろ考えさせられた。

最近、喜多方は東北の倉敷と呼ばれ若い女性のロマンをかきたてているとかで、そういわれて見ると休日でもないのに観光客らしい若々しい女性の姿が目につく。

この街に住む写真家が開いた郷土個展がキッカケとなって、東北の蔵の街としてテレビや雑誌に紹介され観光ブームを呼びつつあるそうだ。

街の中心地から山ふところにいたるまで、白亜、黒漆喰、あるいは煉瓦造りの蔵…蔵…。市内に二千棟以上が散在しているそうだ。

しかも、この無数の蔵が人々の生活を守って、あの厳しい北国の風雪に耐えてきたことに大きな感銘を受ける。

聞くところによると喜多方は明治十三年、大火に見舞われ、その際、土蔵の耐火性が実証された。その貴重な経験から、住民はきそって、蔵を建てたとか。

会津盆地を囲む山脈の目に滲みる雪の白さを車窓に、喜多方を後にしたが、あの街角でふと出逢った白い蔵、黒い蔵の美しさが、今も忘れられない。何故だろうか？

厳しい北国の自然と静かに対決し、人々の生命や財産を守りぬいてきた蔵の姿から、ふと目を機動隊の若き人達のキビキビした出動姿に転じるとき、私なりにその結論を見いだす。

いま、生きている人々とその社会を破壊から守り、明日へ確実に手渡す……。かけがえもなく、雄々しく美しい。

事務局からのお知らせ

明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしく。

☆　☆　☆

来月の行事予定は次のとおりです。会員多数のご参加をお願いします。

九州支部総会

日時　二月六日(水)午後三時より

会場　スカイ・パレス

福岡市博多区博多駅前3－2－8　住友生命ビル13階

TEL〇九二－四五一－〇五九一

鎮めの先駆
本年も頑張って下さい

大内俊司
東鋼業㈱
奥村武正
村山文雄
高周波熱錬㈱
株式会社三榮商会
小川運輸㈱
鈴木實
豊国興産㈱
㈱周東商会
津田鋼材㈱
岡部㈱
大洋製鋼㈱
谷本隆夫
石原幸男
木村利秋
橋山和正
浅田弥三郎
廣慶太郎
市原澤次
竹之上芳美
高島浩一
西野公庸

治安の花

川淵長一
東海レベラー鋼業㈱
中京製線㈱
東海鋼材工業㈱
西尾邦彦
宮崎精鋼㈱
丸定産業㈱
明鋼材㈱
伊勢湾海運㈱
廣島シャーリング工業㈱
石田工業㈱
中村是一
大和重工㈱
東海鋼業㈱
自見産業㈱
豊鋼材工業㈱
明道金属㈱
三星金属工業㈱
㈱大川鉄工所
藤田金属㈱
㈱柴田鉄店
東北鋼業㈱
北海鋼機㈱

はげまし

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
東京都中央区八重洲2－4－14
〒104　ミツヤビル3階
発行人　高橋　嬉
TEL. 03(272)2050
購読料　年間1200円(送料共)

千葉支部設立さる
盛会のうちに発足！

機動隊員等を励ます会の千葉支部が発足した。これによって当励ます会は、東京本部と八支部になり、機動隊と国民を結ぶかけ橋はさらに強化されてきた。

◇　◇　◇

大寒を過ぎたばかりの一月二十二日、千葉市千葉港のグランドホテルで、励ます会千葉支部設立総会が厳粛に開かれた。ざっと一五〇名の会員と一〇〇名ばかりの機動隊員を招いての発会式である。

開会宣言および経過報告にたった小川席三・本部副理事長は「千葉支部の設立は遅きに過ぎたくらいで、本日発足にこぎつけたことは、まことに喜ばしい次第である。数次にわたった成田空港騒動は、機動隊員等の鎮静で収まったかのようだが、成田第二期工事が始まると、不穏分子の跳梁が再び懸念される。日本の空の玄関である成田空港の安全と合わせて、引き続き安心して住める日本であることを祈ってやまない」と語った。

国家斉唱、殉職者に対する黙禱に続いて、内田順夫・千葉支部長が「命を賭けて秩序を維持する機動隊員には、一市民として感謝の念あるのみだ。今後とも当励ます会の会員をふやして国民と機動隊のかけ橋の輪を広げていきたい」と力強く語り、来賓を紹介した。

大内俊司・理事長は励ます会の経過について、次のように説明した――安田講堂、浅間山荘事件など極左暴力の最中で、一般マスコミにも機動隊を支援する声がなかった。このままでは日本の法秩序を守る力がなくなるのではないかの不安にかられ、有志が警視総監へ感謝かつ慰問に出向いたところ、会でも結成して心の支えになって頂きたいという助言があった。

四十九年三八〇人で発足した任意団体がその後、社団法人に衣替え、いまでは一万二千人以上の会員を擁するまでに至った。

役員は有名な人をたてるという考えもあったが、当会は心から日本を愛する人で、地味な活動を続ける性格であり、結局は私が理事長を引き受け、会員も口コミでこの会の趣旨に賛同する人ばかりである。

社団法人になってから名称は機動隊員等を励ます会と「等」をつけ加えたが、この「等」は法秩序を守る人達という意味である。内外ともに予測を許さない時期にさしかかっているが、今後とも平和な社会を念願している――。

記念事業として菅浦一・千葉支部理事が、機動隊に目録を贈呈。祝辞にたった川上紀一・千葉県知事は「千葉県は人口が激増しているのに加えて、成田空港を抱えている。治安の最先端で活躍する機動隊員には深く感謝している」と述べた。

金原忍・千葉県警本部長は、こうした励ましにお礼を申し上げる。成田建設の警備で五名が殉職、三、八〇〇人が負傷したが、今後とも真正面から警備して責任を果たす。引き続き支援のほどをと挨拶。

市長代表として松井旭・千葉市長が、また瀬川良一・日本中央競馬会常務理事も、それぞれ、機動隊に感謝と敬意を表し、石渡久弥・新東京国際空港警備隊長は「万全の治安で期待にそいたい」と意欲のほどをみせた。

懇親会に移ってからは、和やかなムードが盛りあがり、鈴木実・本部理事の万歳三唱、井上金次郎・千葉支部理事の閉会の辞で幕はおりたが、心の輪はこれからも拡大されていくことになろう。

千葉支部設立総会開く。強くたくましくひろがる――はげましの輪

左上・川上紀一千葉県知事
左下・金原忍千葉県警本部長

今月の言葉

警戒と恐れ

春立つや静かに鶴の一歩より
召波

暦の上では、八〇年代始めての春である。本来ならば、この句のように寒風の中に静かに近づいてくる春を待つ心境でありたい。

しかし、世界をとりまく諸情勢を考えるとそんな悠長な気分に浸っていられない。

言うまでもなく、イラン問題に端を発し、アフガニスタンに対するソ連の軍事介入は、全世界を緊張させ、去る一月の国連総会は、「アフガニスタンにいる外国軍隊の無条件即時撤退」を求める決議案を圧倒的大差で採択するにいたった。

見せかけの経済大国を誇示する日本は、その実、資源と武力に欠けているため、文字どおり、八方ふさがりの運命に立たされた。国の興亡の岐路に立っている。

この重大な事態をいかに対処すべきかは、われわれの子孫に対する義務である。

昔、中国の魏は、完全に四面を敵に囲まれてしまった。ちょうど、今の日本と同じである。国王武侯は、有名な兵法家「呉子」に、「この困った状態を、いったいどうすればいいか」と相談した。これに対し、呉子は「国を安泰に保つ方法として、まず警戒をすることが最高である。その意味で、貴公はすでに警戒の必要を感じている。それだけでも、そう簡単に困った事情にはならないだろう」と答えた。

それでは、いったい、日本人は果たしてこの「警戒」をしているだろうか。もちろん、恐ろしがることと警戒することとは意味が違う。

理屈っぽくなるが、警戒とは難局に対処し、いかに活路を開くべきかを考えることであり、恐ろしがることは無闇に不安感をいだくことである。たとえば未開人が日蝕を恐れ、月蝕に恐れおののいたと同じで、進歩がない。

機動隊諸賢に対しては、「警戒」が本来的な任務であり、日々の精進を努められているから、わたくしは少しも杞憂をいだかない。しかし、それ以外の国民の中には、これをおこたっているものがないとは言えない。わたくし一人の取り越し苦労であろうか。

新春を飾る
総合訓練全国で開く
誇る精強一堂に――警視庁

警視庁恒例の年頭部隊出動訓練は一月十二日、明治神宮外苑絵画館前で午前七時より吹きすさぶ寒風をついて挙行され、多

成果を遺憾なく発揮――岡山県警察機動隊

岡山県警察では、小雪のちらつく寒風のもと、一月七日、岡山県岡山市いずみ町岡山県警察機動隊グランドに、稲田岡山県公安委員長をはじめ、全公安委員等来賓多数列席のもと、機動隊員等六四一人が参加して、年頭視閲式が行われた。

この視閲は、年頭に当たり、機動隊員等が複雑、困難な事態に対処する決意を新たにし、部隊員の士気の高揚と練度の向上をはかるため行われた。

視閲は、警察本部長を視閲官に、末井機動隊長指揮のもとに部隊視閲、分列行進、つづいて部隊活動要領等がつぎつぎと披露され、日ごろ、鍛えた訓練の成果が遺憾なく発揮された。

視閲終了後、岡山県警察音楽隊によるドリル演奏も行われ、視閲に花をそえた。

新春恒例の行事を無事に終えて、挨拶に立った稲田公安委員長は、「今後いかなる事態にも対処できるよう、訓練を積み重ねて有事に備えてほしい」と要望された。

風雨をついて――愛媛県警察機動隊

愛媛県警察では、みぞれまじりの雨が降る一月九日、愛媛県警察学校に赤襷公安委員長等来賓多数を迎え、機動隊員等五七五人が参加して「警察観閲式」及び「総合警備訓練」を実施した。

これは、年頭に当たり、機動隊等の強固な団結と厳正な規律の保持及び士気の高揚を図ることを目的として毎年実施されているものである。

警察観閲式は、警察本部長を視閲官とし、梶田機動隊長が総指揮官となって、巡閲、部隊観閲行進の順で行われた。

警察観閲式終了後、引きつづいて総合警備訓練が行われた。このころから風雨は一段とはげしくなった中で、機動隊員等は日ごろ、鍛えた訓練の成果を十分発揮して、警備活動要領及び応用訓練等を披露した。

また、警備活動にもっとも重要な情報伝達等部隊活動の死命を制する通信訓練もあわせて行われ、大きな成果をあげた。

内外ともに厳しさを増す治安情勢のなかで迎えた一九八〇年。八〇年代の治安を守り抜く決意を秘めて今年も全国各警察で盛大に新春総合出動訓練がくりひろげられた。東京、岡山、愛媛の三都県でその訓練をルポした。

とおり訓示をおこなった。

当面の治安情勢は一応平穏に推移しているが、内外諸情勢は極めて厳しく、国民生活に影響を及ぼす諸問題が輻輳し、これが予測し難い警察事象の発生となる懸念がある。このような諸情勢に対処し、冷静かつ毅然たる態度で警察職務の遂行に努め、一旦事案が発生した場合は、一致団結して統合力を十分に発揮し、その措置に遺憾なきを期されたい。

事故許さぬ——鉄壁の守り
明治神宮初詣警備

明治神宮に押し寄せる善男善女の波また波。新春を祝い、この一年の幸せを願う初詣の人々の安全を守る警視庁機動隊員に休みはない。今年も入出日本一の初詣警備を無事終えた機動隊員にその思い出を語ってもらった。

一致団結初詣警備

警視庁第三機動隊　庄司　篤

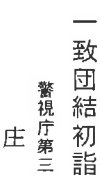
昭和五十四年の最終日、私達第三機動隊員は明治神宮初詣警備のため、出発した。例年数々の反省事項をのこす雑踏警備だけに、万全の態勢を整えての出動である。この日も現着後ただちに検索を開始、不審者、不審物件の発見に全神経を集中させる。

身も凍るような寒空のなかでのきびきびした行動、これほど頼もしく、力強く感じることが、ほかにあるだろうか。ホッとする一瞬である。ほどなく「全中隊は拝殿前に集合、現場訓練を実施する」との隊長命令がはいる。

拝殿前や参道をうずめるであろう参拝者の群れを思い浮べれば、この訓練がいかに重要なものであるか、全隊員が無言のうちに分かっていた。訓練は、動揺防止線やクサビの入れ方、群衆の整理要領等きめ細かなものであった。やがて、午後の十一時を過ぎたころから、参道は数千人の人でうまりだし、拝殿前まで一時間三十分もかかるという混雑ぶりである。

ある外人グループが、午前零時の大太鼓の音とともに、シャンペンを取りだし歓声をあげてこれを抜くと、シャンペンの泡がふきだして周りの人々にかかるものだから、大急ぎで逃げまどうなど大変な騒ぎであった。整然と並んでいる参詣者にとって、本当に迷惑なことである。外人と日本人の感覚の違いとはいえ、事故防止のことを考えると冷や汗の出る思いがした。

明治神宮初詣警備は何の事故もなく終わった。これも隊長を中心に、隊員が一致団結して警備にあたったおかげだと思う。その陰で、隊員にあつい年越そばや甘酒を作ってくれた補給係の苦労もあった。あの味はまさに母親の味で、隊員の活力源となったことはいうまでもない。補給係のみなさんありがとう。



初詣警備雑記

第四機動隊第三中隊　黒田　浄

昭和五十五年という新たな年の幕が開かれた一月一日、我々四機部隊は明治神宮初詣整備の任に当たった。

これに先立ち、各々の隊員は、晴れ着（制服）を新調する者、手が切れるほどプレスをする者など形をととのえ、気分も新たにし、事前の戦術会議にもおのずから一段と熱がこもり、新年の初仕事を完遂するべく万全の準備を整えて警備に臨んだ。

明治神宮に部隊が到着した時には、もうすでに、初詣の人々が思い思いの服装で歩いている姿が目に入った。どの顔を見ても、今年も一年がんばろうという意気込みのある新年にふさわしい雰囲気が感じられ、とてもすがすがしい印象がした。

配備について間もなく、人の流れに逆らう二人づれのおじいさんとおばあさんを発見した。何かしら一生懸命に祈っている真剣な姿を見て、なぜか涙の出る思いがし、「おじいさんたち、そこにいるとあぶないから、こっちへきて参拝しなさい」と声をかけて部隊の規制線の中に入れてあげた。おじいさんたちは、「どうもありがとうございます。おまわりさんも正月なのにごくろうさまです」と言って、また一生懸命手を合わせて拝んでいた。

「祈る」という言葉があるが、正月ほど皆が皆、何かしら祈らないことはないだろう。そういう人たちの一人一人の真剣な願いを見るにつけ、我々警察官はそういう人たちの小さな幸福をなんとか守ってあげなくてはならないと思い、賽銭のとんでくるなか、なぜか体に力がこもった。そして自分の願いを神前に向かい、心で手を合わせ祈るとともに、参拝に来た善男善女の幸福を祈りながら初詣警備の一日を終えた。

初詣のエピソード

第四機動隊第二中隊　三原　学

明治神宮の境内に「新年あけましておめでとうございます」と響きわたる広報の声で、本年も正月が来たのだと感じた。

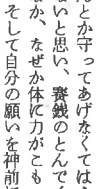
今年の元旦の明治神宮初詣警備は私に初めての経験であった。たくさんの人のお参りの長い列はまるで蟻の行列でも見ているようであった。これだけの人の願いを聞く神様も大変だろうなどと思いながら参拝者の整理に当り、東神門から西神門へ、西神門から東神門へと参拝者の中を整理をしているうちに、意外と晴れ着を着ている人が少ないのにはがっかりさせられた。

私が西神門に立っていた時、晴れ着を着た三人連れの若い女性が「お巡りさん、あけましておめでとうございます。すみませんが写真を撮って下さい」と言ってきた。「一枚なら撮ってあげましょう」とシャッターをきってあげた。

何十万人という人が、明治神宮神前で何を祈り、お参りしているのだろう。一九八〇年代はエネルギー問題、物価問題など国内外を問わず、いろんな問題があるが、そんなことを祈った人は少なかったかもしれない。

私は心の中で次のことを誓った。第一は、在隊期間中に巡査部長昇任試験に合格すること。それには今日から勉強すること。次は、好きな本を多く読むことである。

今年一年間が、悔いの残らない年にしたいと、参拝者の警備に従事しながら心に誓いをたてた初詣警備の一日でした。



初詣警備を終えて

婦人警察官特別機動隊員　藤由　圭子

厳しい寒さの中で、迎えた新しい年、明治神宮の境内は、初詣の人々でいっぱいでした。

私は今年の初詣が何事もなく平和に終わりますようにと願いつつ、指揮官車の上に立ち、緊張と不安と寒さにふるえながら、一生懸命広報をしたのです。

初めてということもあって、声がうわずって次の文句がなかなか出てこなかったりで、練習しておけばよかったと、後悔しました。それにくらべ、機動隊の方の広報は、本当にすばらしく、声の出し方、はきれのよさに感心させられました。

私達は、「春の海」の音楽とソフトな広報の中にも、適切な言葉で、初詣の人々になにげなく小さな注意を与え混乱を防いで、平穏のうちに、初詣が終わるようにしなければいけないのだと思いました。私は、このような場所での警備は、婦人警察官にとってよき活躍の場だと思うので、これからもますます練習を重ね、経験をつんで、もっと自分自身納得のいく広報を目標にがんばりたいと思います。

二回目の初詣警備

婦人警察官特別機動隊員　嶋川　順子

十二月三十一日午後五時、第三機動隊に召集された時から、私にとって二回目の明治神宮初詣警備が始まります。任務である広報の訓練を行い、いざ明治神宮に向かって出発、車を降りて砂利を敷きつめた参道を歩くと、今年もこれで終わりなんだなあという感慨がこみ上げてきました。

担当区の検索が始まり、私達の担当に、もし爆弾でも仕掛けられていたらどうしようと心配しながら検索を行ったが、何事もなく終了し、私は南神門の広報活動を開始しました。参道を埋めた大勢の参拝者を見た時、緊張のあまり一瞬足がすくむ思いがしました。これではいけないと勇気をだして発した第一声が、今まで何回となく訓練してきた「参賀においでの皆さん、ただ今拝殿前が大変混みあっていますので、その場でしばらくお待ち下さい」でした。冷えきった体とかじかんだ手を炭火で暖めている時、一九八〇年を告げる大太鼓の音が聞こえてきました。この音を聞いていると気持ちまで新しくなるような気がしました。夜が更けても寒気の中参拝者は絶えることなく続きます。

私はこの四月に、婦人警察官特別機動隊員をやめることになっていますが、明治神宮で二回も新年を迎えられたことは、きっとよい思い出になると思います。婦人警察官特別機動隊を経験したことを誇りに思いながら、これからもがんばっていきたいと思います。

特別寄稿

世界柔道選手権大会に出場して

特科車両隊警部補　遠藤　純男

パリ、クーベルタン競技場は約二万人の柔道ファンで埋まった。熱狂的な観衆の拍手の渦の中で表彰台に上った。観衆の拍手は決勝戦の試合時間「二分五十二秒」をはるかに上まわった。

思えば、モントリオールオリンピックの銅メダル。私にとっては金メダル以外はすべて負けなのである。最大の目標としてきたオリンピック（公式世界大会）での敗北は、痛恨の極みであった。その時、味わった「惨めさ」、「悔しさ」、「ふがいなさ」は、言葉では言い表しようのないものであった。

以来三か年、その間には、再起をかけたスペイン国バルセロナ世界選手権大会出発一週間前の中止。翌年、全日本選手権では、左大腿部の肉離れで二か月の入院を強いられた。また同年秋には、東京オリンピック以来日本での国際大会嘉納杯が開催、それにも出場権を得ながら「左足首捻挫」のため辞退をした。

昨年五十四年度、全日本選手権では決勝戦で敗退。モントリオール以来二年ぶりにキューバ国際柔道大会に出場。重量、無差別の二階級で優勝し、対外人戦の自信が甦ったのである。キューバからは東側独特の食糧難、時間のルーズさ、飛行時間の長さなどの悪コンディションの帰国であったが、一週間後には、世界大会第二次予選が控えていた。このような状態にいても勝ち進むことができ、体力、気力にも一段と自信がついた。九月三十日、最終予選会（全日本体重別選手権大会）に出場。不覚にも、一回戦で右足首を捻挫し、試合ができそうもない状態だった。周囲からは棄権を勧める声もあったが、ここで試合を放棄すれば世界選手権はおろかモスクワへの道は、はかなく消えるのである。二十九歳の私には今回が最後のチャンスである。気力で宿敵上村、若手松井と勝ち進み、最後の山下戦は足首の怪我がなければとつづく思う大会であった。

ここに於いて辛くも世界大会出場権を獲得、十一月三十日、気力、体力ともにベストな状態でパリへと向かった。私には最後の最後まで怪我がつきまとい、一回戦に於いて右肩脱臼、上腕肉離れで痛みとめをうっての出場であった。それを冷静な試合はこびでカバーした。苦汁をなめたモントリオールでの経験がここに生かされ実を結んだといっても過言ではない。我が柔道人生で一九七九年十二月九日は最良の日となり、日章旗そして国歌が、異国の地パリに鳴り響いた。あの感激は、一生私の頭から離れないだろう。

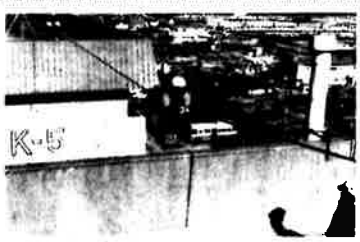
私はまだまだ戦う。間近に迫ったオリンピックがモスクワの地にあるから。

警視庁だより

レスキュー一一〇総合訓練

大震災、災害事故の発生に備え、警視庁はこのほど機動救助隊および水難救助隊の総合訓練をおこなった。これは救助技術の向上と士気の高揚を目的に例年実施されているもの。この総合訓練は「東京地方に大地震が発生し、各地で交通事故や建物の倒壊、橋梁の崩壊などの被害続出、救助隊が出動」の想定で実戦さながらにくりひろげられた。参加したのは全機動隊、航空隊、東京水上署、深川署から派遣された総員五五〇名。

なお、機動救助隊、水難救助隊は、創設以来三、六八四件の出動を記録、六八四名の尊い人命を救助した。今や都民に〝レスキュー一一〇〟として、その期待を高めつつある。



一機・餅つき大会盛会

警視庁第一機動隊恒例の、餅つき大会は國島警視総監はじめ約百名の関係者を招いて一月十九日、同隊隊庭で盛大に開催された。各中隊ならびに来賓のつく杵音は響れわたった冬の青空の下、北の丸公園に力強く響きわたった。餅つきの合間には演芸大会も開かれて花をそえ、総監訓示、隊長あいさつなどがあってなごやかなうちに散会した。

東西対抗③

宮城のスキーVS高知のダイバー

雪山の大自然のなかのスキーに対するは水深の海底に挑むアクアラングダイビング。前者が人間と雪山の自然の対話であるとすれば、後者は美しい魚や生物の群れと新しい世界の探検である。さて宮城県警察機動隊と高知県警察機動隊のお立ち合いは……。

宮城県警察機動隊

プロフィール

宮城県警察機動隊のスキークラブは宮城県警察の「警友スキークラブ」の機動隊支部として結成され、他のクラブとは違った県警察全体とのつながりをもったクラブである。

「警友スキークラブ」の発足と同時に会則が設けられ、同会則に、事務局を機動隊に置くことが定められ、以来当スキークラブは警友スキークラブの中心的存在として現在に至っている。

現在会員（支部員）は一三名でそのうち、準指導員一名、一級二名、二級三名、三級五名とほとんどが有資格者であり、さらに上級を目ざしてトレーニングを積んでいる。

シーズン中の行事は、十二月中旬に初滑り会を一泊二日で行い、以後三月末まで日曜祭日はもちろんのこと平日も休暇を利用し、技術の向上と体力の養成に励んでいる。

宮城県内には有名な蔵王スキー場のほか、仙台市の近郊にもスキー場を有し、訓練の機会に恵まれているほか、毎年実施される〝冬山遭難救助訓練〟には当クラブ員が指導者として参加し、なお一層技術の向上に励んでいる。そして冬山の事故に備えて常に出動体制をとっており、警察責務の一端を担うという重要な役割をも果たしている。

すでにみちのくの山々は白銀の世界と化し、今年も当クラブ員は各スキー場のゲレンデを思う存分に滑りまくり、個性のあるシュプールを描きながら職務に役立つクラブ活動を推進してゆくつもりである。

永野　裕二

昨年一月、一級を取得し、その名に恥じないよう、夏はサッカー、マラソンで足腰を鍛え、冬は先輩の指導により技術の練磨に励んでいるが、これからはゲレンデだけではなく、ツアーに挑戦し、どんな条件の雪でも克服し、自分のベストを出せる技術を身につけて、パトロール、さらには指導員へと挑戦するつもりである。

千葉　忠洋

当スキークラブに入部してから二年、昨年一月に二級を取得し、現在、一級取得を目標に、早朝トレーニング等による足腰の鍛錬、また各種研修会参加による技術の向上に努めている。

昨年は例年にない暖冬のため、数多くゲレンデに足を向けなかったが、今年は、雪を求め、他県のゲレンデにも足を伸ばし、あらゆる斜面、雪質で滑れる強いスキーを身につけ、今年の目標達成にしたい。

堀越和敏隊員の妻　堀越　孝子

私が好きな季節は、春から夏にかけての気温が上がってあたたかくなる、のどかな季節であるのに、主人ときたら、「顔はいつも真黒」のオールシーズン型、特に冬は、好きなようです。雪やけ、スキーやけ、私はあきれやけ、今年も、また主人の季節到来、毎日あきもせずに、スキーを手入れしたり、本を読んだり、周りから見ていると、おかしくて、何がよいのでしょうか。でもけがだけはしないよう祈ってます。

村山修吾隊員の妻　村山喜恵子

「今年もまだ雪が積もらないなぁー」と主人の声。ふだんは、朝、時間ぎりぎりまで床についている彼が、冬、雪のたよりを聞くころには、スキーができるのを待ちわびているようです。そういえば、主人と初めて見た映画でした。

今年は、私たちの二世も誕生するので、私の気持ちをよそに、張りきっている様子です。あと数年もしたら、子どもと一緒に、スキーをかついで出かけるのでしょうか。

高橋進隊員の妻　高橋　洋子

八甲田、蔵王etc、スキー場のポスターが目につくようになると張り切っちゃうのが私のだんな様。〝かあちゃん〟と呼ばれてまだ一か月余りなのに早くも恋仇（？）のシーズン到来、大好きな雪景色もちょっぴりうらめしく思えてきます。今年の冬は、何回留守番をするようになるのでしょうか。心細いのは隠せませんが、うれしそうに出かける彼を見たいから、私も負けずに笑顔で見送ります。でも足を折ったりしたら嫌ですよ。

高知県警察機動隊

プロフィール

高知県警察のダイバークラブは、昭和五十年に結成され、この間、一度のトラブルもなく、クラブ員全員、快適な潜水を続けている。

クラブ員は現在九名で、すべて機動隊のアクアラング部隊の隊員で構成されている。

アクアラング部隊としての出動は、水難者の救助や、証拠品の水中捜索等で、その活動は泥水や、暗闇の中で、手探りの潜水が多いので、せめて休みの日には、条件の良い、美しい海に潜水しようという趣旨のもとに、クラブが結成された。

巡査部長　横田　朝夫

クラブの活動は、毎月休日の波のない日に最低一回は、近くの桂浜や手結海岸等に潜りにいく。波の静かな海に潜り、サンゴ礁（テーブルサンゴ）の上に舞うハナダイや優雅に泳ぐタカノハダイ、その他小魚の群れをながめながら海底を散歩していると、時のたつのを忘れさせてくれ、日常のストレス解消には最高だと思っている。

私たちクラブの特徴は、美しい海がすぐ近くにあり、一〇～二〇メートルくらい潜ると、そこには、イシダイや伊勢エビ等がいて、私たちとすぐ友だちになってくれる。私たちは潜ったあと、クラブ員が集まって、さかずきをかわしながら、今日はエビと友だちになれたとか、イシダイと友だちになったと、自慢話をしながら酒を飲むという楽しみがあるクラブである。

心構え　岩崎　崇訓

○平素から健康管理に注意し、潜る前夜は深酒をしない。
○潜水用具の点検を確実に行う。
○基本的なことを確実に守り、絶対に事故を起こさない。
○潜水していても調子が悪い時は、無理をしないですぐに中止し浮上する。

抱負　坂本　宏也

我々クラブ員の心構えとしては、まず第一に健康に気をつけること。潜水に当たっては、一つ、基本に忠実に、二つ、自分を過信しない、以上三つの事を常に念頭におき、行動することである。現在までなんの事故もなくこられたのは、部員一人ひとりが細心の注意を払い行動した結果と思う。これからの抱負としては、仕事の関係上、たびたびとはいかないが、暇をみつけては、南国土佐の海の美しさをこの目に、記録に残したいと思う。

森元　良介

我々クラブ員は、潜水に当たっては、基本を忠実に守ることはもとより、常にバディとともに行動し、決して無理はしないということである。

おかげで、クラブ結成以来、一度の事故もなく楽しくやっている。

抱負としては、もし機会があれば、深海ダイブ（五〇～七〇メートルくらい）に挑戦してみたいと思っている。

二〇～三〇メートルくらいであれば、いつも潜っているが、それ以上は危険と思って無理していない。ぜひ一度、深海の神秘にふれてみたい。

写真下右から、横田朝夫、岩崎崇訓、坂本宏也、森元良介、ダイバークラブのみなさん

○警察官としての自覚を持ち、他のダイバーのよき見本となる。

抱負

抱負としては、一メートルぐらいのクエと仲よく遊びたいことと、高知の海も美しいが、沖縄付近の透き通るような海に潜ってみたいと思っている。

誇る精強
治安の砦
鈴木實
大洋製鋼㈱
㈱周東商会
㈱小澤製線所
杉尾栄俊
高周波熱錬㈱
木村政次
黒田一
村上益一
川淵長一
丸定産業㈱
明鋼材㈱
知多金属工業㈱
田島鋼材㈱
中村是一
丸橋正彦
不動鋼板工業㈱
早達運送㈱
北越メタル㈱
金廣鋼材㈱
阿部商事㈱

会員の広場

大切な朝に飲む〝水〟

東　昇

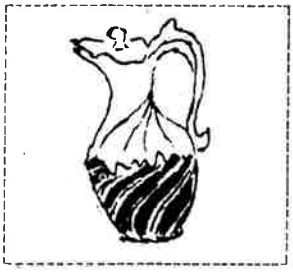
アメリカの航空会社のおこなったおもしろい資料があります。それは飛行機事故を起こしたことのあるパイロット一〇〇人について、「あなたは朝食をとっているか？」と質問しています。その結果、八〇人が朝食をとっていて、残りの二〇人は朝食をとっていませんでした。さらにまだ一度も事故を起こしたことのないパイロットにも同じ質問をしています。すると全員が朝食をとっていることがわかりました。無事故のパイロットたちは、朝食になんらかの生もの、生野菜や果物などの自然の水分をとっていることが判明したのです。なぜ朝、自然水分をとると事故の起きる率が少なくなるのでしょうか。

水は科学的にはH₂Oの化学式で表される水素と酸素の化合体であり、湯ざましも井戸水も同じですが、人のからだに入ってからの働きがまったくちがうのです。一度沸かしたお湯を冷やした〝湯ざまし〟をいれて、金魚を飼ってみてください。まもなく死んでしまいます。

水に熱を加えると生水ではなくなるのです。沸騰させたお湯には溶解酸素の含有量が少なくなって、水の中の酸素が逃げてしまうからです。酸素がわれわれの健康にとって、どんなに大切であるかわかります。酸素のない加熱水分を〝死んだ水〟、酸素のいっぱいある水分を〝生きた水〟といわれています。また人のからだの七五パーセントは水分でできあがっており、体内の細胞は常に水を欲しがり、量としては七五パーセントを維持しようとしています。もし七五パーセントの水分が五〇パーセント以下になると、脱水状態を起こすそうです。老衰という現象も体内の水分が五〇パーセントに近づいたことを示すわけです。一日にどのくらい飲めばよいのか、それはコップ五杯分（五合）ぐらいとればよく、コップの水は箸などでかきまぜて四分間ぐらいたってから飲むとよい。それはカルキをぬくためです。

スポーツをして汗をかいた後には水を補給しなければなりません。コップの水を十分飲めば疲れを残しません。また人間のからだには二二パーセントの酸素が常に必要であり、この酸素は脳に十分あるほど脳波の活動は敏感になるのです。酸素は一日の中で朝が一番多く必要であります。この一番からだが酸素を求めている朝に、自然水分を補給しなければなりません。一日中活力のあふれる生活をするためには、朝の水が一番有効であるということになるのです。

朝食に生ものをとっていたパイロットに事故が少ないというのも、これで納得できます。水がよいからといってガブガブ飲むものではありません。正しく水を飲むことです。水こそ、人のからだに欠かすことのできない、大切な栄養のひとつともいえます。



五無青年と四十五度人間

石原　幸男

〝おちこぼれ〟という言葉が最近よく聞かれる。ある調査機関が報ずるところによると、ここ数年、全国各都道府県で高等学校を中途退学する生徒が増えているそうだ。県によっては年間数百人から千人を超えるところもあるとのこと。しかも、この数は年々増える傾向にあり、憂慮されていると聞く。

この原因が家庭の経済事情によるものなら、問題は別だが、どうも生徒自身の生活姿勢から中退するケースが多いと聞かされて、いささか心さびしいものを感じるのは私だけだろうか。

かつて青少年の意識調査で、無気力、無責任、無関心の三つの無がクローズアップされ、世の教育に関心を持つ親達に失望を与えたことを思いだす。

振り返ってみると、いまから三十五年前、三等国と自ら意識し敗戦の屈辱に耐えて、わが国の再建に心を一つにして働き続けた時代には、このような青少年の姿を見ることはなかった。それがどうであろう。経済大国といわれる今日、おちこぼれ青少年の増加を憂えねばならないとは、エコノミック・アニマル社会だからこそ、純真な青少年が〝おちこぼれ〟ていくのであろうか……？

たしかに、今の社会は家庭を含めて、青少年の教育のあり方を見失っていることも否定できない。この調査でもかつての〝三つの無〟が、今では〝五つの無〟に拡大されていると聞く。

すなわち、無気力、無関心、無責任に、無感動、無作法の二つが追加されたのである。

美しいものへの感動、両親や先生、先輩への礼儀を失っては もはやどうみても立派な社会人に育つことは望めそうもない。

私は教育者ではないので、このような現象を歯がゆく見つめるだけなのが悲しい。

戦前の教育を受けた私達は、「親に孝」「立身出世」といった垂直思考に支えられてきた。ところが、このような〝おちこぼれ〟青少年は「何をやってもつまらない」とシラケきり、大の字になって横になっているようだ。このような水平シラケ族にもはや垂直型の社会通念を教えこむのは不可能であろう。悲しいことである。彼等は成人しても、いやとなったら、職場も家庭も放棄して平然と生きていくのであろう。

評論家の竹村健一氏が、「四十五度人間論」を提唱し、垂直でも水平でもなく、仕事も遊びもほどほどにして円満な社会人になろうと呼びかけたのを思いだす。しかし、これから増大するであろう〝おちこぼれ〟族は「マイナス四十五度人間」とでも言うべきか……。わが国の将来に空恐ろしい思いを禁じえない。

豊かなライフサイクル

松井　功次
國光製鋼株式会社

わが国は世界のトップクラスの長寿国に仲間入りしている。男性七十三歳、女性七十八歳の平均寿命は、ひと昔前では想像もできなかった寿命である。延命になったことは非常に、すばらしいことであるが、そこには当然さまざまな社会的影響が出るだろう。古い生き方、新しい生き方、両方が混在し、もつれ合っていく社会、そして高齢社会に伴って人それぞれの生き方は多様化していくにちがいない。

社会的むずかしい問題については、ひとまず差し置くとして、多様化しつつある社会にとり残されることなく一生を豊かに送りたいと考える人にとっては、今一度、ライフサイクルというものを真剣に考えてみる必要があるのではなかろうか。長い一生をどのように生き抜いていけばよいのだろうか。何に生きがいを求めていくのか、また社会は今どんな人間を求めているのか、社会環境の変化に即応して考えていかねばならない。

そう考えるとき、もっと若いときに、これも、あれもやっておけばよかったとくやむこと、しばしの人も多かろう。例えば、余暇の過ごし方一つも見ても、日本人は不得意のようだ。レジャーはなやかなりし時代だが、その活動もいろいろあって、若き時代に習練が必要なものと、そうでないものがあり、若き時代に修得していないと一生やる機会を失うものも多い。

しかし、現在、四十代、それ以上の人達の若き時代は、混迷時代であり、レジャーどころでなく、金も暇もない時代であった。だから、今、週休二日制等の普及によって余暇ができても、その人たちは余暇をもてあまし気味なのだ。休日をテレビやごろ寝で過ごす傾向が強いのもそのためである。仕事に生きがいを感ずる人の割合が意外に高く、これが日本人の働きすぎに通ずるらしい。急激に発展した日本社会の標準タイプである。

しかし、一方現在の若者は、成長した社会の中で育っており、欧米諸国と比較して、所得も余暇もさほど大差なく、その意味からすれば当然余暇の過ごし方も変わってきて不思議ではない。

願わくば、健全なレジャー、文化的な教養あふれるレジャー活動を身につけてもらいたい。そして、今の若者が四十代、五十代の年齢に達したとき、日本はどんな社会になっているだろう。

長寿国、経済大国の日本人が世界各国、いたるところにいるといわれることく、欧米諸国と肩を並べ、国際社会の一員として立派に融和する時代が来つつあると思われるが、そこにはまだまだライフサイクルに関する考え方が、欧米諸国と違っているのが現状だ。資源のない日本が必ずしも、欧米諸国と同じ考えになるとは思わないが、日本社会は現在、国際性豊かな人間を求めている。老いも、若きも、もう一度、自分の豊かな生涯について考え直してもよいのではなかろうか。

されど忘るべからず

須藤　清司

「老は忘るべし、されど忘るべからず」…徳川時代の俳人、横井也有が〝鶉衣〟に著した俳文の一節だが、ある日、息子にさそわれて鮒釣りにでかけ、ふとこの一文を思いだした。

也有は芭蕉、蕪村、一茶、鬼貫と並ぶ徳川時代の名俳人である。尾張藩の役人を五十歳で退き、隠棲して俳諧一筋に余生を楽しみ、八十歳の生涯を閉じているが、この一節から彼の老後の生活に対する姿勢がしのばれる。

徳川時代と現代とでは人々の生活様式も変わり比較しようもないが、人間の情に変わりはないはずだ。とくに現役を引退した老人の心情は今も昔も同じであろう。

一人竿先を見つめながら也有の「老いは忘るべし、されど忘るべからず」の一節をかみしめているうちに、停年退職して第二、いや第三の人生に力強く船出していった友人達の姿や声がよみがえってくる。

がいしてホワイトカラーよりブルーカラーの人達のほうが、この第二の人生に力強く船出しているようだ。ホワイトカラー出身は、在職中人づきあいに追われて自分自身を見失っているきらいがあるようだ。趣味もゴルフだとか麻雀だとかグループで楽しむものが多いようで、個人で一人楽しむ趣味が少ないような気がする。

これに対してブルーカラーの人達の趣味の傾向はいささか違うおもむきがあるようで、これが第二の人生への力強い再スタートに大きな功献を果たしているケースが多いようである。

私の知人であるブルーカラー出の先輩達も趣味は多岐多様で、定年後も豊かな生活をエンジョイしている。盆栽、菊づくり、焼物、油絵、日本画、さらには尺八…数えきれないほど多彩である。しかも一人で体を動かして楽しむ趣味が多い。

思えば在職中の長い日々が、人間とのつき合いより、もの言わぬ冷たい機械との生活であったことが、趣味をこのように豊かにしているとも思える。

私の関係でも定年を迎え退職する方々の送別会が時折り開かれる。そのパーティには夫人も同伴していただいて、労をねぎらうのが恒例であるが、昨年秋開かれたパーティでも、ブルーカラーの二人が、それぞれ、尺八と油絵の先生をやって老後を送ると夫人ともども明るく張り切っていた。

このお二人とも勤務成績は抜群であり、休日のレジャーも人一倍楽しんでいたようだ。まさに良く働き良く遊んで壮年期を送ってきた、うらやましい例と言えるであろう。退職後の人生もきっと充実して豊かな日々であることは間違いない。

彼等から私が学んだことは老後を楽しく送る趣味を四十代に開拓しておくということだ。しかもその趣味は観賞といった受け身のものではなく、一人で手足や目耳を使って打ちこめるアクティブなものでなければならない。

豊かな趣味をもってこそ、言えるのであろう「老いは忘るべし、されど忘るべからず」と。

事務局からのお知らせ

警視庁機動隊各隊は、昨年末恒例の餅つき大会、賽祭をおこない、隊員の士気を鼓舞した。

これら一連の行事を支援した当会あて次の方々から礼状が参りました。

▽第一機動隊隊長・石原滋明氏
▽同隊清明寮寮長・南喜久男氏
▽第三機動隊隊長・松浦清輝氏
▽第五機動隊隊長・高木健哉氏
▽第七機動隊隊長・川原春雄氏
▽同隊雄飛寮寮長・諏江幸伊氏
▽第八機動隊隊長・笠井邦久氏
▽同隊若松寮寮長・大森義明氏

はげまし

発行所
社団法人 機動隊員等を励ます会
東京都中央区八重洲2-4-14
〒104　ミツヤビル3階
発行人　鈴木　實
TEL　03(272)2050
購読料　年間1200円(送料共)

九州支部総会盛大に開く

第六回

上・祝辞をのべる広末賢一副知事・左上・久本禮一氏　左下・小池勲氏

九州ではめずらしく大雪警報が出た二月六日、博多駅前のスカイパレスで、機動隊員等を励ます会第六回九州支部総会が開かれた。

◇　◇　◇

機動隊員七〇名を迎え、会員含めて三〇〇名の出席を得た支部総会は、二亦正・世話人の軽妙酒脱な司会に乗って、高橋重広・世話人の力強い開会の辞で始まった。

大内俊司・理事長が、九州地区の〝名物男〟である自見、森山の両世話人が体調を崩して欠席したのが残念だと語り、「はげましの輪を何倍にも拡大していこう」と寒風をついて参集した会員に呼びかけた。

亀井光・福岡県知事の代理として、予算折衝の最中をかけつけた広末賢一・副知事、また小池勲・九州管区警察局長、久本禮一・福岡県警察本部長がそれぞれ来賓として挨拶。最近の北九州における暴力団組長射殺事件に伴う二十四時間警備態勢の状況報告等をまじえながら、励ます会に対する謝意と、今後とも万全の治安で臨む決意のほどを述べた。

会の熱気も高まったところで、木村利秋・大阪支部世話人の乾杯の音頭で懇親会へ移り、若い機動隊員の多才多芸に驚く声があちらこちらできかれた。

嘉悦康人・本部世話人の朗々たる「北方の唄」に続く万歳三唱、高橋重広・世話人の閉会の辞が終わると期せずして「機動隊の歌」の大合唱が湧き起こり、名残り尽きないままに幕がおりた。

警視庁警備部武道始

警視庁恒例の警備部武道始が　道始では機動隊各隊対抗と幹部
このほど、中野の警視庁警察学　対抗紅白試合がおこなわれ、道
校第二道場で開かれた。この武　場いっぱいに熱気があふれた。

機動隊対抗試合で、柔道は二機が、剣道は六機が熱戦の結果優勝旗を手にした。

当励ます会からは村山文雄理事が出席、熱心に観戦、声援を送るとともに、大会終了後、来賓代表としてあいさつに立ち、「力強く、道場せましと満ちる気迫を間のあたりに接して、首都の治安はこの若き人達により守られていることを、身にしみて感じました。今後とも、その大任を果たすよう頑張って下さい」と心暖かい祝辞をおくった。

感激の優勝

第六機動隊　深沢英文（写真・上）

「やった」、副将の和田選手が決勝の追い込み面を決めた瞬間、六機の優勝が決まった。

私は、感激の余りこぼれ出る涙を押さえることができないまま同僚の肩を抱きかかえていた。

私が、六機へ着隊して以来約七年、優勝という言葉には縁遠く、昭和五十三年第一回機動隊剣道試合で、六機が初優勝した時は講習中で出場できなかった。

また、昨年の逮捕術大会で優勝した時は大会三日前に、練習中アキレス腱断裂で無念の涙をのんだ。

このようなことから、今回の優勝は私にとって一生忘れられない思い出になるであろう。

機動隊対抗試合は、各機動隊とも実力伯仲で同じチームが連続優勝することは非常に難しい。しかも、団体試合ではあるが自分が戦う相手は常に一人で、一対一の壮烈な決闘である。そしてチームの一人ひとりの気力が最高に達したときにすばらしい力が発揮できるということを優勝を通じ再認識した。

俺が勝たねば！

第二機動隊　藤本裕之（写真・中）

私は第二機動隊柔道部の四将として出場、その責任の重さを痛感する思いであった。隊長から常に「昨年秋、柔剣道ともに優勝した我が二機は、追われる立場にあり、追う立場の者よりも厳しい稽古をしなければ優勝への道はない」との訓授の言葉にそった厳しい訓練が続いた。

私自身、稽古中「なんでこんな厳しい訓練をしなければならないのだろうか」と思いながらも、「優勝」の二文字を勝ちとるためだと必死の思いで稽古した。その甲斐あってベストコンディションで試合に臨むことができ、必勝の信念で闘った。

第一回戦は五機、第二回戦は三機、第三回戦六機といずれも順調に勝ち進み、決勝戦では第八機動隊との対戦となった。

私は、過去に第二機動隊の柔道四連覇達成の経験があり、今日からまた、連続優勝目標に向かって努力精進する覚悟である。

前半戦はリードされたが、中盤は盛りかえし同本数で私に回ってきた。「俺が勝たなければならないんだ」と自分自身に言い聞かせて試合に臨んだ。必死の背負い投げで一本をとり、無事に責任を果し、副将戦で勝負が決まり第二機動隊は念願の二連覇を達成した。

感激の連続優勝

第二機動隊　小松和美（写真・下）

本年第一回機動隊対抗柔道大会は、二月十二日に行われたが、昨年の暮れの第二回機動隊対抗に引き続いて優勝できたことは、嬉しかった。私は、着隊して二年六か月、この柔道二連覇は青春の輝かしい一ページを飾るにふさわしい出来事であった。

優勝が決定した瞬間、私は試合で痛めた肩の痛みも忘れ、思い出したのは、ここまで来た過程であった。特練期間に入り、寒い日、つらい日は何日もあったが、その都度、挫折しそうな気持を同僚と共にはげまし合ったあの日。また、怪我で道場に上がれず、一日がとても長く感じられたあのときが走馬燈のように浮かんでは消えていった。後輩もできて、先輩という名に恥じないように頑張り、自主トレーニングのため明け方二人床を出て、寒風を切って近くの公園を走った。それが今回全勝賞をいただく結果になったと思う。

私は、今回の貴重な体験を、柔道はもちろん、これからの警察活動をはじめ人格形成の上でも、いつまでも忘れずに大切に過していく覚悟である。

警視庁だより

新総監紹介

警視総監に今泉正隆氏（写真）が就任した。

今泉氏は大正十五年三月三日佐賀県に生れ、東大法学部を卒業して、昭和二十四年警視、三十三年警視正、四十年警視長、四十九年警視監に任官している。

その間、高知県警察本部長、五十一年警視庁に復帰、警務部長、副総監、警察庁警務局長を経て、去る二月九日、第七十二代警視総監に就任した。

警視庁刑事部長などを歴任、その後防衛庁に転じて人事教育局長を勤めた。

今月の言葉

しつけと教育

受験の季節である。既に私立中学、高校、大学の入試も始まっている。

学歴は、教育の大衆化でその価値を減じたとはいえ、なお生活安定の有力な手段になっている。しかし、激しい受験競争の結果、より高度な教育内容が義務教育の小・中学校にまで持ち込まれ、このため児童、生徒は消化不良に陥り、いわゆる「落ちこぼれ」る子どもたちを続出させている。

少年の非行の原因の大きな部分は、このような受験競争の行き過ぎで、ゆとりや潤いを失った学校教育の現状にあるといえる。

過度の競争を排し、子どものひとりひとりを大切にする、個性と能力に応じた教育の実現こそ今日の教育の課題であり、そのためには受験競争の頂点に立つ大学入試の改革が必要で、大学は「入学の容易な大学」「卒業の難しい大学」にすることも一案と思う。

今、専業主婦の六四パーセントは子どもを「生きがい」と考え、教育に深い関心をもっているといわれる（経済企画庁「家庭生活調査」）。学歴が生活安定のパスポートであるためだが、それなら母親は子どものしつけにより強い関心をもたなくてはならない。

「有名中学合格の勉強法」という本によると、小学校四年までに、朝起きたら歯をみがく、顔を洗う、帰宅したらうがいをするという日常の生活習慣ができている子どもは、多くが五、六年生になると勉強に熱中できる性格となって現れてくるという。

五、六年生になっても、このしつけに欠ければ、もはや何ともしがたいということだろう。教育ママとして聞き捨てにできないことである。

また公徳心についても、欧米では家庭や地域社会、教育が責任をもち、おとなたちが一体となって指導している。

わが国でも、かつて地域社会は子どもたちのしつけに強い影響力をもっていた。神社や寺は教室であり、おとなはみな教師であった。祭りや催しも若者たちの心を強くとらえていた。ところが都市化や核家族化の進行で、家庭や地域社会の教育力は著しい低下をきたした。しかし、地域社会にはまだ教育に利用できる施設や行事が数多く残り、学校の教師にも劣らぬその道の専門家や指導者も多数いる。こうした人々、施設などを子どもたちの公徳心の向上のために再結集する運動を巻き起こしたいものである。

対抗④

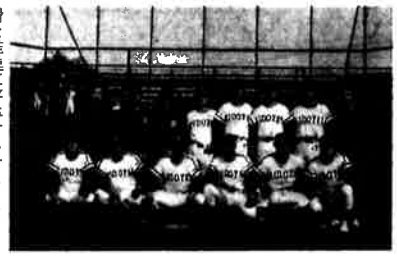
岩手県警察機動隊

岩手の野球VS沖縄のボディビル

プロフィール

誠実、明朗、躍進をスローガンにして、開催された岩手国体（昭和四十五年）を契機に、県民のスポーツに対する参加意欲が急速に高まった。特に、野球は、他のスポーツを圧倒し、現在では、岩手県内に早起き野球だけでも約九〇〇というチームが結成されている。

当時、機動隊員の中にも野球を経験した隊員が数人おり、これを契機に野球チームを結成しようという気運が高まり、「野球を通じて警察と県民の交流及び親睦を深め、隊員相互の融和と団結を図り、体力、気力を練成し、もって警察活動各般の円滑な推進に寄与する」ことを目的に、昭和四十六年四月に機動隊野球チームとして結成の第一歩を踏み出した。



右上から、山岸正人、太田代純孝、佐々木正夫、十和田信夫、千葉俊夫、左上から、千葉由美子、千葉巍広、千葉典子、室山明、室山正子のみなさん。

最後までプレイする

警備部機動隊　山岸正人

結成以来、九年という月日の中で多くの先輩が転勤し、結成当時の部員は、数人しか残っていないけれども、先輩から引き継いだチームカラーは、現在の野球部員にも脈々と生きている。機動隊員としての誇りと礼節を重んじ、最後まで一生懸命プレイすることを主眼とし、結成当時から打撃のチームとしてその集中的破壊力は、相手チームを圧倒する最大の武器となっている。当隊のチームは、守備面に若干の不安はあるものの、スイッチヒッターのリードオフマン、長打のクリーンアップ、小技の下位打線と、どこからでも点を取れるラインアップで、特に、速球派投手には、絶対の自信をもっている打撃のチームである。

チーム結成から、年間平均二四試合位を消化し、平均勝率六割という戦績である。ちなみに今年の戦績は、一八試合で一〇勝七敗一分けと、試合数は少なかったが、チーム打率三割六分六厘、本塁打六本、総得点数九四点であった。反省してみると、守備面等まだまだ課題の多いチームではあるが、機動隊の勤務に支障をきたさないよう、目的に向かって続けていこうと部員一同早くも来シーズンに思いをはせている。

代打の夫

千葉俊夫の妻　千葉由美子

私の夫は、若くはないのですが、機動隊チームの野球選手？として、朝夕、がんばっています。技術、年齢の面でおとろえが目立ち、補欠の補欠です。でも本人は、「おれは打撃がいいから、まだ代打で使えるよ」と気にしません。しかし、過日の試合を見にいった時、頼みの代打で三振！　チームの雰囲気には、ブレーキ的存在で気の毒でなりません。

それでも本人は、ひとつも気にせず、短い岩手のシーズンを楽しみながら今日も練習をしています。

夫と野球

千葉巍広の妻　千葉　典子

「おれの野球は、一振り人生」等といって笑わせている夫は、大の野球好きです。私は野球オンチなのでどういう意味かわかりませんでした。聞くところによりますと、もっぱら代打ということなそうです（最近までは、自分が、チームの主力だなどといっていたのですが）。でも、野球をしているときの夫はとても楽しそうです。

そんな夫に、「家庭サービスも」なんてとても言いだせません。甘いんでしょうか。

夫のクラブ活動

室山明の妻　室山　正子

夫は、機動隊の中で野球クラブに入っています。子どもも二人になり、まだヨチヨチ歩きの長男に「野球を教えてやるよ」とはりきっています。それに、機動隊の中の野球だけではもの足りないのか朝野球にも参加し、朝早く起きて出かけていきます。

精神的にも肉体的にも、三〇代、四〇代といつまでも続けてほしいものだと思います。

チームワーク

太田代純孝

私は、野球が好きで中学・高校と続けてきた。そして、今、職場で野球をしている。学校のころは、勝つことばかりを考えて試合をしていたが、今は、機動隊の仕事で必要な融和・団結そしてチームワーク作りを中心に先輩と一緒に練習に励んでいる。試合をするからには勝つことも必要とは思うが、勝敗だけにこだわることなく、チームワーク作りのため、楽しく続けていきたいと思っている。

エースの心理

佐々木正夫

先発・完投・リリーフとすべての役割を受け持つ私は、直球だけだが、各チームの打者が打てないところを見ると、けっこう使える投手と一人で思い込んでいる。

今年の収穫は、「投手だけでは野球はできない」ということが理解できたこと。「融和」、「団結」の重大さという教訓を来季に生かすよう今日も練習に励む私である。

心構えと抱負

十和田信夫

私が、野球を始めたのは高校へ入学してからである。

当時、真夏の厳しい練習の時など、顔から出た汗を水がわりになめながら、白球を追った青春時代が思い出される。

現在、機動隊のクラブ活動として野球を続けているが、高校時代の厳しさはないものの、融和、団結のため、体力練成の一環として参加し、全力を尽くすことをモットーに頑張っている。

沖縄県警察機動隊

プロフィール

沖縄県警察機動隊にボディビルが発足したのは、昭和五十年五月である。正式にクラブが発足するまでは、ボディビル愛好者五名が各々バーベルを使っての自主トレーニングと、柔剣道の特練要員が補助運動としてウエイトトレーニングをする程度であったが、機動隊の新庁舎が落成したのを機会に、娯楽室の一部をボディビルクラブ室として使用し、隊員の体力、気力の向上を図り、忍耐力を培い、職務に寄与する目的でボディビルクラブを発足させることになり、会員を募集したところ、七二名の会員が集まったので、厚生課から支給されたクラブ活動費と会員が出し合った一人五〇〇円の会費で器具を揃え、正式に機動隊ボディビルクラブとして発足し、毎日午後五時以降、同じ体力の者がペアを組みトレーニングをし、体力の増進に励んでいる。

筋力を鍛える

訓練係警部補　山川宗公

機動隊ボディビルクラブからは、これまでパワーリフティング選手権、あるいはミスターコンテスト等あらゆる大会に出場して数々の入賞者を出しているが、その一部を紹介すると、昭和五十二年、東京で開催されたパワーリフティング日本選手権ヘビー級において大城俊文選手が優勝、昭和五十二年ミスター沖縄コンテストにおいて町田茂選手が第四位、根原正明選手が第五位、昭和五十二年、五十三年パワーリフティング沖縄大会において清田治選手がフェザー級連続優勝と優秀な成績をおさめており、パワーリフティングヘビー級日本記録保持者で、世界大会第五位の中村昌英選手も、機動隊ボディビルクラブのOBであり、その他にも多数の選手が上位入賞を記録している。

機動隊ボディビルクラブの特徴点は、同一職場の気心の合った者同志が一緒に運動できること、キャリアがあり現役選手の指導で気軽に練習できるが、実力行使をする機会の多い機動隊員にとって、最も魅力ある特徴点は、筋力を鍛え体力をつけることによって自信をもって職務の執行ができることである。

右から、山川宗公、大久民夫、内原清、根原正明ボディビルクラブのみなさん

融和と団結

庶務係巡査　大久民夫

沖縄県警察機動隊に、ボディビルクラブが発足したのは、昭和五十年五月でわずか四年余の短期間であるが、人事異動に伴うクラブ員の増減も多く、指導者確保に困った時期もあった。しかし、他のクラブ員とともに、諸先輩方の指導を仰ぎながら基礎体力づくりに毎日余念のない鍛練を行っている。隊員間の融和と団結を保ち、職務に自信と誇りをもって当たることができるよう、これからも継続してやっていきたい。

基礎体力の増進

訓練係巡査部長　内原　清

私は、現在訓練係として警備訓練及び機能別部隊訓練等を中心とした仕事に従事している。これらの仕事はいずれも体力を必要とすることから、ボディビルにより基礎体力の増進を図るため、執務の余暇は率先してボディビルの訓練に励んでいる。

今後、リーダーとなり隊員間にもボディビルを奨励し基礎体力の増強に努め、お互い切磋琢磨し、隊訓である「剛健、優美、協和」の精神を培い、治安の担い手として全国の警友とともに躍進する覚悟である。

鍛練に努める

庶務係巡査部長　根原正明

警察官は、まずなによりも心身ともに頑健でなければ、如何なる職務執行においても、満足のいく成果をおさめることはできない。痩細った弱々しい体の私であったが、先輩方の勧めもあり、ボディビルを始めた。勤務終了後の約一時間、毎日のようにトレーニングを欠かさず、鍛練に努めている。おかげで弱弱しかった体も体調もよくなり、人並み以上の体に変身させることができた。

東西

「駈け足でセネガルへ」を目標としたランニングに対するは、青い空のもとで白球を追うテニスである。香川県警察機動隊と福島県警察機動隊。きょうも汗を流して根性作りに励む。鍛えあげた気力と体力は、鎮めの先駆としてわれわれの平和を守る。

香川県警察機動隊

香川のランニングVS福島のテニス

プロフィール

「駈け足で、セネガルへ」は、昭和五十一年八月、当時の長谷川清隊長以下三八名の全隊員が、同隊から国際交流基金の協力でセネガル共和国に、二年間の両国親善、文化事業発展のために柔道指導に派遣された鷹居巡査部長のいるセネガルまで行こうと隊員の基礎体力、気力の向上を兼ねて、発足したものである。

同隊は、瀬戸内海に面し、東は源平合戦の屋島、南は天下の名園栗林公園等を望める高松市郷東町に位置しており、隊舎の周囲には約三キロメートルの公道、農道、海岸があり駈け足トレーニングにとっては、最適の環境である。

同隊は、警備実施の中核であるとともに、柔道、剣道、けん銃等の基幹要員として、入隊している者がほとんどを占めている現状であるところから、基礎体力は、〝駈け足で〟と意見が全員一致し、日々の日課の過程で、あるいは全暇等を利用して駈け足トレーニングを始めたものである。

隊長自ら率先、駈け足を行うことから自然に隊員も熱が入り、雨風は勿論のこと、雪の日も休むことなく地球の全周、四〇〇七六・六キロメートルの半周を目標に掲げ、各人ごとに記録をとらせてのトレーニングが積み重ねられた。

基礎体力は駈け足で

警備補　坂口忠勝

目標の二年間に、二万キロを走破すると口に出すことはたやすいが、なかなかどうして、台湾はおろか、そうたやすく目的地につくことはできない苦しい状態が続いた。例えば、五十一年、県下にもたらした未曾有ともいうべき台風一七号による死者四九名にのぼる被災者の救出等の出動さらには相次ぐ成田警備出動等がそれである。

そのため、これが解消策として、トレーニング帽が揃えられた。帽章を、金、銀、赤、無、印等四種類にランク分けを行い、一周十分以内は金色、十分以上十一分以内は銀色、十一分以上十五分以内は赤色、十五分以上は無印としたほか、帽章の図柄も隊員からアンケートをとるなど士気を鼓舞しながら、トレーニングを重ねた結果、目標とした二万キロを二年間で走破したものである。

本訓練の結果、隊員内にライバル意識による個人記録、あるいは自己の限界への挑戦等がはかられ、各個人の気力、体力、根性、忍耐等が培われると同時に、人間関係がより一層良好となった。今後も我が隊の隊訓である、「和」「明」「強」を基に「基礎体力は駈け足で」を合い言葉に邁進する覚悟である。

体で覚えよ、汗流せ

巡査部長　山下泰生

私は、現在の機動隊に入隊して今年でちょうど十年目を迎える。その間、先輩から「すべては体で覚えよ」といわれ続けた。機動隊員は理論家でない。連日命を賭けて戦う警備実施、柔道に勝つには、まず走れ、汗を流せ、涙を流せ等々……。しかし、いざ実践となるとついついおっくうになるのが人の常である。

「走るぞ」今日も〃　勝負に勝つために重い足をひきずって。

いざ出発〃

山下泰生の妻　山下　洋子

今でこそもう慣れましたが、毎年の成田空港警備、柔道の合宿訓練等で留守がちな毎日、ほんとうに大変だろうと思います。家に帰れば朝早くから起きて、眠そうな目をこすりながら、駈け足訓練に励んでいるようです。心の中で「ご苦労さんご苦労さん」と思っても、何の役にも立てません。「ガンバレお父さん」

気力、体力、根性

巡査部長　奴賀泰治

私は、現在柔道の特練生として、毎日練習に励んでいるが、柔道における絞技又は寝技で上から抑えられたときの苦しさは、かけ足で疲れが出て体力の限界に近づいたときと、よく似た状態である。

しかし、私自身、柔道とかけ足で鍛えあげた気力と根性で、これを乗り越えるためにかけ足を続け、基礎体力の向上に努めている。

福島県警察機動隊

プロフィール

福島県警察機動隊のテニスクラブは昭和四十九年四月発足した。発足時、会員は一一名で、用具をそろえる程度であった。毎年、県本部厚生課より配分されたクラブ助成金で用具もそろい、部員も増加し、今年の会員数は二九名で、隊クラブの中では最大のクラブである。五十四年より軟式を硬式に変え、猛練習を重ねている。毎年二回程度の例会で会員相互の親睦を深めている。

特　徴

テニスクラブ会員は、独身隊員が多く、今年、部外講師を招聘したあとは、めきめき技術が向上した。隊員の妹で、女子高校テニス部員が、数名の女子マネージャーとして、毎日ごろ楯を握っている大きな手にラケットを握ってはいるが、体力と腕力には自信のある部員ばかりで、ラケットが軽すぎる当然といわなければなるまい。若い隊員を中心にしたテニスクラブは、来年は颯爽と対外試合で勝ち進むに違いない。隊庭の立派なコートが泣かないように、期待や大である。

華麗なテニス

テニスクラブ会長　佐々木賢

〃華麗なテニス〃を合い言葉に、高生を引きつれて来隊した時は、めったに顔を出さぬ会員や、会員を装った隊員がコートを埋め、盛況であったと聞く。しろうと目にも、素質なしと思われる会員が、散見されるのも当隊テニス部の特徴である。

また、柔道部重量級の隊員がテニス部に関心を示さぬことも、のかボールがはるか彼方に飛んだり、また、買って一か月もしない硬式ボールが割れるほどのスマッシュを打つ者もおり、現在はパワーテニスになっている。そこで独身女性テニス経験者を招待し、華麗なテニスに向かって、部員一同大きな体で、右に左に、コートせましと汗を流している。

テニスの功罪

小留裕之

俗にいうテニスの功罪について思うところをお話しする。まず「功」から、第一に体力の増強、反射神経の鈍退防止、第二は隊員間相互の親睦、そして最後は、ストレス解消など……。

「罪」について、まず、夢中になって勉強が手につかないこと、次に、一生懸命プレイして翌日に疲れが残ること、最後に、もてすぎて困ること。もっともこの「罪」、本人はもとより、部員たちも、少しも「罪」とは思っていないようだが。

勇気づけられて

奴賀泰治夫人

私達が、郷東町の官舎で生活を始めて、五年の月日が過ぎています。その間、特に元気づけられたのがマラソンです。夏は照りつける太陽の下で、冬は寒い北風の吹く中を、元気よく、かけ声をかけて頑張っている主人の姿をみると、私自身いろいろなことに勇気づけられる気がいたします。これからも、ずっと夫自身も、私に対しても、大切なマラソンを続けてほしいと思います。

ランニングの効用

巡査部長　三野正二郎

当初は、一周三キロのコースが、どうにも苦痛であったものが、現在は、二周、三周といえども苦にならなくなった。

激務に耐える機動隊員にとっては、体力、気力が資本といえ、これを養うに、ランニングの効用である持久力、精神力、忍耐力が大いに役立っていると思う。

現在の香川県機にとって、このランニングは切りはなせないものと思う。

亭主のランニング

三野正二郎の妻　三野真里子

結婚時八〇キロ、現在八八キロ、これが我が亭主の体重です。ランニングをしながらこうなのですからあきれます。ランニングは痩せるのにいいといいますが、私の亭主については別のようです。しかし体重はふえても、体を動かすことは、体にマイナスにはならないと思います。

そういう私も結婚時より六キロも太ってしまいましたが、痩せなくとも、私も走ってみたいなアと思っているこの頃です。

積極果敢
治安の闘士

豊国興産㈱
㈶嘉悦学園
岡部㈱
光洋商事㈱
高周波熱錬㈱
市原澤次
高島浩一
西戸栄一
加納鉄鋼㈱
松田鉄鋼㈱
三菱商事㈱名古屋支社
副島遙
大和重工㈱
豊鋼材工業㈱
藤田金属㈱
㈱辻作次郎商店
中条鋼材㈱
柏陽鋼機㈱
東北鋼業㈱
仙台運送㈱
北海鋼機㈱

会員の広場

コンペトナー

米倉　國輔

ゴルフの際、同じ組でプレイする相手のことを、誰でも構わず「パートナー」と呼んでいるが、多くの場合これは誤りである。四人のうち二人ずつ組んで競技する場合は、味方である一人はパートナーだが、相手方の二人はコンペティターである。従って当然、個人戦においては自分以外の全ての参加者をコンペティターと呼ばなければならない――という話を、どこかで聞いたことがある。

ゴルフが競技である以上、たしかにその通りだろう。字引をみても「パートナー」の意味は、①共同者、社員、②配偶者、③遊戯などの味方、などが主なものである。

ところが、一緒に回った人達をコンペティターと呼ぶことも、何となく具合が悪そうだ。ゴルフ・コンペにつきもの〝優勝者御挨拶〟には、「良きパートナーに恵まれまして……」という言葉が不可欠になっている。いつからの慣習なのか分からないが、うっかりこの讃辞を忘れるようなものなら、「パートナーを忘れているぞ！」といった催促の茶々が入るほどである。

だが、よく考えてみると、パートナーに「恵まれた」というのは、不自然である。「味方に助けて貰った」と同じことだから、スコアのごまかしの片棒をかついで貰ったとか、いちいちコーチにあずかったとか、そんな感じがしないでもない。

しかし、そうかといって、コンペティターとかライバルとかと呼ぶのも、しっくりこない。「コンペティターに恵まれた」というと、下手な当面の敵と一緒だったからリラックス出来た……とか、敵さんのミスのおかげで……とか、もっとひどくいえばザマミロ！という皮肉にもとられかねない。〝我は讃えぬ彼の防備……〟と、旅順開城ステッセルの乃木大将を気取るにはあまりにも大げさだ。――いずれにせよ、厄介な話である。

では、どうすればよいか。いっそのこと優勝者の挨拶で、パートナーに言及するのを断固として止めてしまうか。……しかし、謙譲美徳の日本社会常識においては、折角御交際頂いた貴顕紳士諸公を蔑ろにするものと弾劾されかねないし、無礼者として以後除名される憂目に発展しては大ごとである。

では、こういってはどうだろう。「本日、同一組にて興を共にさせて頂きました皆様方は、いずれ劣らぬ素晴らしいプレイヤーでございまして、そのおかげで私もいささかの不快感を持つことなく、本来の力を発揮する場を与えられ、あまつさえ優勝の……」、いや、これもわざとらしい。

それならこの際いっそのこと、コンペトナーといった新語でも作るか。――。これも普及させるのにひと苦労だ。おまけに、あいつはパートナーという単純な言葉も覚えきらぬと誤解され、田舎野郎と軽蔑されては心外である。

どうにも困ったことだが……。次の優勝までにどなたかよいアドバイスを頂けないものだろうか。

新エコノミックアニマルの誕生

秋本敬次郎

わが国経済の高度成長を背景に国民の生活水準は著しく向上し、所得や消費ばかりでなく、社会資本の整備や健康の増進なども目ざましい改善がなされた。人々の暮らしも、このような好環境のなかで、平等化が進み、社会の大勢は中流意識階級層によって占められている。

しかし、四十八年に突発した石油ショックは、このような中流意識階級社会に様々な波紋を投じており、いまや人々の生活意識面で大きな変化の投影をうかがわせるものがある。

昭和三十七年、国民生活センターが二十代の人びとに十年後の自分の生活を聞いたところ、〝中流と予想する〟人が八三％と大半を占めていた。十年後の四十七年になって、三十代一つまり同じ人々に現状を質問したら、〝中流〟と答える人が八九％を占めており、まさに高度経済成長が、社会を支える中間層を育てあげてきたことが実証されたのである。

この調査は国民センターがおこなった結果報告だが、同じような調査結果が総理府でもおこなわれている。この〝国民生活に関する世論調査〟によると、自分の生活を中流と判断する人が八六％を占めていた。その後も毎年調査されているが、昨五十四年には実に九一％に達している。

さて、日本の社会構造はこのような中流意識をもった平等なしかも単一民族によってつくられており、これが日本の高度成長を支えたのである。

いま、世界経済は石油危機下で八〇年代を模索している。日本も同様であることは言うまでもない。

このような時代の流れにそって中流階層の生活意識も大いに変化しつつある。かつて高度成長時代の中間層は消費性向の高いことが特徴であった。物を買いこみ、どんどん消費することで上流階層に近づこうという上昇傾向が強かった。しかし、四十八年のオイル・ショックを転機に高度成長経済から低成長経済社会に移行するにともない、中間階層のこのような意識も大いに変わりつつあるようだ。

「これ以上物を買うまい」という買い控え、節約ムードが主流を占めつつある。というよりは物価の急上昇、所得の頭打ちが、彼等をこのような意識に追いこみつつあるというのが事実であろう。

新しい物を買おうとしない、これが低成長時代に適応した生き方であることは言うまでもないところだ。このようにオイルショックが生みだした節約型意識の人々を〝新中間層〟と呼ぶそうだ。

ところで新中間層意識が一般化するにつれて、消費が高まらなければ商売にならないメーカーや、デパートは厚い壁にぶつかることになる。新中間層の人達の購買意欲をうながすため、様々な努力と意欲的なPRが進められているが、かつて低流に流れていた物をより使い、より買いこむことでさらに高い階層へ近づこうとする達成意識が低迷していることから、その効果は期待されるほどの成果をあげていないようだ。

〝消費が美徳〟と謳われた時代も去って、無資源国の日本人は再び〝節約が美徳〟という本来の姿に帰ったようである。やはり日本人には節約が板についているようだ。浪費型のエコノミックアニマルで世界中の人々から鼻つまみにされるよりは、節約型のエコノミックアニマルで世界のお手本になってこそ、真の日本人と誇れるのではなかろうか。

シルバー協力隊

東京　F・A生

わが国はやがて老人大国になるそうだ。はやい話が年金の支給年齢が六十五歳に引きあげられようとしている。停年延長も六十歳から六十五歳へと延びる気運にあるが、その普及に先行して年金が六十五歳に延長されることには社会的にも大きな問題が残るであろう。

〝シルバー族〟という言葉が流行している。国電の老人優先席をシルバーシートと称したことからきているが、年々老人層が増え、しかも健康管理が進んで元気な老人が増え続けていることはたしかだ。幸せなことである。しかし、停年退職して、ぶらぶらと隠居生活を送るには、あまりにも元気すぎるのが一般的ではなかろうか。低成長下での再就職にも今後は多くの制約材料が山積しており、健康で労働意欲に燃える老人を――もっとも老人と呼んではいけないのだが――社会に参加させる道は険しいようである。

若者にはない豊富な知識や経験を積みかさねているこれらの元気な老人達を、ただ隠居させて置くのでは本人にとっても不幸なばかりでなく、社会にとっても貴重な資源を失うことになるのではないだろうか？

若者にはない長年の知識や経験の集積を何か有効に再活用する方法はないものだろうか。

私の知人に開業医がいた。彼は六十歳で思いきりよく医院を閉鎖し、船医になってしまった。

いま彼は貨客船の船医として七つの海を枕に伸びのびと第二の人生を送り、若き日の夢を現実につかんでいる。

彼の例にみるとおり、まだまだ元気に満ちた老人にふさわしい仕事は多いはずである。一例は日本の開発途上国を支援する海外青年協力隊だ。この協力隊は年齢を三十五歳までに制限している。ところが米国の平和部隊には年齢制限がない。

このへんの事情から、若者にはない知識や経験を開発途上国の援助に役立ててはどうかとの呼びかけが聞かれている。つまりシルバー協力隊の結成である。

世相雑感

東京　岩井　實

花の便りが、ちらほら聞かれる季節を迎え、道往く人の表情にも、なんとなく春の訪れが感じられるようになった。四季折々の変化に恵まれたこの国に生まれた事を、心から嬉しいと思うそんな季節でもある。

「国を愛する」などと言うと、若い世代から拒否反応を受けそうだが、自分が生まれ育った土地への愛着や、国を思う心は、人間誰しもが普遍的に抱いている感情だろう。こうした心を大切にはぐくんで、自然と人間との調和が巧みにはかられて始めて、われわれが住むこの社会が、本当に理想的なものになっていく筈である。

しかしながら、昨今の世相を見るに、必ずしも「豊かさ」が、本来のあるべき姿を呈しているとは言い難い。乏しい資源と国力を、自らの智恵と、驚くべき勤勉さによって、補い、飛躍的な発展を遂げてきたにもかかわらず、それが単に物質的な豊かさのみに限定されたため、環境破壊を始め、自然との調和を損う結果を招いた事は衆知の通りである。物質的な繁栄のかげに、精神的な糧をうっかり置き忘れてしまったのが、われわれ日本人だと言っても過言ではないだろう。

最近、紙面を賑わす青少年の自殺は、「豊かさ」の中の孤独と言われ、彼らにとって、人生は一縷の希望すらも見い出せない存在となっているし、また離婚率の激増などは、単なる世代の相違、価値感の変化だけでは済まされない問題であろう。

まして相次ぐ凶悪な犯罪などは、まさに精神の荒廃そのものと言って良い。こうした現象が、時代の風潮として、ますます深刻の度合いを増し、五年先、十年先の世相を形作るとしたら、誠に困ったものだ。

われわれには、未来に向けて解決していかなければならない問題が山積している。世界人類的課題である食糧問題、資源エネルギー対策、治安国防、国家民族間の調整等々。これらを将来どう展開し、如何に克服していくかは、未来学の立場からも種々考察がなされているが、究極には、この小さな地球上に生きているわれわれ一人一人が、今一度、原点に立ち帰って、自然と人間との調和がどうあるべきかを、自分自身、心に問いかけて見る必要があるのではないだろうか？

自分の生まれ故郷や、生まれた国、あるいは、宇宙という無限の空間にポッンとあるたった一つの地球に対して、だれもが持つ心情を、あらゆるものの考え方や行動の基本にできれば、必ずや解決の糸口が見い出せるものと思う。

日ごろ、治安を預かる機動隊の皆さんの御苦労には、心からの感謝の念を禁じ得ないが、今後の複雑な世相を考えるとき、その存在意義と、果たすべき社会的使命とは、はかり知れないものがある。したがって、国を愛し、平和な市民生活の安寧と秩序を願うすべての人々の輪を、もっともっと広げる事こそ、本当の意味での「はげまし」である事を忘れてはならない。